粤東天地会の組織と演劇

田仲一成

目次

序
一、シンガポール天地会会党の遺跡―峨嵋社公廟・五虎祠
二、道光咸豊間潮州会党事件とシンガポール天地会会党の関係
三、香港・南洋に残る天地会会党の遺風
四、天地会と演劇
結語

序

本稿は嘉慶―道光年間以来、広東省東部の潮州、恵州などの所謂広東福佬地区で活溌な活動を続けた「天地会」の影響が現在の香港、シンガポールなどの祭祀組織や祭祀演劇の中に今なお、何ほどかの痕跡を残していることに注意し、それらの僅かな痕跡を手掛りとして、明清間の郷村社会における秘密結社と演劇の関係の一端を窮おうとするものである。「天地会」は非常に大きな組織であり、その分派も非常に多いが、本稿では道光、咸豊以降、粤東の潮州、嘉応州、恵州から広州府の東莞、南海を中心に、遠く広西貴県方面にまで及んだ天地会の分派、三合会会党の活動の痕跡がシンガポール、香港などに散在することに注意し、清末から民国期にまで及んだ粤東天地会の組織活動と演劇との関係について概観したい。

一、シンガポールの天地会会党の遺跡―峨嵋社公廟・五虎祠

夙にシンガポール華僑史の研究に大きな功績を残した陳育崧氏が既に早く五十年も前に「厦門小刀会与新加坡」（『星洲日報半月刊』第四期上、一九三八年）において指摘したことであるが、シンガポール、東郊、ガラン河（Kalang）畔のラヴェンダー・ストリート（Lavender Street 勝朋拉街）に俗に「社公廟」、或は「五虎祠」と呼ばれる小祠があり、その中に八十数基の木製神位が奉祀されていて、その神位には「皇明義士」、「扶明義士」、「待明義

士」など、明らかに「滅満復明」を意味する語が刻されている。これらの神位は陳氏論文が出て四十五年を経た一九八三年に、筆者が訪れた時にも、風雨にさらされながらもなお健在であった。これについて陳氏は上記論文のあと自説を訂正した新論文「新加坡開埠元勲曹亜珠攷」(『南洋商報』一九七〇年一月一日)において二つの点を分析している。第一の点は、これらの多数の神位群の中で、『祧基義士号符義曹府君神位』と記す神位が、シンガポール開埠の元勲、曹亜珠のものであるという主張である。曹亜珠(又は亜志とも書く)なる人物は、洪錦棠、陳育崧両氏の研究によると、台山県出身の木匠で、一八一九年二月六日に英人ラッフルズがシンガポール島に上陸するに当り、その先鋒となり、その上陸を成功に導いたシンガポール開埠の功労者であると云われている。陳氏の論文は、洪錦棠氏の考証のあとを承けて、この人物は次のように把えている。

1　曹亜志は上陸先導の功によって当時まだ叢林地帯であったKalang河畔の一区域を与えられ、これによって木材伐採や左官業などを営んだらしい。(1)

2　彼は一八二二年(道光二年)に同郷の寧陽県人の会館として『寧陽会館』をシンガポールの中心部、大坡の大馬路一三五号の地に建設した。(2)

3　彼は右の『寧陽会館』とは別に、自らと同姓の曹姓の人の合同宗親会祠として、Kalang河畔の根拠地ラヴェンダー・ストリートに『曹家館』を建設した。『曹家館』は彼の死後に『曹府大公司』と改称した。またその建物は咸豊三年(一八五三年)に改建されているが、曹亜志在世中一八三〇年以前にその前身が設立されたものと推定される。(3)

4　彼は、天地会系結社たる『義興公司』を創設した外、その会員を祀る義祠として、Kalang河畔の『曹家館』の前に『社公廟』(五虎祠)を設置した。(4)

右の諸点は、大むね洪錦棠氏が明らかにしたものであるが、陳育崧氏は、上掲論文において更に詳しく右の諸点を

検討し確認した上で、社公廟（五虎祠）内の前掲の一神位が、曹亜志本人のものであることを主張したのである。その立論の根拠は次の通りである。

1　曹氏一族の総墳は、一九〇六年に青山亭から緑野亭に遷り、一九五七年に緑野亭より碧山亭に遷り、現在、碧山亭第三亭通称「坡字山」の中に、朱氏、甄氏、陳氏などの総墳と共に設置されている。曹氏総墳の左方には、非常に完備した比較的大きい独立の墓があり、表面に「皇清顕祖考符義曹公坟墓、道光十一年歳次辛卯春建、一九五二年七月八日星州曹家館重修」の文字が刻されている。墓石にはセメントで作った横額がはめこまれていて、「曹公諱志之墓」と鐫されている。これは曹氏の族人が曹亜志と曹符義を同一人物と認めている証拠となる。(5)

2　社公廟（五虎祠）内の「姚基義士号符義曹府君神位」の内部には一九五二年に挿入したらしい黄紙があり、これにペンで次のように書かれている。「曹亜志（?）乾隆壬寅年三月二十七日生まれ、台山県端芬区那泰村の人、嘉慶二十四年一八一九年一月卅日、三十六才、本坡に登陸し、一八一九年六日〔?〕、英人の統治に帰せしむ。道光庚寅〔辛卯?〕年、十一年三月廿六日、四十八才、逝世す、一八三一年なり」。(6)

3　社公廟内神位群のうち、「創建功勲諱号符成才富曹府君神位」とある曹符成は、曹符義と兄弟輩行の関係にあるものと見られる。碧山亭の曹氏総墳の墓碑にも「曹公符成附葬の妻叫了氏」とある。(7)

4　社公廟神位群の称号は、台湾の明鄭成功政権の職官と比較し得る点がある。天地会の組織は鄭成功の反清復明運動と密接な関係があり、東南アジア各地の義興公司ともつながっている。(8)

5　曹家館、社公廟のあるRochore（梧槽）という地名も天地会の創設者たる「五祖」の転音仮借である可能性が強い。(9)

以上が陳氏の考証の要点であり、要するに社公廟内の神位群が台湾鄭成功の流れをくむ天地会系義興公司の会員のもので、英人上陸の先鋒、シンガポール開埠の元勲とされる曹亜志が他ならぬこのグループの首領であったことを主

張しているわけである。但し、曹亜志と曹符義或は曹亜珠とを同一人とする陳氏の説（志と珠は台山方言で同音と主張）は、なお確証を得ているとは言い難く、呉華氏もその『新加坡華族会館志』（シンガポール南洋学会・一九七五年）第二冊〈曹家館〉の条において陳氏説に疑問をはさんでいる。[10] これらは一九五五年から七五年にかけての議論で、その後、十五年の歳月を経た現在、陳説を補強するに足るような新資料も出現せず、問題は残ったままになっていると言える。

一方、この曹亜志、曹符義同定問題とは別に、社公廟神位群と天地会系結社、義興公司との関係についても、大筋の関係は疑いないにしても、細部の点は不明確な面を残している。陳育崧氏は上掲一九七〇年論文において、台湾鄭成功との関係を提起しているが、これに先だつ一九三八年論文「厦門小刀会与新加坡」（『星洲日報』半月刊第四期）[11] においては、この社公廟五虎祠の神位群の主が咸豊四年、福建厦門で起った小刀会の事件で、新加坡に脱出した残党のものという推定をしていた。陳氏はその後その者『新加坡史話』（一九五　）において、この説を「牽強」、「不無冒失」として否定し、[12] 新たに鄭成功との関係を提起したのである。ただ鄭成功グループとの関係といっても明確な証拠を出しているわけではなく、結局、漠然と天地会系グループとの関係を想定しているにすぎない。従って、明朝への帰属意識を強く表明している社公廟神位群の実態、特に天地会のどのグループの、いつの活動に関係をもっていたのか、という具体的な問題は相変らず不明確のままになっていると言ってよい。以下では、この点について、分析を試みてみよう。

(一)　社公廟五虎祠神主の裏面文字

先ず、一九八二年、筆者がこの社公廟（五虎祠）を訪れた時点での、この廟内の状況、神位配列の状況をみてみよ

う。

先ず、シンガポール小坡地区、梧槽、ラヴェンダー・ストリートには、上記文献にしばしば登場する『曹家館』の姿は既にないが（一九七四年の道路拡張工事のためにとりこわされたという）、問題の「社公廟」は、廃屋に近い荒廃の姿ながら、一九八二年現在なお、Lavender Street 門牌四八号の地址に健在であり、廟祝黄鴻泰氏の管理の下で、その命脈を保っている（図1・写真1）。筆者は一九八二年一〇月二一日から二五日に至る五日間、同廟を連日訪問し、黄氏の好意により、右の八十余基（実在は七十五基のみ）の神位をそれぞれ開いて中の文字を精査することができたが、その結果、この神位群の人物は、殆んどすべて潮州、海陽県（潮安県）人、澄海県人、又は揭陽県人であって、予期に反して曹氏の同郷人たるべき台山県人、或は四邑人、更には陳育崧氏がかつて想定した厦門人は一人も見出し得なかった。この点は、従来のこの資料の紹介者達が陳氏を含めて殆んど注目していない点なので、今ここに、筆録した神位の表面及び内部の文字をすべて列記してみる。

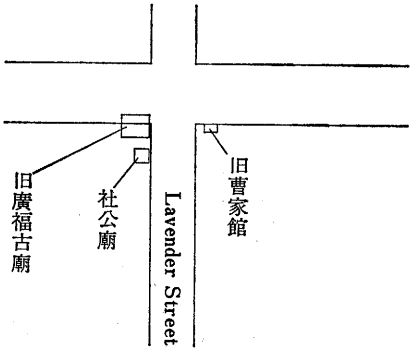

図1　社公廟地址

社公廟の内部の配置は、図2、写真2・3に示すごとくであるが、神位群は、祭壇に七列に排列され、特にその上部を占める五列（A・B・C・D・E列）に、道光、咸豊間の古い神位群が埃をかぶったまま置かれている。以下、各列に分けて、排列の順に記す。（　）内は神位の内部の文字を示す（写真4）。〔　〕内は筆者の補記。

A列

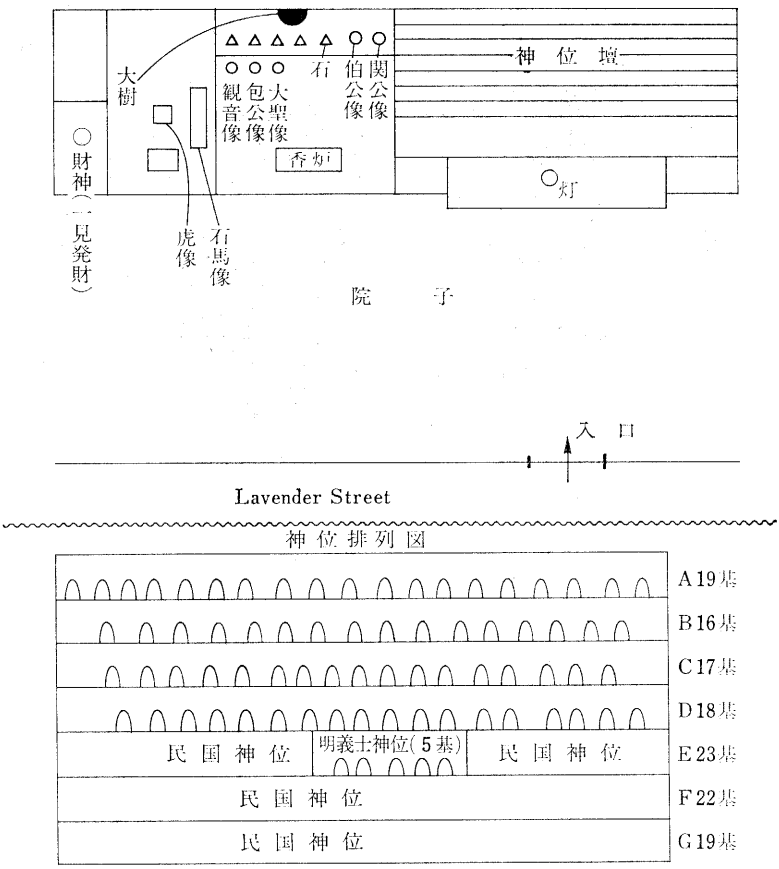

図2　社公廟内部平面図，神位排列図

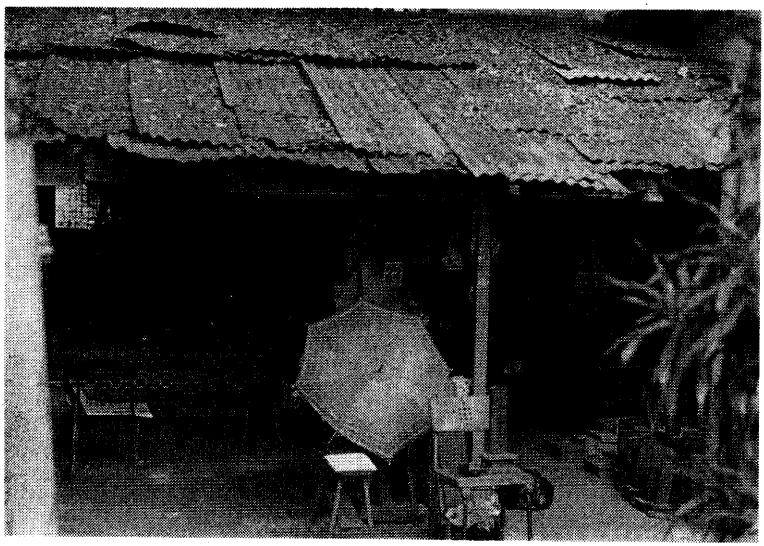

写真１　社公廟外観

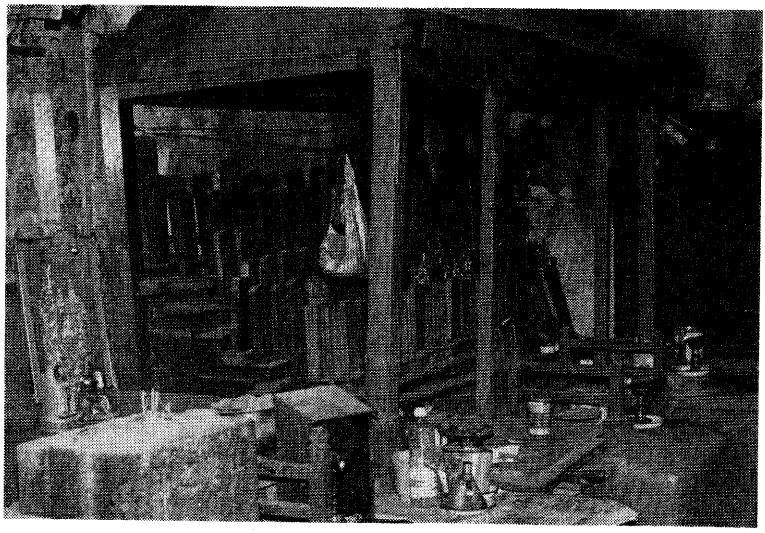

写真２　社公廟神龕

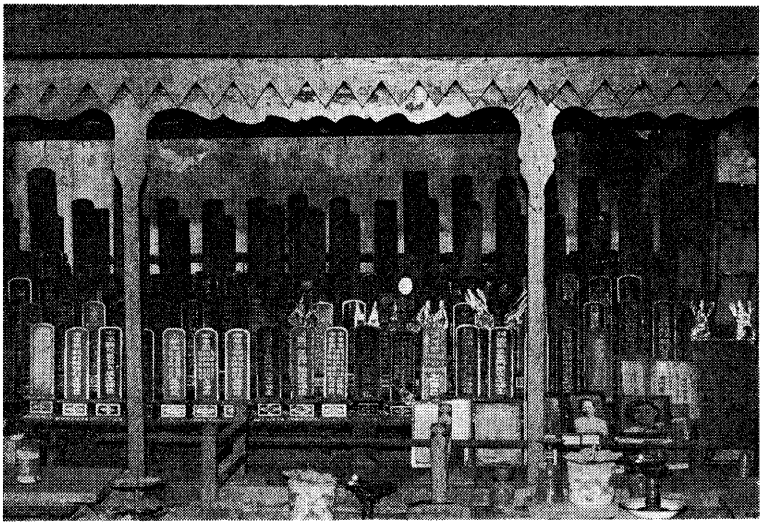

写真3　社公廟内神位

写真4　神　位　列

1　明恩義士 諱沢遠李府君禄位（生于天運戊子年□月初五日巳時、世居広東潮郡澄邑蓬州都烏汀郷）〔道光八年（一八二八）生〕〔□□□年（一八□□）卒〕

2　楽明義士 諱領 号雲侯陳公府君之神位（内部に文字なし。）

3　皇明義士 諱連校呉府君神位（世居広東潮郡海邑上埔都彩塘市）

4　志明義士 諱阿貴 字紫光呉公府君神位（内部に文字なし。）

5　待明義士 諱名教曽府君神位（内部に文字なし。）

6　教鐸義士 諱美生簡府君神位（享寿五十有二才、終于道光二十五年五月二十八日亥年）〔乾隆五九年（一七九四）生〕〔道光二五年（一八四五）卒〕

7　創建功勲 諱姚蘭瑞才富梅府君神位（内部開くことを得ず。）

8　扶明護衛将軍 諱阿細 諡作宏鍾府君神位（鍾公阿細生於天運辛酉年、終於戊午年八月初三日、天運辛酉年二月念六甲申日立。）〔嘉慶六年（一八〇一）生〕〔咸豊八年（一八五八）卒〕〔咸豊一一年（一八六一）建立〕

9　祧基義士 号符義曹府君神位（文字あるも読めず。）〔乾隆四七年（一七八二）生〕〔道光一一年（一八三一）卒〕

10　誅寇義士 諱輝郁先鋒陳公府君神主位（文字なし。）（写真5）

11　復明義士 諡蘭芳 号戊芝許府君之神位（開き得ず。）

12　創建功勲 諱号符成才富曹府君神主位（生于嘉慶二年十二月十二日亥時、終于咸豊五年八月廿五日子時大吉、天運九年正月廿五日吉日立。）〔嘉慶二年（一七九七）生〕〔咸豊六年（一八五六）卒〕〔咸豊九年（一八五九）建立〕

13　候明義士 諱陳来盛府君之神位（文字なし。）

14　祧基義士 諱安 字慶聯麦公府君神位（咸豊九年卒、七十三才。）〔乾隆五二年（一七八七）生〕〔咸豊九年（一八五九）卒〕

15 待明義士 諱壮彝 謚宣敏韓府君之神位（生于天運壬午年八月十四日、卒于天運戊辰年二月十八日。）〔道光二年（一八二二）生 同治七年（一八六八）卒〕

16 忠烈義士 号崑崗陳府君神位（文字なし。）

17 卓立義士輝亭陳府君神位（文字なし。）

18 神位文字不明（開拆不能）

19 神位文字不明（開拆不能）

B列

20 皇明義士 謚文炳 字自豊趙府君神主位（開拆不能）

21 志〔思？〕明義士 謚文蔚 号賢奕曽府君之神位（住居広東省潮州府海陽県上莆都驪塘郷、生於乾隆壬子年拾月初七日申時降誕、終於咸豊癸丑年正月拾三日亥時正寢、吉穴葬南夷嘘叻泰山亭□紅毛厝百余歩。）〔乾隆五七年（一七九一）生 咸豊三年（一八五三）卒〕

22 誅寇車騎先鋒鄭六府君神位（文字なし。）

23 卓立義士 諱声実 謚称宏陳府君之神位（生

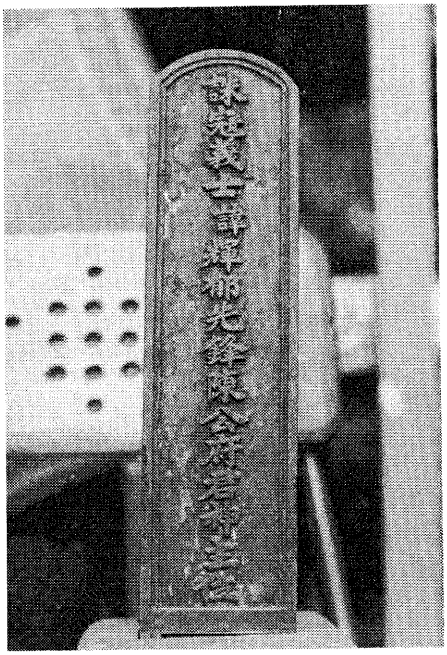

写真5　神位表面

於天運丁酉年十月廿一日寅時、終于天運甲子年二月廿七日寅時、享寿七十五才、世居広東潮郡海邑竜溪都。）

〔乾隆五六年（一七九〇）生　同治三年（一八六四）卒〕

24　皇明義士　諱□□敦琠黄府君之神位（開拆不能）

25　皇明義士　諱応科陳府君神位（生於壬午正月初八日巳時、終於庚午年七月初六日申時、享寿四拾有九歳、世居広東潮郡海邑竜溪都茂隴〔竜〕郷二巷内。）

〔道光二年（一八二二）生　同治九年（一八七〇）卒〕

26　皇明義士　諡純睦　号馨華　諱族昌張府君之神位（文字なし。）

27　皇明義士　諡剛毅　諱秤長李府君之神位（文字なし。）

28　明贈義士　諱欽元黄府君禄位（生于天運丙戌年正月十八日丑時、享寿不明、世居広東潮郡海邑江東都独樹郷）

〔道光六年（一八二六）生　□□年（一八□□）卒〕

29　皇明義士　諡敦毅　号習英　諡其員先生梁府君神位（文字なし。）

30　明贈義士　号亜泰林府君禄位（生于天運癸未年三月廿六日辰時、終于天運辛巳年九月廿一日申時、享寿五十九

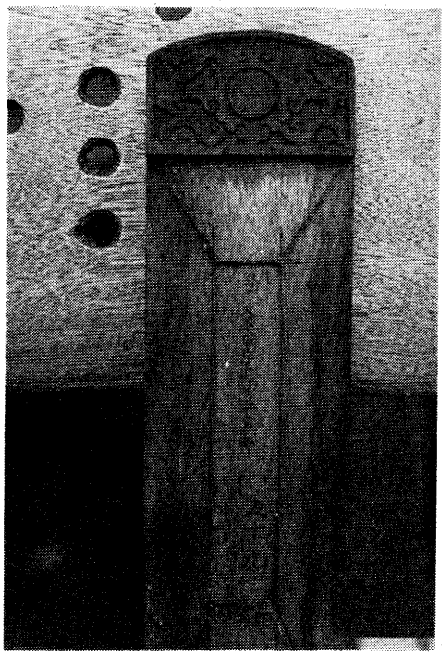

写真6　神位内部

才、世居広東潮郡澄邑蕚浦都月埔儒林郷。〔道光三年（一八二三）生／光緒七年（一八八一）卒〕（真写6）

31 皇明義士 諱徳財陳府君神位（生卒不明、四十二才、世居広東潮郡澄邑履露湖蘆市。）

32 明勲義士 号文塢劉府君禄位（終于天運壬申年四月廿四日、享寿六十有九才、世居潮郡揭邑。）〔嘉慶九年（一八〇四）生／同治一一年（一八七二）卒〕

33 待明義士 諱如璞楊府君神主（文字なし。）

34 候明義士 諱乙卯呉府君神位（広東潮郡海邑上埔都彩塘市。）

35 明賜義士 諱其然楊府君禄位（文字なし。）

C列

36 候明義士 諱盧惜 謚殿定陳府君之神位（寿七十九才、世居広東潮州府海陽県陳里郷）

37 皇明義士 諱子炅呉府君之神位（生於天運戊辰年八月十五日未時、終於天運庚申年五月初五日子時、享寿五拾有一〔三〕才、世居広東潮郡饒邑深村。）〔嘉慶一三年（一八〇八）生／咸豊一〇年（一八六〇）卒〕

38 皇明義士 諱永定郭府君神位（文字なし。）

39 皇明義士 謚篤志 諱万元 字連□、李府君禄位（文字なし。）

40 皇明義士 諱登道張府君神位（文字なし。）

41 明恩義士 号学文 諱紅記陳府君之神位（生於天運癸酉年□月□日、終於天運丙寅年十二月十四日、享寿五拾有四才。世居広東潮郡澄邑蓬州都所内。）〔嘉慶一八年（一八一三）生／同治五年（一八六六）卒〕

42 候明義士 号上超 字宗賢先鋒卓府君之禄位（文字なし。）

43 皇明義士諱嘉利陳府君神位（南桂都、辛未年拾月二十四日申時。）〔嘉慶一六年（一八一一）生？か　同治一〇年（一八七一）卒？〕

44 皇明義士諱沛黄府君禄位（生于天運乙酉年九月廿四日、世居広東潮郡海邑上埔都新華橋郷。）〔道光五年（一八二五）生　□□□年（一八□□）卒〕

45 明勲義士諱長茂蔡府君禄位（世居広東潮郡潮陽県達豪埠。）

46 輔明義士諱意寧李府君禄位（原籍、福建台湾府嘉義県向鬚公潭保五間厝庄人、生于大英一八一七年歳次戊寅正月初八日辰時。天運辛未年三月初五日、即大英一八七一年吉立。）〔嘉慶二三年（一八一七）生　同治一〇年（一八七一）卒〕

47 輔明義士諱源国蘇府君禄位（文字なし。）

48 候明義士諱御勝許府君神主（仙命生於乙亥年十一月初六日亥時、帰終於丙子年正月初十日子時、陸府）〔嘉慶二〇年（一八一五）生　同治六年（一八七六）卒〕

49 扶明義士諱睦毅諱碧亭炳綬余府君禄位（文字なし。）

50 候明義士諱乙卯呉府君神位（文字なし。）

51 明賜義士諱其然楊府君禄位（文字なし。）

52 待明義士諱如璞楊府君神主（文字なし。）

D列

53 祧基義士諱旭進諱瑞宗鄧府君神主位（生于戊午年五月十九日未時、終于庚申年八月十四日酉時、大吉昌、天運九年正月廿五日建立。）〔乾隆三年（一七三八）生　嘉慶五年（一八〇〇）卒　咸豊九年（一八五九）建立〕

54 明贈義士号大総理錫禧阮府君禄位（文字なし。）

55 創建功勲諱阿敬何公之神主（天運辛酉年二月念六甲申日立。）〔咸豊一一年（一八六一）建〕

56 明賜義士号如玉盧府君神位（開拆不能）

57 明勲義士諱勉旺余府君禄位（世居広東潮郡澄邑蕚浦都月埔郷。）

58 皇明義士諱孝徳林府君禄位（文字なし。）

59 明賜義士号国香許府君禄位（天運生于己卯年八月初十日午時、終于癸酉年九月廿六日子時、享寿五十有五才、世居海邑閣州郷〔登隆郡〕）〔嘉慶二四年（一八一九）生、同治一二年（一八七三）卒〕

60 候明義士諱開順号貞国陳府君之神主（生於天運癸亥年十一月初一日申時、終於天運丁巳年正月初六月卯時、享寿五拾有七才、世居広東潮郡海邑南桂都東鳳郷。）〔嘉慶八年（一八〇三）生、咸豊七年（一八五七）卒〕

61 抜萃義士号錦惜陳府君神位（文字なし。）

62 明賜義士号大進沈府君禄位（世居広東潮郡海邑……）

63 教鐸義士諱頭先生号錫盔郭府君禄位（生於天運癸亥七月十三日亥時、終於天運辛未年十二月二十日戌時、享寿六十九才、世居広東潮郡海邑竜溪都鳳鄔郷。）〔嘉慶八年（一八〇三）生、同治一〇年（一八七一）卒〕

64 皇明義士号天曜王府君神主（文字なし。）

65 皇明義士諱開先楊府君神主（生卒年を記す文字あるも判読不能）

66 皇明義士号誠桿沈府君神主（生於嘉慶□年□月□日□時、終於咸豊辛酉十月初一日申時。）〔嘉慶□年（一七九□）生、咸豊一一年（一八六一）卒〕

67 明勲義士号立成劉府君神位（世居広東潮郡海邑……）

68 皇明義士諱其亭郭府君神主（文字なし。）

69 明恩義士諱景山鄭府君禄位（開拆不能）

70　恩勲義士　諱典生范府君神位（開拆不能）

E列

71　皇明義士　諱必蟾陳府君神位（文字なし。）

72　候明義士　諡睦群　号臨江　諱贈湧余府君之神位（文字なし。）

73　候明義士　諱如坤洪公府君神主（生於癸未年拾弐月拾四日、終於己巳年拾弐月念玖日、世居於塘山澄邑呉溝橋、葬於太山亭、坐東南向西北。）〔道光三年（一八二三）生　同治八年（一八六九）卒〕

74　皇明義士　諱起豊陳府君禄位（生於道光乙酉年六月廿九日卯時生、卒於光緒丁丑年二月初七日未時已。）〔道光五年（一八二五）生　光緒三年（一八七七）卒〕

75　明贈義士　諡順喜呉府君禄位（世居広東潮郡海邑上埔都彩塘市。）

右の七五基の神位群は上の列にあるものほど古く、下に行くほど新らしくなる筈であるが、筆者が調査した時点では、上列のA列、B列までは原位置を保っているらしく見えたが、C列―D列―E列の三列ではかなり原位置から移動したものが多く、排列に乱れがある。ただし、最下段三列のFG列、及びE列の両側は何れも民国以降のもので、大筋では古いものが上の列に、新らしいものが下の列に並んでいる（但し、乱れもある）。

以下、この神位群の記載内容を分析してみる。

先ず、これらの神位群の時代の巾を検討してみる。神位の主の生卒年月日は、乾隆、嘉慶、道光、咸豊、光緒など清朝の年号を用いているものが若干あるが、大半は、「天運」の号を用いるか、単に干支を用いている。「天運」は、

天地会会党の用いる年号であり、これらの神位群が「滅満復明」の称号を戴くことと並んで、天地会系の人々であることを示すものである。これらのうち生卒年の記載あるもの二十七基を生年順に排列すると次のごとくである。

第一表　社公廟神位生卒年分布表（称号欄の小数字は前掲排列番号）

称号	氏名	籍貫	生年	卒年	備考
1 祧基義士 53	鄧旭進（号瑞宗）		戊午年（一七三八）	庚旧年（一八〇〇）	天運八年立（一八六二） *は陳育崧論文による
2 祧基義士 9	曹符義		*乾隆壬寅（一七八二）	*道光庚寅??（一八三一）	
3 祧基義士 14	麦安（字慶聯）		〔乾隆五二（一七八七）〕	咸豊九年（一八五九）	〔　〕内は卒年より推定（七十三才）
4 卓立義士 23	陳声実（諡称宏）	潮州海陽県竜渓都	天運丁酉（一七九〇）	天運甲子（一八六四）	
5 志明義士 21	曽文蔚（号賢奕）	潮州海陽県上甫都驪埔郷	乾隆壬子（一七九一）	咸豊癸丑（一八五三）	泰山亭に葬る
6 皇明義士 66	沈□□（号誠桿）		嘉慶□□（一七九?）	咸豊辛丑（一八六一）	
7 教鐸義士 6	簡美生		〔乾隆五九（一七九四）〕	道光二五年（一八四五）	〔　〕内推定 享年五二才
8 創建功勲才富 12	曹符成		嘉慶二年（一七九七）	咸豊六年（一八五六）	天運九年立
9 扶明護衛将軍 8	鍾阿細（諡作宏）	潮州海陽県竜溪都鳳鄭郷	天運辛酉（一八〇一）	戊午（一八五八）	天運辛酉年立
10 教鐸義士 63 頭先生	郭□□（号錫盌）	潮州海陽県南桂都東鳳郷	天運癸亥（一八〇三）	天運辛未（一八七一）	享年六十九才
11 候明義士 60	陳開順 号貞国		天運癸亥（一八〇三）	天運丁巳（一八五七）	享年五七才
12 明懃義士 32	劉□□ 号文塢	潮州揭陽県	〔　（一八〇四）〕	天運壬申（一八七二）	〔　〕推定。 享寿六九才

称号	氏名	籍貫	生年	卒年	備考
13 皇明義士 37	呉子炅	潮州饒平県深村	天運戊辰（一八〇八）?	天運庚申（一八六〇）	享年五十一才
14 皇明義士 43	陳嘉利	潮州海陽県南桂都	〔辛未（一八一一）〕	辛未年（一八七一）	〔? 〕推定
15 明恩義士 41	陳紅記（号 学文）	潮州澄海県蓬州都	天運癸酉（一八一三）	天運丙寅（一八六六）	享寿五四才
16 候明義士 48	許御勝	惠州陸豊県	〔　（一八一五）〕	乙亥（一八七六）	
17 輔明義士 46	李意寧	台湾嘉義県向嶺公潭保	大英一八一七		天運辛未年（一八七一）立
18 明賜義士 59	許□□（号 国香）	潮州海陽県閣州都	天運己卯（一八一九）	天運癸酉（一八七三）	享寿五十五才
19 待明義士 15	韓壮彝（諡 宜敏）		天運壬午（一八二二）	天運戊辰（一八六八）	
20 皇明義士 25	陳応科	潮州海陽県竜茂二巷竜溪都茂竜郷	壬午（一八二二）	〔一八七〇〕	享寿四九才太山亭に葬らる。東南に坐し西北に向く。
21 候明義士 73	洪如坤	潮州澄海県呉溝塘山橋	癸未（一八二三）	己巳（一八六九）	
22 明贈義士 30	林□□（号 亜泰）	潮州澄海県月埔林郷蓼浦都儒	天運癸未（一八二三）	天運辛巳（一八八一）	
23 皇明義士 74	陳起豊		道光乙酉（一八二五）	光緒丁丑（一八七七）	
24 明贈義士 28	黄欽元	潮州海陽県江東独樹郷都	天運丙午（一八二六）	?	
25 皇明義士 44	黄沛	潮州海陽県上甫新郷都華橋	天運乙酉（一八二五）	?	享寿不明
26 明恩義士 1	李沢遠	潮州澄海県蓬州都鳥汀郷	天運戊子（一八二八）	?	
27 創建功勲 55	何阿敬				天運辛酉年（一八六一）立

以上を見ると、生卒年の記載形式の上で、一七九〇年代以前に生れた(1)〜(8)、即ちグループの中の高齢者で長老或は指導者と目されるものは、4の陳声実を除いて「天運」の年号を用いておらず、概ね清朝の年号を用いている。単に干支のみを用いるものもあるが(1)、「天運」の表示はない。但し、生卒年では「天運」を用いなくても、神位を建立した年の表示として「天運」を用いるものが二基ある(1)(8)。この三基はほぼ同時に作られた可能性が高く、(9)の「天運辛酉」(一八六一年)が(1)(8)の天運九年と同年とすると、「天運」元年は一八五三年になる。おそらくこの一八五三年(清咸豊三年)以前は、このグループとしても清朝の年号を用いていたのが、この年以降、九年間に「天運」を用いる気運が生じてきて、先人の神位建立にあたって、建立の現時点の表示について天運の年号を用いたのであろう。(4)は卒年が一八六四年で、既にこの「天運」の使用慣行が定着したのちに建てられたものと推定される。要するに、この一七九〇年代以前出生の長老グループに関しては、清朝の年号を排除する生活感覚、即ち反清復明の感情は必ずしも明確ではなかったと思われる。神位称号も「祧基」、「卓立」、「創建功勲」、「教鐸」など、創立者を意味するものが多く、「志明」、「皇明」など「明朝」への帰属意識を示すものは二基にすぎない。生卒年の記載を欠く(27)もこの長老グループに入る可能性が強い。特に嘉慶元年(一八〇〇)に卒した(1)の鄧旭進、陳氏が曹亜志と見なす(2)の曹符義(道光十一年卒)の二人については、生存中、反清的態度を外部に表示していたか否か、疑わしい。

これに対して、右の長老グループより約十年〜三十年、若い、(9)〜(27)のグループ十八名は、(14)(16)(20)(23)を除いて、すべて生卒年に「天運」の号を用いている。殆んどが一八六〇年以降に卒しており、このグループが「天運」を用いる慣行を確立してから死亡し、神位を建てたからであろう。またこれらの人々の称号は(10)の郭錫盍が長老グループと同じ「教鐸義士」を称するのを除いて、すべて「明」の字を含む。非常に強い「反清復明」の志を抱いて生きた人達で

あることを推定し得る。最も遅くまで生存したのは(22)の林亜泰で、一八八一年、即ち光緒七年まで長らえている。

次に、このグループの人達の籍貫について検討してみる。既に若干ふれたように、このグループの人々の故郷、出身地は、陳育崧氏が創立者と見なす曹亜志の親族或は同郷人たる台山県人（所謂、四邑系、即ち恩平、開平、新会、台山の四県人より成るエスニック・グループに属する）は、判明する限りでの神位内部の記載には、一人も含まれておらず、殆んどすべて潮州人によって占められている。この点は、右の表でも明らかであるが、生卒不明者を含めて地域別に表示してみる。

第二表　社公廟神位籍貫別分布表（氏名欄の小数字は前掲排列番号）

府	県	都	郷	里	氏名	称号	年卒年
潮州府	海陽県	上甫都	驪塘郷		曾文蔚 21	志明義士	一七九一—一八五三
	〃	〃	新華橋郷		黄　沛 44	皇明義士	一八二五—？
	〃	〃	彩塘市		呉連校 3	皇明義士	？　—？
	〃	〃	〃		呉乙卯 34	候明義士	？　—？
	〃	竜溪都	？		陳声実 23	卓立義士	一七九〇—一八六四
	〃	〃	鳳廓郷		郭錫盔 63	教鐸義士 頭先生	一八〇三—一八七一
	〃	〃	茂竜郷	二巷	陳応科 25	皇明義士	一八二二—一八七〇

	〃	南桂都	東鳳郷		陳開順 60	侯明義士	一八〇三―一八五七
	〃	〃	?		陳嘉利 43	皇明義士	一八一一―一八七一
	〃	江東都	独樹郷		黄欽元 28	明贈義士	一八二六―?
	〃	東莆都	陳里郷		陳盧惜 36	侯明義士	?―?
	〃	登隆都	閣州郷		許国香 59	明賜義士	一八一九―一八七三
	〃	?	?		沈大進 62	明賜義士	?―?
	〃	?	?		劉立成 67	明勲義士	?―?
	澄海県	蓬州都	?		陳紅記 41	明恩義士	一八一三―一八六六
	〃	〃	烏汀郷		李沢遠 1	明恩義士	一八二八―?
	〃	蓴浦都	月埔郷	儒林里	林亜泰 30	明贈義士	一八二三―一八八一
	〃	〃	〃		余勉旺 57	明勲義士	?―?
	〃	?	?	塘山 呉溝橋	洪如坤 73	侯明義士	一八二三―一八六九
	〃	?	?	履露湖 蘆市	陳徳財 31	皇明義士	?―?(四二才)
	潮陽県	招収都	?	達豪埠	蔡長茂 45	明勲義士	?―?
	掲陽県	?	?	?	劉文塢 32	明懃義士	一八〇四―一八七二
	饒平県	?	?	深村	呉子炅 37	皇明義士	一八〇八―一八六〇
恵州府	陸豊県	?	?	?	許御勝 48	侯明義士	一八一五―一八七六
台湾府	嘉義県		向鬚公潭保	五間厝庄	李意寧 46	輔明義士	一八一七―?

この表から明らかなように、25名中、23名まで潮州籍で、あとは恵州の潮州隣接部に当る陸豊県人（実質的には潮州人）が一人、僅かに残り一名だけが台湾嘉義県出身者という分布である。結局、殆んどすべて潮州人であり、陳育崧氏がかつて主張した厦門人とは無関係なことがわかる。又、陳氏が上掲新論文で新たに提起した台湾鄭成功政権との関係は、台湾出身者一人を含んでいることで、その可能性を検討し得る余地を残しているものの、特に台湾の直接の人脈が強いとは言えない。むしろ、25名中、24名を占める潮州系人脈の実態を明らかにすることが要請されていると言える。

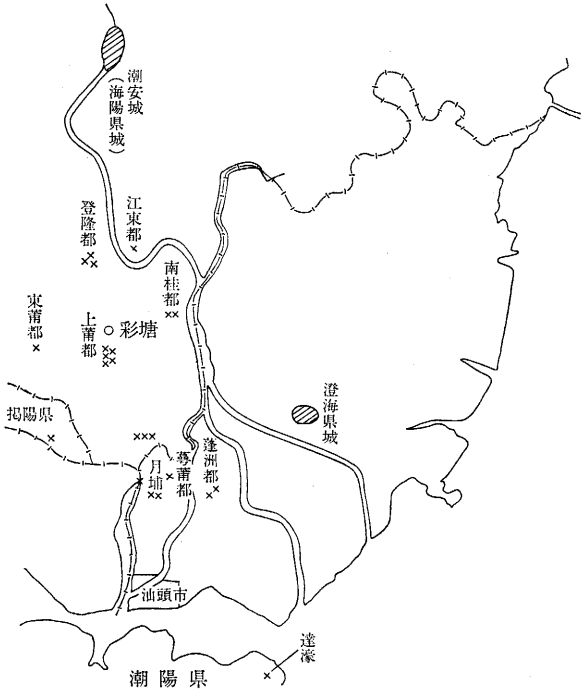

図３　神位義士出身地分布図〔×印〕

さて、ふりかえって右の表の潮州人の籍貫をみると、海陽県、即ち現在の潮安県の南部から澄海県の中西部地区、更に西の潮陽県東部にまたがる、比較的局限された地域に集中している。潮州南部の沿海地区と言ってよい。（図３）

図示すると上の図のごとくである。図から大勢を窺うと、南北から汕頭市をはさむ形で特に汕頭北部に集中して分布していることが明らかである。このことが何を意味するかに

ついては、後に検討する。

以上は、社公廟神位群の記載から潮州集団との関係を追ったが、別に潮州人の墓地にも若干の手掛りがある。既に上掲第一表においても、社公廟神位の主には「太山亭」に葬られた旨の記載をもつものが二基、認められる（(5)・(21)）。この「太山亭」（又は「泰山亭」）とは道光二十五年（一八四五）に東陵（Tanglin）に設置された潮州人グループ（潮幫）の墓地である。[13] 陳育崧氏の『関於洀墓的研究』及び『新加坡史話』によると、この泰山亭には『明考』と刻された墓碑が多くあり、中には『清』の字を『洀』と記したものがあり、或は義叙の二字を碑眉に横鐫したものもあるという。[14] 別に一九四九年に韓槐準氏も義順村烏魯加郎区で『義叙（横字大書）、明考朝元程公之墓、達豪亦港郷』と刻された墓を発見し、「明墓」として報告している。[15] これらの「明考」墓は概ね咸豊の年号を刻しており、陳育崧氏は「道咸年間の会党の遺物」と推定している。[16] 上記の程朝元の籍貫「達豪、亦港郷」の表示は、潮州府潮陽県達豪埠、赤港」を指すと見られる（亦港は赤港の誤り）。従ってこれらの「明考」墓碑群もまた道光、咸豊間にシンガポールに流寓した会党（天地会会員）が潮州人によって構成されていたことを示すものと言えよう。陳育崧氏は「明考」の墓銘が潮幫以外の他の幫の墓にもあると言っているが、[17] 具体例は示していない。シンガポールの天地会会党が潮州人を主力としていたことは疑いない。

二、道光咸豊間潮州会党事件とシンガポール天地会会党の関係

以上により、シンガポール峨嵋の社公廟五虎祠に祀られる反清復明の会党志士が潮州、汕頭附近の出身者であるこ

とがわかったが、彼らが潮州のどの会党烽起に関係していたのかが問題となる。烽起に志を得ず、シンガポールに流寓したのは、曹家館第一世代の四邑人グループではなく、第一世代によって保護された第二世代（第一表(9)以下）の潮州人の筈であり、この世代には一八二〇年代生まれの人がかなりいるから、これらの最年少組が少くとも二〇才に達していた時期とみて、一八四五年（道光二五年）以降の流寓と見るべきであろう。この時期はシンガポール側の伝承で、会党の流入期を道光―咸豊年間としている点とも一致する。かくして、彼らはこの一八四五年の直前の時期に潮州の汕頭附近で起った会党烽起に関係していたものとの推定が成り立つ。

今、この推定により、潮州、海陽県、清朝県、澄海県などの地方志記事を探索してみると、さし当たり、一八四四年（道光二十四年）潮陽県、海陽県、揭陽県にまたがって起こった天地会会党『双刀会』事件が該当事件として注意を引く。以下、資料をみる。

先ず、光緒二十六年刊『海陽県志』巻二五〈前事略二〉には、次のように記す。(18)

道光二十四年、知県呉均、土賊黄悟空を勦捕す。

是れより先、巡道李煒煜、海陽の附郭、幹員（うできき）に非ざれば治まらざるを以って、嘉応の同知呉均を詳調して県の事を知らしむ。奸人、其の厳明なるを憚りて多く他邑に逃ぐ。会（たまたま）、歳饑す。潮陽の黄悟空、曾阿三等と旗を竪（た）て双刀の会を拝す。応ずる者、万もて計る。揭陽城を囲む。郡中、震動す。煒煜、均に檄して勇を督して勦捕せしめ、賊、敗潰す。乃ち賊党の主の名を訪い、潮陽知事寿祺に移して悟空を購捕せしむ。妻の弟の為めに縛して献ぜらる。余の党も亦た次第に擒に就く。按察使孔継尹、潮に来たりて涖讞し、首悪を誅するの外、多くは縦捨す。均、乱民を治むるに重典を用うるを以って力争するも得ず、仍りて密かに捕えて之を誅す。衆心粛然たり。

これによると、道光二十四年、潮陽県の黄悟空が双刀会を結成し、揭陽県城を囲んだが、海陽県知県呉均の力により平定したという。同じことは、光緒十年重修刊『潮陽県志』巻一三〈紀事〉の条にも次のごとく見える。(19)

道光二十四年、土冠黄悟空、乱を倡う。知県寿祺、購捕す。誅に伏す。

黄悟空なる者は夏林郷の人なり。性、険鷙にして嘗って豪家の奴に賃せられしに、其の主を殺せり。是に至りて双刀会を結ぶ。潮〔陽〕、揭〔陽〕の愚民、之に応ずる者、万もて数う。然れども蹤跡は詭り秘せられ、初めより未だその禍首たるものを知らざりしなり。八月、党を嘯して揭陽を囲む。兵備道李璋煜、海陽の令呉均等を率いて馳せ往きて之を散ず。廼ち主の名を得たり。密かに祺に飭して購捕せしむ。其の妻の弟、悟空を縛して以って献ず。郡に解りて法に正す。

ここで黄悟空は揭陽県に境を接する直浦都夏林郷の人であったことが示されている。黄悟空の双刀会の軍事行動が潮陽の西北山間部に発して揭陽城を囲んだので、海陽県の側から攻める方が潮陽県より上るよりも地の利があったのであろう（図4）。

さて、この黄悟空、曽阿三の双刀会が天地会系の結社であったことについては、荘吉発『清代天地会源流考』（台北・国立故宮博物院、一九八一年）第四章〈嘉慶道光間天地会〉の条に軍機処檔案に基いた詳論がある。今、その関係個所全文を引く。(20)

双刀会に至りては則ち結盟の時、双刀を架設するに因りて名を得たり。小刀会とは名を得ること同じからず。広東の恵・潮・嘉の各府、双刀会の勢力最も浩大となす。

潮州府潮陽県人林大眉、黄阿隆、黄悟空等、倶に天地会の党に係る。郷里側目す。

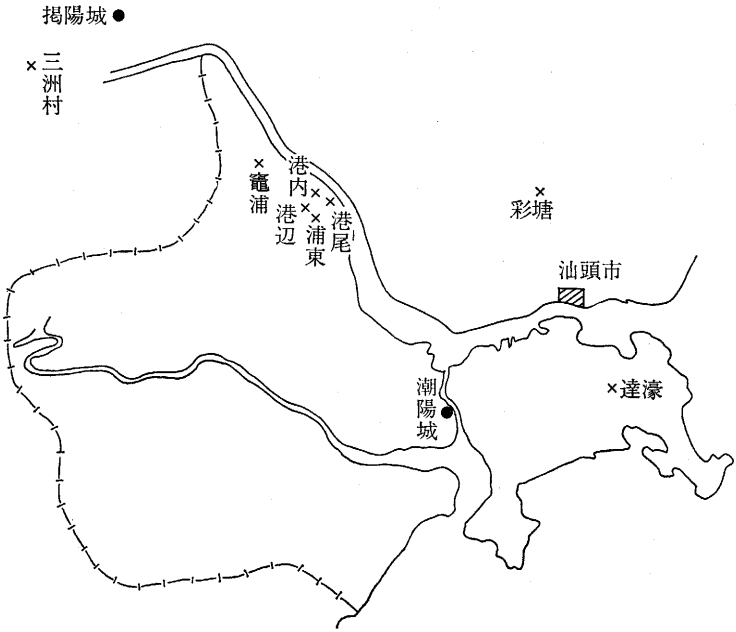

図4　黄悟空双刀会関係地図

福建漳浦県の人、戴仙、原名戴毓祥、素より堪輿卦命を習う。道光二十三年（一八四三）七月間、戴仙、広東恵州府陸豊県大安圩地方に至り、攤を擺して命を算す。長楽県人曽阿三あり、常に往きて談を叙べ、彼此熟識す。曽阿三告ぐるに、〃従前漳州に在りて生理（あきない）せし時、曽って「天地会歌訣図」一張を拾得し、身辺に帯せしに、事に遇うも人の幇助するあり〃と。戴仙、即ち布を用いて様に照して画を写すこと一張なり。

道光二十四年（一八四四）八月、戴仙、揭陽地方に至り、曽阿三の姓名を仮冒し、天地会大哥を捏称し、揭陽の会党首領林阿隆、黄大頭等と联ねて同党となる。潮陽県人黄悟空、先に是の年四月初五日に於いて、族人黄銀生と争水の嫌を挾み、会内の黄寛書等を糾同し、黄銀生を殺死したる後に逃避せり。八月二十六日、黄悟空、意を起こし、林大眉、黄阿隆と商同し、分頭して人を糾（あつ）

め、天地会を結拝す。惟だ天地会の名称、沿用すること已に久しく、会員を吸収し難きを恐るるに因りて、遂に双刀会と改名す。

旋で八人を糾め得て、一共十一人、八月二十八日に於いて、林大眉の居住の港内郷〔潮陽県直浦都―筆者注〕の外涵の元空廟内に壇を設けて結拝す。各々銭一百二十文を出だし、黄悟空に交与して香燭鶏酒を買い備えしめ、年歯を序せず、共に黄悟空を推して大哥となす。壇上に洪令の牌位を供設し、黄悟空、衆を率いて跪拝す。另に箋圈を紮びて門となし、双刀を架起し、衆人、刀下由り鑽過す。黄悟空、「口を開くに本を離れず、手を出だすに三を離れず」の暗号を伝授し、毎人には会単一紙を分給す。鶏を宰し、血を滴して酒に入れ、分飲して後、各々散ず。

其の後、黄悟空、拝会の人少きに因り、復た紅布三角の洪令小旗を製し得て、上に「靠驫宕」の字様を写き（意は即ち天地会の三字なり）、作りて憑信となし。林大眉等十人に交給す。分頭して人を糾めて入会せしめ、先後共に一百八十人を糾め得たり。分ちて五起となし、九月初八、九、十三、十八、二十六等の日に於いて、港内〔潮陽県直浦都〕、港尾〔潮陽県直浦都〕、浦東〔潮陽県隆井都〕、港辺〔潮陽県直浦都〕、竈浦〔潮陽県直浦都〕等の処に在りて結拝し、倶に年歯を序せず、林大眉、黄阿隆、李阿宅、黄阿五、黄阿壁を大哥となし、黄悟空を会総と為す。戴仙、黄悟空の拝会せるを聞ける後、亦た意を起こし、林阿隆、黄大頭を商同し、人を糾めて結拝す。遂に会図を取り出だし、「雄兵百万、英雄尽ゞ招ゞ」等の字様を添写し、並びに黄悟空の会単に倣照して、木板及び三省玉記図章等を刊刻す。共に一百五十二人を糾め得たり。分ちて四起と作し、九月二十八、十月初八、十三、十六等の日に於いて、揭陽県属の楊厝菴、坡嘴、馬路、三洲等の処に在りて結拝し、林阿隆、黄大頭、鄭阿葆、及び陳阿五を以って大哥となし、戴仙を会総となす。亦た双刀会の結盟儀式に照して、衆を率いて刀を鑽り酒を飲みて口訣を伝授し、会単を分給す。

各営県を経て、陸続として林大眉等二百三十六名を拏え獲たり。当場にて格斃せること二十一名、投首せるもの四十二名なり。其の中、戴仙、林大眉、黄阿隆等の首領は「凌遅処死」を被り、李阿宅等一百十九名は斬梟斬決せられ、其の余の一百二十五名は則ち分別して、絞、遣、流等の罪に擬せられる。

以上のごとく、道光二十四年の双刀会の烽起は、天地会会党の一派の起したもので、潮陽県の北西部から揭陽城にかけての地域で、会党が組織されたことがわかる（図4）。さきの地方志の記載によれば、これに呼応したものは一万人を超えていたと言うから、この会党の結拜組織の分布地域に出身地が隣接しているさきの五虎祠義士達がこの双刀会烽起に関与していた可能性はかなり高いと言える。ただ、五虎祠義士達の中で、揭陽県出身者は僅か一名、また潮陽県出身者は一名しか認められず、他はこの双刀会烽起の外側の海陽、澄海の県域の出身者なので、断定は出来ないが、この事件が海陽県知県によって鎮圧されたというから、海陽、澄海をまき込んだものであったことは確実であり、この点から双刀会と五虎祠義士の関係を一つの可能性として想定することは許されるであろう。

次に同じくこの汕頭附近で、道光から咸豊にかけて起った会党烽起で、五虎祠義士との関係を想定し得るものとして、咸豊甲寅四年（一八五四）五月に海陽県上莆都彩塘郷で起った呉忠恕の烽起、同年六月に同鶴塘郷でこれに呼応した陳阿十の烽起など海陽県南部の広い地域に及んだ約五ヶ月間に及ぶ反乱事件をあげなくてはならない。この事件は烽起の拠点地域が五虎祠義士の出身地によく重なる上、天地会会党との関係もある程度、推定し得るからである。以下、先ず、資料を引いてみよう。光緒二十六年刊『海陽県志』巻二五〈前事略〉に次のごとく記す。(21)

1　咸豊四年五月、彩塘郷の呉忠恕、乱を作す。

是れより先、忠恕、流民たりて業を失えるに因り、游僧亮と宝雲寺に聚りて衆を糾めて拝会す。某生あり、密かに知県劉鎮

に稟す。鎮、疑いて嫌を挾み置きて理めず。月を匝りて聚ること数千人なり。四月、陳娘康、呉均を潮陽に囲む。忠恕、因りて外属の諸匪と約し、府城を攻めんと謀る。城中、戒厳す。賊、遂に牛を椎して衆に饗し、旗を開きて乱を倡え、澄海城を攻む。克たず、遂に竜渓都を攻む。

2　六月四日、知県劉鎮、都司金国樑、師を率いて出でて竜湖に駐し、彩塘を図る。

忠恕、旗を竪て乱を倡う。各属の賊匪倶に響応をなす。劉鎮、金国樑と会同し兵を統して進み勦す。忠恕、劉鎮、金国樑将に至らんとするを聞き、党を分かち、進みて鶴巣に踞し、又古楼郷に分紮して犄角をなす。官兵を竜湖鎮等に蹙す。

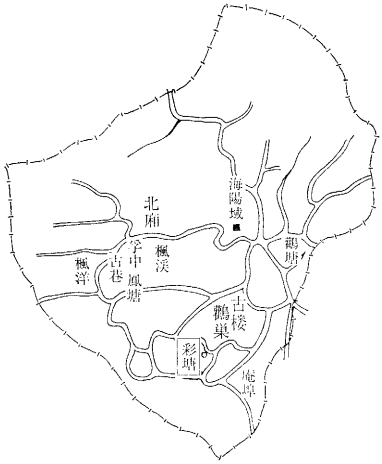

図5　呉忠恕の変，関係地点図

3　鶴塘郷の陳阿十、乱を作す。

是より先、呉忠恕、城を攻めんとす。城中の人、多く鶴塘に遷避す。阿十、子女玉帛を見て頓に不軌を懐き、先ず澄海に至り、賊首王興順に謁す。与に結連するを允す。帰りて遂に衆を聚めて叛す。忠恕と合して進み、臥石、岡洋、涸渓等の郷に踞す。二十四日、饒平の隆眼城を攻む。二十五日、澄海の鷗汀寨を攻む。皆な官軍郷勇の敗る所となる。

4　七月初一日、陳阿十、東橋頭を攻む。潮陽知県汪政、之を撃つ。

5　七月二十一日、汪政、陳坤、師を率いて涸渓に出で進勦す。

6　三十日、呉忠恕、東橋頭を攻む。汪政撃ちて之を退く。

呉忠恕、党を糾めて八千余人と号す。韓山の背より来たる。王近仁等、東橋頭に駐し、与に戦う。

7　閏七月、呉忠恕、庵埠、隴仔郷を攻む。通判賀桂齢、兵を率いて之を救うも克たず。隴仔既に破れ、庵埠郷の遠近、賊の為

に脅されて応ず。勢、益々披猖す。並びに通判の署を毀ち、党を分ちて之に踞せしむ。

又、称す：忠恕、初め阿十と、同じく庵埠を攻めんと約せしも、阿、七月二十五日、暴かに死せるを以って、忠恕乃ち自ら行き、則ち庵埠に踞せりと。

8　呉忠恕、其の党李陽春を遣わし、楓渓郷に分踞せしむ。廩生呉作舟、歳貢朱光鼎潜かに帰仁諸郷と約して共に賊を撃つ。楓渓故、北廂と隙あり、其の己を襲うを慮る。帰仁郷の紳、陳翺、之を和解せしめ、乃ち力を合して賊を攻む。賊驚きて潰る。陽春等十人を執えて官に送る。賊勢、稍々殺ぐ。尋いで呉阿受復た賊目李如珠を引き、衆を糾めて還た楓渓に踞す。並びに党を分かちて北廂の鳳山等の郷に踞す。是れ自り賊遂に東西両路に分かる。

9　閏七月二十三日、西郷の賊、楓渓等の処由り城を攻む。汪政、兵を西湖山の側に伏して之を撃つ。

二十八日、西南十排の郷勇を募りて団練を城東の登栄都に設く。

時に楓渓、北廂皆な賊の踞する所となる。各官、西南諸郷、素より強悍なるを以って、其の賊に附するを恐れ、乃ち古巷、楓洋、鳳塘、鶴隴、長美、孚中諸郷の耆に諭し、其の郷の悍鷙の勇を募り、日に口糧を給す。名ずけて十排と曰い、公所を城中に設く。以って統摂に資す。

其の城東の上游の河道、蔡家囲に踞するの賊の截む所と為り、舟楫通せず。官又、紳士戴維祺に諭して団練を亀湖各郷に設け、暁すに大義を以ってし、約同して賊を禦ぐ。外属の文書は悉く維祺に由り、郷人の水を善くする者を択びて夜に乗じて浮かび渡り、密かに城に入れ、以って内外の消息を通ず。陳阿十の賊党、聞きて覚り、其の郷を攻む。各団勇、赴きて援け共に之を撃つ。

10　八月初七日、呉忠恕、潮陽の賊を合して城を囲む。

時に恵来、官軍の為めに克復せられ、潮陽の賊も忠恕に投ず。忠恕、之と合す。八月初七日、霖雨、甫て霽る。忠恕、二万余の衆を率い、七路に分かちて郡城を環攻す。自ら大隊を以って西湖山に趨く。巡道曹履泰、潮鎮寿山、報を聞き、陴に登

る。汪政、商りて各員に令して路を分かちて迎戦す……汪政、陳坤、李瑄芳と共に馳せて西湖山に赴き、先ず其の巔に登り、力を奮って鏖戦す。午自り酉に至る、各隊賊を殺すこと算うるなし。然れども我が軍、終に兵少く且つ創を受くる者衆きを以って、窮追する能わず。賊、是れより連旬、囲み攻む。城中、糧食将に尽きんとし、人心惶々たり。

11 九月、呉均、饒平知県玉恵溥に檄して府城を援けしむ。筆架山の後に至りて、賊の為に截刦せられ、鸛塘に入る。陳阿十暴かに死し、其の兄陳阿四、其の家を統ぶ。鸛塘の賊は当に陳阿四なるべし。

12 十七日、西路の賊、長美郷を攻む。郷人、古巷、楓洋等の郷と合して賊と月弓池に戦う。北廂に踞せる賊、来たりて援く。孚中の郷勇、之を西塘渡に禦ぐ。

13 十八日、夜半、意溪郷の紳士鍾英才、官軍と約して東路の賊を撃ち、大いに之を破る。夜半…英才、弟鴻逵等と暗かに郷兵と約し、礮を開きて賊を擒う。官兵岸に抵れるとき、賊已に破る。黎明、湯坑の隊勇、筆架山従り、菱角池を渡り、東津を破る。賊を獲ること百余。東路の囲、解く。

14 二十一日、官軍、十排の郷勇と与に、賊を鳳山に攻む。並びに楓溪・北廂郷に踞せる賊を逐う。西路の囲も亦た解く。

15 十月、汪政、紳士郭廷集に諭し、法を設けて賊首を擒えしむ。並びに自ら兵を率いて彩塘郷に至り、勒して各匪を交せしむ。呉忠恕、李如珠、和尚尭等、次第に縛に就き誅に伏す。陳阿四、玉恵溥を護送し、並びに縛せらる。賊数十、投誠す。

16 八月二十八日、呉忠恕の遺党黄学勝、楊雲南等、衆を聚むること、千余人、襲いて庵埠を攻む。郷人の為めに撃敗せられ、官軍就ち之を擒う。勝等、誅に伏し、其の党、悉く潰散す。

以上の記述によってわかるように、呉忠恕は咸豊四年五月に海陽県南部の彩塘郷で烽起し、六月には海陽県東南の鸛塘郷の陳阿十と合流し、海陽県と澄海県の県境附近を支配したのち、北上して海陽県城北方を占拠、東北の登栄都に拠る東路軍と、西北の帰仁都、北廂都に拠る西路軍に分かれて布陣、次いで八月には潮陽の陳娘康、鄭游春の残党

を合せて二万余の大勢力となり、海陽県城を囲んだ。包囲は九月下旬すぎまで約一ヶ月余も続き、城中は食が尽きて危かったが、烽起軍も糧食の補給に苦しみ、従軍者の一部が帰農した隙を官側に衝かれて敗退した。九月下旬に平定、十月には呉忠怒等の首領も故郷の彩塘郷で捕えられ、処刑されて終った。

この呉忠怒の事件は、さきの双刀会事件のようには天地会との関係が記録上、明瞭でないが、この咸豊四年は、広東で太平天国軍が烽起した年で広東東部でも三合会系の会党の烽起が頻発していた。潮州でも豊順県の管以筠の乱、揭陽県の林元凱の乱など三合会会党の烽起がこの時期にほぼ同時に起こっている。呉忠怒の乱もこれらの三合会の動きの一環として起った可能性が強い。饒宗頤編『潮州志滙編』（一九四六年）〈大事志〉には、呉忠怒事件に関して部分的に『太平天国日誌』の記事を引いている。例えば、次の通りである。(22)

八月十五日　官軍、恵来を克復す。初め潮陽の賊、陳娘康、鄭遊春の衆、呉忠怒に投ず、忠怒。之と合す〔太平天国日誌〕

八月七日、霖雨甫めて霽る…忠怒、二万余の衆を率いて（以下前掲）…〔潮乗備采録　○太平天国日誌は呉忠怒、海陽を囲むは八月十七日に在りとす〕。

この『太平天国日誌』は潮州の地方記録らしく、未見であるが、呉忠怒を太平軍の先駆者たる天地会三合会系の会党と見ていることは明らかである。

このように見ると、この呉忠怒のグループらもさきのシンガポール社公廟五虎祠義士とつながる可能性があると言える。特にこの呉忠怒軍の活動地域は海陽県南部を中心としており、五虎祠義士の籍貫と重なる点が多い。呉忠怒と同じ彩塘郷を故郷とするものが二人もおり、しかも何れも呉姓である。この他また五虎祠義士の姓、黄、陳、李など、

呉忠恕軍の将領と多く重なる。これらを綜合して、さし当たり、五虎祠義士がこの海陽県呉忠恕軍の残党のシンガポール流寓者を含むものと想定しておきたい。勿論、直接の関連を証するに足る資料を欠く現在、道光二十四年（一八四四）の双刀会とこの咸豊四年（一八五四）の呉忠恕軍の双方の残党が約十年の間に二回にわたって流寓したと考えておく方が安全であろうか――。

一九八二年、五虎祠の管理人、黄鴻泰氏（年令、六十五才位、武術家で棒術の名手、広東南海県の人）から、この五虎祠の由来について説明をきいた。

黄氏の説明の要点のみを記す。次の通りである。

この社公廟の神位群は、別称「義興公司」と呼ばれる。一五〇年前、ラッフルズに随伴して来埠した曹某がこの地を拓いた。附近は叢林で鋸木場があり、木工、石工、泥工がたむろし、喧嘩が絶えなかったという。神位の人人は、反清の人でペナンからではなく、直接、本土の福建、広東からここへ来た。集団で暮らし、家室を作らなかったので、死後、その神位をまとめて祭るようになった。元来は鋸木場のあった地点（ラヴェンダー街の路の奥）に祀ってあったが、六〇年前に現在地（大路に面す）に移った。近年は広東人の物故者の神主を加えている。曹家館は十数年前に消え失せ、隣接の「広福古廟」も二年前に芽籠一〇一巷に移って今は「広福堂」と改称した。この社公廟も何れ移址を命ぜられ、散亡する運命にある。潮州人との特別な関係は聞いたことがない。

この談話で注意を惹くのは、これらの所謂反清革命党がマレシーア経由でなく、中国から直接にシンガポールに入ったとしている点である。陳育崧氏は、この反清復明の義士達は、曹亜珠がペナンから連れてきたものと解されて次のように説いている。(23)

曹亜志は当時の秘密組織義興公司の領袖たりし人物であり、義興公司は萊特が檳城嶼を開いた最初の年に、既に存在していた。萊仏士が曹亜志を新加坡に連れてきたので、この組織もまた曹亜志と共に新加坡に移殖されたのである。

見解の分れるところであるが、曹亜珠がペナンから連れてきたのは自らの同郷人たる四邑人のみで、この社公廟神位群に見える多数の潮州人は、曹亜珠が義興公司をシンガポールに定着させたのちに、本土から直接にシンガポールに流寓し、義興公司に加わったものであろうと推定される。この場合、これらの潮州亡命者は、一旦、シンガポール河口の潮人組織たる義安公司（澄海県人、揭陽県人の組織）の傘下に入り、のちに郊外叢林地区のガラン河畔の曹家館に同じ粤幫のつながりで引きとられたものと推定する。義安公司は表向き清朝を奉ずる形をとりつつ、実際には反清団体義興公司と密接なつながりがあり、この義安義興の同郷、同幫関係を通して、曹家館に近い社公廟近傍に拠点を確立したものと推定される。

三、香港・南洋に残る天地会会党の遺風

さて、上節により広東潮州の天地会会党とシンガポールの潮州幫（或は広く粤幫）との関係の一端を指摘したが、より広く視野を香港及び南洋（マレーシア、タイ）に拡大してみると、天地会会党の遺風は、今なお各処に残存していることを確認し得る。本節ではこの点を概観してみる。

Ⅰ　「天運」の年号の使用

上記、社公廟、五虎祠の神位群の場合、神位内部に細字で書かれた生卒年は、第二世代の殆んどすべてにおいて、清朝の年号（道光、咸豊）を避けて、「天運」を称している。この「天運」の年号は前述の通り天地会の常用のもので、福建、江西、広東の会党が嘉慶、道光年間に用い始めたものという。例えば、広東海康県の天地会会党林添申が嘉慶六年（一八〇一）年に結拝に当たって、表文に「天運辛酉年」の表示を行なったといい〔莊吉発『清代天地会源流考』（一九八一）七九頁〕、また江西信豊県の三点会会党が道光八年（一八二八）に結拝に用いた符書に「周四年」と記し、「天運周流」の意をこめたという〔莊吉発同前書一〇〇頁〕。会党の間では「順天」、或は「天運」の年号を用いることが、「天地会」の「天」を表示する点で重要視されていたわけである。ところで、この「天運」という年号は、現在の「香港」或はシンガポールなどで道士、仏僧の祭祀文書、儀礼文書の中にしばしば用いられている。特に郷民の衆目にさらされる「榜文」などに用いられることが少くない。この十年余に筆者が調査対象とした郷村祭祀は百ヶ所を超えているが、今これらの祭祀の「大榜」で用いられている年号表記を、エスニック・グループ別に表示してみよう。次表の通りである。

大系統	小系統	祭祀	廟名他	儀礼系統	年号表示	原文
閩北系	福州系	中元	1 シンガポール 莫律中元会	正一派 道教	太歳（一九八三）	霊宝大法司、本司為莫律慶中元公建普度事……涓以今月十二日傍晩、恭就本街、輔設瑤壇、羅列聖像、勅水浄壇、除気駆穢、道侶発奏、恭迎師尊、主盟醮事。……太歳癸亥年七月十二日。(24)
		神誕祈安	2 シンガポール 五鳳閣	正一派	天運（一九七二）	五鳳廟聖誕保安経醮発奏宝誥、逢天運壬子年九月十八・九吉日良期為五鳳廟華光大帝暨列聖千秋寿誕恭祝。藉此良辰、恭就新加坡小坡徳申宋律本廟前、啓建保安泰平経醮一場……。
		中元	3 シンガポール 五鳳閣	正一派	太歳（一九八二）	太乙慈尊青玄上帝、本慈尊為五鳳廟普度建醮事。……涓於七月廿五、六、七日三天、恭就……本廟前、敷設経壇、次于念六七日、整壇運心修建霊宝正教太上慈悲植福延禧普度幽冥両利経醮一壇。……太歳壬戌年七月念二日、発給。
		中元	4 シンガポール	仏教、	太歳	策以今月廿五至廿七日、恭就本区界下、丕結梵壇、延請芽籠廿三巷正覚寺六和僧伽、虔誠修建済幽植

	福邑公建普度	正覚寺	（一九八二）	福、冥陽両利、普度保安道場。……太歳壬戌年七月吉旦。[25]
	神誕	正一派	太歳（一九八二）	霊宝大法司、道経師上清三洞五雷経籙九天応元府、主行科事臣慶清榜示事、……涓以今年今月初十、十一日、為鳳嶺北壇三相公千秋聖誕、祇就小坡華頓街門牌二十六号、啓建玉宸延禧植福清醮道坊一座……太歳壬戌年八月初七日、給榜。[26]
興化系（莆田・仙游両県）	中元	正一派	歳次（一九八二）	天人霊法大法司、本司為慶祝中元以祈平安事。……謹於今月是日、仗羽士、就本会、建設天人普度醮壇……公元一九八二年九月一二日。歳次壬戌年七月十五日。[27]
	神誕 中元	正一派	歳次（一九八三）	天人大梵壇、本壇為延禱祝寿以祝平安事。……謹於今月是日、仗羽士、于本堂、崇建瓊三堂三一教主祝寿醮壇、特伸頌祝瓊三堂三一教主星輝寿極華誕千秋、玆遇中元地官大帝降醮之辰……公元一九八三年八月　日。歳次癸亥七月

5 シンガポール 鳳嶺北壇

6 シンガポール 星系的士站

7 シンガポール 瓊三堂

三宝植福普度大梵壇、為済幽事。……今拠新加坡共和国興安華僑人民、恭就第零八二零郵区、惹蘭

大系統	小系統	祭祀	廟名他	儀礼系統	年号表示	原文
		中元	8 シンガポール 興安天后宮	青雲亭 仏僧	太歳（一九八三）	馬達拉街十六号天后宮内、設壇奉仏、植福延禧、公建年例祈安普度迎祥。……太歳癸亥年七月十九日、弘法沙門、比丘心印榜。[28]
		中元 祈安	9 シンガポール 九鯉洞	三一派	太歳（一九八四）	三教修建瓊瑤教門、公建逢甲普度醮壇為延生薦拔同超孤幽事。……玆涓壬申月甲子日起、至丁卯日良辰、仗同門友、就丹坡九鯉洞、建設三教修建瓊瑤教門、公建逢甲大普度道場。……太歳甲子年七月[29]日。
		中元 祈安	10 シンガポール 九鯉洞	マラッカ 青雲亭 仏僧	太歳（一九八四）	三宝祈福普座皇壇、為延福済幽普慶事。……今有東震旦界亜細亜州、南洋新嘉坡共和国惹蘭丹坡門牌五号九鯉洞、設壇奉仏、逢甲循例、崇建祈福延生済幽、肉身目連、梁皇普度法会。……太歳甲子年七月[30]日。
						天人霊宝大法司、本司為延禧祝寿以祈平安事。……謹於今月是日、仗羽士、就于本廟、崇建天人

			神誕	11 シンガポール 威顕廟	正一派
			神誕 中元	12 シンガポール 重興壇	正一派
閩南系	泉州・漳州		神誕	13 シンガポール 聖宝壇	正一派
			神誕	14 シンガポール 聖善壇	正一派
			神誕	15 シンガポール	正一派

歳次	太歳
歳次（一九八二）	祝寿醮壇……特伸頌祝武按聖王星輝華誕千秋。……公元一九八二年十一月十一日。歳次壬戌年八月廿五日。[31]
歳次（一九八二）	天人霊宝大法司、本司為延禧祝寿以祈平安事、……謹於今月是日、仗羽士、就于本壇、建設天人祝寿醮壇……外演傀儡仙歌、特伸頌祝張公聖君星輝寿極、華誕千秋、茲遇地官大帝降誕之辰、……公元一九八二年九月十日。歳次壬戌年七月廿三日。[32]
天運（一九八二）	衆善信自早欽敬聖宝壇、慶祝斉天大聖千秋佳期……涓取今月十五、連十六七日、仗道在聖宝壇、造立霊宝延生植福道場……天運壬戌年八月十五連十六七日。[33]
天運（一九八二）	衆等自早欽敬善聖壇斉天大聖仏祖千秋……誠心謹涓今月二十日、延聘玄門、掃清浄処、啓建霊宝延生設醮集福道場。天運壬戌年八月二十日。[34]
	今拠中華民国各州府県各郷社里人民、現寓星嘉坡共和国、実隴崗後港五個石斗母宮、四方人等居

大系統	小系統	祭祀	廟名他	儀礼系統	年号表示	原文
			後港斗母宮		（一九八二）	住、奉道祈安就燈設醮演戲。……太歲壬戌年九月日。(35)
	台湾府	祈安（三日）	台16 湾	正一派	天運（清代）	謹奏為設醮酬恩祈安事。……今拠大清国……建壇奉道、設醮演戲、酬恩祈安植福……涓吉今月△△日、至△△日、仗道、就△△、啓建金籙酬恩集福芳醮三日夕道場。……天運△年△△月△日。(36)
		祈安（五日）	台17 湾城隍廟	正一派	天運（清代）	為建醮酧恩榜告幽顕事。……今拠大清国……建壇奉道、設醮酧恩、祈安植福……。恭諏△△連△△至日、敬就城隍廟、潔蠲殿宇、厳設華壇、集諸玄侶、啓建酧恩醮典。……天運△△年△月給。(37)
		中元	台18 湾	正一派	天運（清代）	中元小施疏序。……今拠大清△△庄、吉宅居住、恭就門首、啓建華壇、奉道宣経、演戲普度、慶讃中元、祈安植福。……涓向今月○日、仗道、就于門首、啓設芳筵、……天運吉年良月□□日、焚香疏叩言。(38)

	祈安	19 台北松山慈祐宮（天后）	正一派	天運（一九六三）
	王醮	20 台南西港郷慶安宮（天后）	正一派	天運（一九六四）
潮州	中元	21 香港石梨貝福徳祠	徳教恩善堂	天運（一九七九）
潮州	中元	22 香港九竜蘇屋邨	徳教従徳善社	天運（一九七九）

霊宝大法司為建醮投牒事。今拠中華民国台湾省台北市松山慈祐宮、奉道建醮、慶成酬恩、祈安植福。……諏本月十四日、仗道修設五天清醮……天運癸卯年陽月〇日具牒。(39)

玉勅代天巡狩、兼掌陰陽実録、便宜行事呉某、為尽駆醮類以靖地方事。……一方之男婦老幼、同食徳而飲和、合境之士農工商、各安居而楽業。……天運甲辰年四月十五日給。(40)

奏為修建盂蘭勝会普渡孤魂、祈求陽世合境平安生意興隆事。……謹択是月初一日至初三日、延仗港九徳恩善堂衆居士、恭就本区福地、啓建道場、三天連宵。天運己未歳七月初一・二・三日。(41)

為超拔孤魂、得生蓮邦事。……謹定七月廿七日至廿九日、円満。延仗従徳善社、恭就九竜蘇屋邨保安道運動場浄地、啓建道場、三天連宵、……天運己未年七月初四日。(42)

大系統	小系統	祭祀	廟名他	儀礼系統	年号表示	原文
		中元	23 香港西区正街	徳教 普慶念仏社	天運（一九七八）	奏為修盂蘭勝会、玆祷消災植福事。……謹於是月十八日起、至二十日止、延仗普慶念仏社経科、恭就大街坊福地、修建盂蘭勝会、三天連宵……天運戊午年七月十八、十九、二十日。(43)
		中元	24 香港九竜牛頭角福徳祠	徳教 慈善閣	天運（一九八七）	奏為修建盂蘭勝会、普利幽冥、祈求合境平安吉祥事。……謹択於是月初四至初六吉日、延仗慈善閣善社経科、恭就福地、啓建普度植福道場、三天連宵。時維天運丁卯七月初四日。(44)
	神誕祈安		25 香港九竜徳恩善堂	徳教 徳恩善堂	天運（一九七九）	三元天尊建醮平安錫福金章……為慶、慶讃植福、啓建清醮福会事。……欣逢宋大峯祖師、是月廿七日至廿九日聖誕吉期、虔誠香火茶果、素饌斎筵、袍冠宝錠、聊表恭祝。本堂経楽衆居士一心虔誠、恭就新蒲崗、彩紅遊楽場福地、啓建清醮、祈禳合境平安、暨善信家門添福慧福会、四天連宵。……天運己未歳十月廿七日至十一月初一日。(45)

	中元	26 シンガポール 柔佛街烏亜派律坊衆	徳教 楽善堂	天運（一九八三）
恵州・海陸豊	中元	27 香港 深水埗獅山媽祖廟	魏代広 徳祖壇	天運（一九七九）
	中元	28 香港 蠔涌聖人公媽	邱氏広勝 祖壇	天運（一九八〇）
	中元 神誕	29 香港 荃湾三叠潭地蔵王	邱氏広勝 祖壇	天運（一九八〇）

慶讃中元、秉釈迦如来遺教、主行法事加持、楽善堂為慶祝普度賑済孤魂事。……謹卜是月十七・八日、仗社就枱建立清供二天運宵、天運癸亥年七月十八日

今拠広東省宝安県香港九竜深水埗等処、奉道宣経、修設盂蘭勝会、普渡清醮、保境植福祈安。……今逢己未年、科序値孟秋瓜月望日、欣逢中元地官聖誕之晨……仗道於境、修建霊宝盂蘭清醮、二昼連宵、……天運己未年七月十七日、給榜。(46)

今拠広東省宝安県香港新界、西貢蠔涌、四隅吉向居住、奉道宣経、建醮集福祈安。……茲於本月初六日、恭就福地、崇舗勝会……天運庚申年七月初六日。(47)

今拠広東省宝安県香港九竜新界荃湾石梨貝四隅、吉向居住、奉道宣経、酌建清醮、保境植福、迎祥祈安。……敢復択于本月初四日、就于境内福地、蓋立壇軒。……天運庚申八月初四日……(48)

	大系統	小系統	祭祀	廟名他	儀礼系統	年号表示	原文
			中元祈安	30 香港 紅磡大環山		天運（一九八〇）	謹詹庚申年柴月十五日為紅磡土瓜湾大環山慶祝天后聖母孟蘭勝会、挙建太平清醮。……由十四・五・六日一連三天、天運庚申年七月十五日。(49)
			中元	31 香港 柴湾天后宮 大聖廟	劉氏通真壇	天運（一九八六）	今喜月明之円宵、値欣中元之節令、……拠此就於本月初壱日、崇建道場、敬焚宜鼎、喧経礼懺、解脱十殿、依玄科修設二昼連宵之清醮、……天運歳次丙寅年七月初二日。(50)
			神誕	32 香港 秀茂坪大聖廟	居民	天運（一九七八）	謹奉大聖仏祖降神扶乩示諭、由於農暦八月初一日起、虔誠斎戒……特此通知。……天運攸年八月日。(51)
34			太平清醮	33 香港 長洲北帝廟	魏氏広徳祖壇	天運（一九八三）	今拠広東省宝安県香港長洲等処奉道宣経、修建太平清醮、保境迎祥、植福祈安。……天運癸亥年四月初五日。(52)

維中華民国六十九年歳次庚申、正月朔甲子、越祭

	神誕	香港 光漢台太陰娘々祠	鹿嶺 呂氏郷民	中華民国（一九八〇）	日、望戊寅、広東省鹿嶺郷、僑港耆紳呂某某……致祭于月宮司空無極太陰娘々之神前……(53)
福佬客家系	神誕	香港35 西草湾三山国王	海陸豊居民	天運（一九八一）	天運辛酉年弐月廿五日恭祝三山国王千秋宝誕、酌神演戯、由農暦弐月廿四日起廿六日止、一連三天、公演彩竜鳳粤劇団、答謝鴻恩、隆重盛典、……茶果嶺西草湾街坊第十一届値理会啓(54)
	中元	香港36 牛頭角聖人公媽祠	正一派	歳次（一九七九）	本会習俗相沿、一年一度、慶祝盂蘭勝会、謹定己未年七月十七日至七月廿二日、一連六天、於牛頭角……設壇建醮。……歳次己未年六月二十日。(55)
	廟重修	香港37 南醮島榕樹湾三山国王	海陸豊人	天運（一九七八）	天運戊午年佳月重修、三山国王廟宇保境安民、茲将各位郷賢善男信女楽助善款芳名泐石留念
瓊州	中元	シンガポール38 小坡連城街昭応祠	昭応祠信徒	天運（一九八三）	為中国広東省瓊州府各県各市各郷村人、僑居新加坡小坡連城街昭応祠、詣於小坡中秋園、信奉道為慶祝中元、演戯酬神、小施孤食、以祈神明扶持、祠員四季平安、海利大豊収事……天運癸亥年七月日……(56)

大系統	小系統	祭祀	廟名他	儀礼系統	年号表示	原文
客粤系	広東系（内陸部、郷村）	神誕	39シンガポール 梁太爺廟	正一派	天運（一九八二）	為中国広東省瓊州府□県□市□村人、今居門牌□号、詣於□□、信奉道為虔誠崇功、報徳進表、慶賀酬恩以祈神慈顕赫、庇佑合家順安事。……天運壬戌年七月十二日……[57]
		追薦超度	40シンガポール 三巴旺	正一派	天運（一九八二）	状為祖籍中国広東省瓊州府文昌県抱羅市書家村人、現居新加坡……玆在……啓建道場、信奉道為懇求修斎超度、拯救幽魂脱苦、破局解除絆纏、医病煉度康復、薦亡往生得路、藉使家人安心事。……天運壬戌年八月××日。
		追薦超度	41シンガポール 勿洛北路	正一派	天運（一九八二）	状為祖籍中国広東省瓊州府瓊海県博鰲市排園村人、現居新加坡……玆在……啓建道場……（以下同右）……天運壬戌年七月××日。
太平清醮	香港新界 竜躍頭郷42			正一派	民国（一九八三）	拠広東広州府宝安県第六都竜躍頭郷、吉向居住、奉道正一酧恩、保境太平清醮、錫福迎祥。民国癸亥年十月廿五日榜文[58]

太平洪朝	香港新界粉嶺郷43	正一派	民国（一九八四）	今拠広東省広州府宝安県第五都粉嶺村、吉向居住、奉道酬恩太平洪朝、集福迎祥。……中華民国七拾三年正月十五日、表。(59)
太平清醮	香港新界厦村郷44	正一派	民国（一九八四）	拠宝安県第五都厦村郷吉向居住、奉道酬恩、保境太平清醮、錫福迎祥……中華民国甲子年閏十月二十日、榜文。
太平清醮	香港新界錦田郷45	正一派	中華（一九八五）	照拠広東省広州府宝安県第五都錦田郷居住、奉道酬恩、保境太平清醮、錫福迎祥、……中華乙丑年十月十三日、榜文。(60)
太平清醮	香港新界屯門郷46	正一派	民国（一九八六）	今拠広東道広州府宝安県第三都屯門郷、吉向居住、奉道啓建酧恩保境太平清醮迎祥事……民国丙寅年十月　日、榜文。(61)
太平清醮	香港新界田心村47	正一派	民国（一九八六）	今拠広東省広州府宝安県香港九竜司新界沙田区田心村、吉向居住、奉道祈安酧恩保境太平清醮迎祥……民国丙寅年農暦十月十二日、榜文。

大系統	小系統	祭祀	廟名他	儀礼系統	年号表示	原文
		太平清醮	香港新界元崗郷48	正一派	民国（一九八六）	今拠広東道広州府宝安県第三都元崗郷、吉向居住、奉道啓建酔恩保境太平清醮迎祥事……民国丙寅年十月吉日、榜文。
		太平洪朝	香港新界金銭村49	正一派	民国（一九八七）	拠広東広州府宝安県第六都金銭村居住、奉道混元酔恩洪朝福果、錫福迎祥……民国丁卯年元月十八日、意文。(62)
		太平清醮	香港新界沙田大囲村50	正一派	無号（一九八七）	広東省宝安県九竜新界沙田大囲村、吉向居住、奉道酔恩保境太平清醮、集福迎祥……丁卯年十月日、榜文。
		太平清醮	香港新界蓮花地51	正一派	無号（一九八七）	広東省宝安県新界蓮花地合山囲、吉向居住、奉道酔恩、保境太平清醮、集福迎祥、理泰事。……丁卯年十月　日、榜文。
		太平清醮	香港新界泰亨郷52	正一派	中華（一九八五）	照拠広東広州府宝安県第六都泰亨郷居住、奉道酔恩、保境太平清醮、錫福迎祥……

	太平清醮	53 香港新界大埔林村郷	正一派	民国（一九八一）	中華乙丑年十月　日、榜文。
	神誕	54 香港新界坪輋天后廟	仏教	民国（一九八四）	中華民国広東省宝安県香港新界平源天后廟、奉仏啓建心誠修礼大慈宝懺一天、超幽集福迎祥功徳事。……中華民国七十三年歳次甲子三月廿三日、開壇。(64)
	太平清醮	55 香港新界沙田九約	正一派 分派	無号（一九八五）	広東省宝安県九竜新界沙田郷吉向居住、奉道酧恩保境太平清醮集福迎祥理泰事。……乙丑年十月　日、榜文。(65)
広東（沿海漁村、市鎮）	神誕 超幽	56 香港離島糧船湾	茅山派 分派（全記謝道院）	？ ？（　）	奉為僑居香港埠九竜新界西貢離島糧船湾居住、奉道修建恭祝千秋、揚旌掛榜、誦経礼懺、延生礼斗、水陸超幽、集福禄寿慶迎祥功徳事、……於本月十九日、延道啓建酧典功徳法事、三昼四宵……庚申年三月十九日。(66)

大系統	小系統	祭祀	廟名他	儀礼系統	年号表示	原文
		中元	香港市部 西湾河 57	茅山派	民国（一九八〇）	啓建盂蘭勝会、植福迎拝。……向今二十五日、仗道数名而請福、祇在吉処立壇、外設放玉山餘口水陸超幽乙堂。……中華民国六十九年歳次庚申七月二十五日。(67)
		太平清醮	香港九竜 西貢蠔涌 58	茅山派（謝道院）	無号（一九八〇）	庚申年……
		神誕超幽	香港離島 西貢滘西洲 59	茅山派（謝道院）	無号（一九八〇）	庚申年……
		太平清醮	香港九竜 衙前囲七約 60	正一派分派（郭陳道院）	歳次（一九八六）	太平清醮集福文榜……玆拠奏為中華国僑居香港埠九竜衙前囲村、各家利向居住、設壇奉道修建正一酔恩保境太平清醮、誦経礼懺、揚旛掛榜、朝儀行道、水陸超幽、集福保安利泰、迎祥功徳事、……歳次丙寅年十月吉日、郭陳道院。

太平清醮	香港61 石澳郷	正一派	無号（一九八六）	広東道宝安県九竜新界石澳郷吉向居住、奉道酹恩、保境太平清醮、集福迎祥事、……丙寅十月、日榜
太平清醮	香港新界62 元朗旧墟	全真派（円玄学院）	天運（一九八三）	奏為中華国広東省広州府宝安県香港九竜新界元朗街坊十年例醮勝会……天運癸亥年十月二十三日。[68]
太平清醮	香港新界63 大埔旧墟	全真派（円玄学院）	天運（一九八三）	廼有中華国広東省宝安県香港九竜新界大埔頭郷、啓建太平清醮、奉道修斎、鋪壇設供。……天運癸亥年十月二十七日。[69]
中元	香港64 柴湾天后廟	全真派（青松観）	天運（一九八〇）	嗣派全真演教、叨承科範事、……乃有香港埠柴湾区居民盂蘭建醮万善縁法会第十二届庚申年建醮大会……奉道惟虔、鋪壇設供……天運庚申年七月廿六日……[70]
中元	香港65 柴湾天后廟	全真派（抱道堂）	天運（一九七九）	今拠中華国広東省広州府宝安県香港柴湾新邨坊衆盂蘭第十九届値理会、設壇奉道、啓建中元盂蘭万縁勝会……天運己未年七月十三日、香港抱道堂承

大系統	小系統	祭祀	廟名他	儀礼系統	年号表示	原文
						壇榜(71)示。
		太平清醮	66香港新界粉嶺蓬瀛仙館	全真派蓬瀛仙館青松観	天運（一九八六）	嗣派全真演教叨承科範事……乃有香港新界蓬瀛仙館青松仙観、同属全真道竜門法脈……四壇鋪設、九昼連宵、啓建羅天金籙太平清醮。……道暦四六八三年天運丙寅歳十月十五日。
		中元	67シンガポール摩士街盂蘭勝会	広東茅山派	天運（一九八二）	雷霆都司照拠大中華国各府州県人星洲公民結固奉道修建盂蘭勝会、保境凝祥……今柴月是日夜為始、仗道修建盂蘭勝会法事功徳、一昼連宵、超度孤魂満堂、……天運壬戌年柴月　日示。

この表を見ると、「天運」の年号使用にはいくらかの分布傾向が認められる。先ず、最も顕著なのは、閩北系が殆んどなく、逆に閩南系が非常に多いという点である。広東の潮州、恵州、瓊州などの所謂、広東福佬も「天運」を常用しているが、これも閩南系エスニックグループに入る。これに対して、広州府を中心とする広州系、梅県、帰善県などの客家系の場合、農村地帯、特に宗族支配の強い新界郷村地区では、全く「天運」を用いないが、市鎮部の香港、九竜、シンガポール、ペナンなどでは、時に「天運」を用いる例が散見せられる。

以上の分布特徴は、天地会が元来、台湾、泉州、潮州などの閩南系グループから発生した結社であったこと、その活動は宗族、地主支配の強い郷村には滲透できず、主として宗族支配の弱い市鎮部に勢力を伸ばす傾向が強かったこと、この二つの理由によって説明することが可能であろう。以下、この点を細かくみてみよう。

㈠　閩北系

閩北、即ちここでは福州府及び興化府の二府、出身者の間では、現在、「天運」の年号を用いるケースは殆んど見出せない。この二府出身者は近親関係にあり、特に興化府莆仙の莆田木身戯は福州の祭祀にも招かれることが少くない。同じ祭祀観念に立っていると言えるが、年号表示はともに「太歳」の語を用いている。ただ、このグループでも、過去には、部分的には「天運」を用いていた形跡がある。例えば、表に示したが、福州系の五鳳閣では、壬戌の年、即ち一九八二年では、「太歳」と表示しているが、十年遡る一九七二年壬子では「天運」を用いている。この廟は主神に華光大帝、陪神に田都元帥を祀る。一九七二年九月十八日、華光大帝の誕辰日に当たって「祈安醮」をかねた神誕祭祀を挙行したが、現在同廟に保存されている疏文には、「天運」の年号が用いられている。この頃には「天運」を常用していたことが明らかである。閩北系グループでも、シンガポールでは過去、「天運」を用いることがあったことを示すものと云えよう。ただこれは約二十年のことで、現在、このグループでは「天運」を用いるケースは皆無となった。過去に若干存した「天地会」の痕跡は既に消滅したものと見てよいであろう。因みに興化系では過去にも天地会の形跡はない。この閩北グループは、シンガポールの華僑社会では民国期に入って移住してきた後発グループであり、天地会の反清復明運動がシンガポールにおいて最も旺んであった道咸同光の期間にはまだ移住者が殆んどいなかったのであるから、このグループに天地会の痕跡が稀薄なことも当然であろう。但し、故郷の莆田、仙遊、古田

などは清初から天地会の活動があったことが知られているから、このグループが天地会に全く無縁であったというわけではない。移住時期が遅れたために故地の天地会活動の影響が僑居地に及ばなかったということであろう。

(二) 閩南系

上表に見るごとく、このグループ内で、「天運」の年号が頻繁に用いられている。閩南系エスニックグループは、上表に示したごとく、本家の泉州人、漳州人を中心とし、広東省域の潮州人、恵州海陸豊人、福佬客家人、瓊州（海南人）など多数のサブグループに分岐しているが、表示例三〇例中、二七例までが「天運」の年号を用いている。以下、細かくみてみる。

(1) 泉・漳州人

この系統は、道士団の用いる榜、牒、関などの文書のすべてにおいて、「天運」が常用されている。僅かにシンガポール後港斗母宮の神誕祭祀に「太歳」が用いられているが、この廟は泉、漳人以外の信徒が多く、閩南色が薄れているためと見られる。

この閩南系の台湾移民社会でも道士の榜文、疏文は、上表16―18のごとく、「天運」を用いている。台湾は天地会の祖と言われる林爽文の根拠地であったから、この地に「天運」が用いられるのは理解し得るが、上表の三例は何れも、「天運」を用いる一方、奇妙なことに「大清国」の国号を用いている。「天運」にこめられた反清の姿勢と矛盾することになるが、地名としては大清の版図に服しつつも、「天運」を用いることでなお「反清」の意思を捨てないことを示すものであろうか。これは清代、道光頃から伝わる台南道士の文献であり、清朝治下において、「天運」を用いていたことは明らかである。「大清」と「天運」の併存は、「天運」「反清」の強い意思の現われと解してお

く。この「天運」は戦后の台湾で、台南、台北の双方において、相変らず用いられている。既に「反清」の現実的意味は失なわれているから、道士団の隋性で用いているにすぎないが、清代以来、継続して天地会の伝統が生きていると言えよう。

(2) 潮汕人

次に、同じ閩南系エスニック・グループに属しつつも広東省内に居住する潮州、恵州グループ（潮汕グループ、或は広東福佬グループ）をみる。このグループは香港、シンガポール、マレーシア、タイなどに商人として僑居し、活躍しているものが多いが、エスニック・グループとしての結束が強く、伝統を保守する傾向が強いと言われる。祭祀儀礼は、潮州人が仏教系、恵州人（海陸豊人）が道教系によるが、海陸豊人の方が古い形である。しかし、何れも年号は殆んどすべて「天運」を用いている。関与する祭祀儀礼執行者の集団は、仏教系の徳教、道教系の巫教などかなり性格を異にしているにも拘らず、「天運」を用いる点では一致している。宗教集団のみでなく、住民自身も「天運」を用いている。　潮汕系グループ、所謂「広東福佬」が天地会と非常に深い関係にあったことを物語るものである。「天運」を用いず、「中華民国」と表示する例が一例、香港光漢台呂氏一族の大陰娘々神誕祭祀の祭文に見られるが、この祭祀には道士が全く関与していないため、住民だけで改作した可能性が強い。（祭文や対联は一族内の文人が手を加えてきた形跡がある）。

なお、広東福佬の一部は客家人との関係の深いものがあり、これは「福佬客家」と称し得る。このグループも概むね「天運」を用いている。

(3) 瓊州人

また、広東省内をはるか南方に離れる瓊州（海南）も閩南人の殖民地であるが、この瓊州出身のシンガポール、マレーシア居民も、その祭祀に「天運」の号を用いる。海南道士団がこの伝統を保持している関係で、私人の超度功徳でも「天運」の号を用いている。

以上、閩南系諸派を通観したが、何れの派においても「天運」を用いることが通例になっていることを確認し得よう。

㈢　広東系（客粤系）

次に広東系グループの場合をみると、ここでも「天運」の年号は散見されるが、その分布はやや複雑である。以下、若干、分析的に検討してみる。

(1)　内陸部郷村地域

上表42～55、十四例は、広東新界郷村地帯の村落祭祀の場合である。概むね、単姓また複姓の宗族村落か、またはその連合体である。また祭祀儀礼の執行者はこの地域の清代以来、正統派と目されてきた正一派道教団である。このケースでは表から明らかなように「天運」の年号を用いる例は皆無である。多くは、中華民国、民国、或は中華の号を用いる。全く年号を表示せず、単に歳次年、或は△△年（干支）と記すものもかなりある。要するにこの地帯の農村は清代以来、常に宗族地主の支配してきた関係で、いわば清朝支配体制の下に組み込まれており、「反清」を標榜する「天地会」もその勢力の滲透が困難な地域であった。太平天国など、天地会がこの郷村に滲透し得た時期もあった筈であるが、現在まで「天運」の年号が全く用いられなかった点をみると、この地域における天地会の勢力は微弱で、持続性に乏しかったものと考えられる（但し、皆無ではない。後述）

(2) 沿海市鎮地域

上表56～67、十二例は、沿海の漁村か、或は商人、工人の密集聚居した市鎮地区のケースである。ここでは郷村地域のような有力宗族による支配体制はなく、漁民、商人、工人などの雑居、混成の社会である。儀礼担当者はさきの郷村部におけるような正一派道士団は稀で、茅山派の小道士団か、新来の全真派道士団である。61のように稀に正一派道士が出仕するケースは、比較的伝統のある漁村であるが、それでも正一派の中では新興の分派が担当しており、正統派（旧派）は出仕しない。要するにこの地帯は、茅山派か全真派の勢力圏であり、宗教祭祀の面では内陸郷村部とは異なった地域に属していたと言える。さて、このケースでは、全真派の出仕する市鎮部の祭祀で「天運」が集中して用いられている。シンガポール市部の祭祀（67）は茅山派系と見られるが、ここでも「天運」の年号が用いられている。おそらく天地会勢力は、これらの市鎮部の小商人、工人など貧窮層を中心に滲透していて、その地域の儀礼を担当する。宗教団体も正一派のような体制的保守的な体質の枠からはみ出ることが可能だったため、天地会の影響が及び易かったのであろう。但し、香港の茅山派系は天地会とは無関係であったから、殆んど「天運」は用いていない。僅かにシンガポールにそのケースがあるに止まる。これに対して香港の全真派はすべて「天運」を用いている。香港の全真教団は戦後に大陸から香港に脱出してきたもので、戦前、大陸においても「天運」を用いていたものと思われる。

要するに広東系では、閩南系と異なり、郷村の農村、漁村部では「天運」を用いることはないが、商人、工人の密集する市鎮区において全真派道士の儀礼の下で「天運」の号が集中して用いられているということができよう。天地会と香港全真教団の関係については、今后の討究に俟ちたい。

Ⅱ　天地会符字の使用

次に天地会の遺風を伝えるものとして、天地会特有の咒符が用いられるケースがある点に注意したい。例えば、閩南系、泉漳人グループの道士の奏文には、しばしば、天地会特有の複合文字が咒字として使われる。事実、上表シンガポール聖宝壇の斉天大聖神誕の奏文では、次のような四字が冒頭に記される。(72)

　　[illegible]、合平安擬疏文

また、同じくシンガポール善聖壇の斉天大聖神誕祭祀の疏文にも同じく次の四文字を記す。(73)

　　[illegible]

この符字については、天地会の文献に記録がある。例えば、林爽文の烽起失敗の後、天地会の残党陳蘇老、蘇葉などが福建同安県に帰り、晋江県人陳滋、陳池等と、ひそかに「[illegible]会」を作ったという。乾隆五十七年九月十五日批、軍録、にのる「閩浙総督伍拉約奏審擬陳蘇老等人折」に次のごとく記す。(74)

　　竊かに照するに泉州匪徒陳蘇老等、天地会の名色を改設し、衆を糾めて劫せんと図る。……天地会の匪、査拿厳緊なるに因り、「[illegible]」の名色に改造す。又、従前、台湾の林爽文、曽って順天の偽号を用いしを憶いて、今に随いて素より刻字を能くするの呉牛、「[illegible]」の二字を刊刻す。……

この「[illegible]」の二字は、「[illegible]」が青天を意味し、「[illegible]」が黒地を指し、二字で「天地」を暗示するものという。また別に「天地会」を「[illegible]」と記すケースもあるという。

従って、さきのシンガポールの泉、漳人の斉天大聖神誕祭祀の符字四字の上半分「[illegible]」とある二字は、この天地

会の暗号、「天地」にあたると見られる。「靳」は南玄、即ち「南地」を意味するものと見る、全体で南洋の天地の意味であろう。下の二字「腴雖」の意味は不明であるが、この符字が「天地会」の遺風を伝えることは間違いない。このような符字は、香港には見出せない。シンガポールの方が天地会の影響が強いと言えよう。

Ⅲ　天地会常用対聯の流伝

かつて古く民国二十三年（一九三四）八月、国立北平図書館館刊第八巻第四号に太平天国の研究家羅爾綱が「一部新発現的天地会文件鈔本」と題する論文を載せ、広西省貴県修志局の採訪蒐集した天地会文件を紹介し、併せてその鈔本を排印掲載した。この文件は天地会の重要文件として有名になり、近年に至ってもこれについての考証が続いている。羅爾綱氏自身の説明によると、[75]広西貴県は鬱江の河辺にあり、咸豊年間に起った天地会の一派「艇匪」の支配地区であり、また天地会大成王の属邑でもあって、光緒末年の李立亭の烽起にもこれに呼応した県であった。従ってこの文献はこれら咸豊以来のこの地の天地会の伝承に係るものと推定されている。文件は、㈠引文、㈡洪門紀念図、㈢洪門詩篇及拝会互答、㈣対聯及其他の四部分より成る。このうち、第四の「対联及其他」の条には、天地会の祭祀場地において、結拝儀礼等に用いられる建築物の種類と、それぞれの対联が記されている。建物は、霊王廟、九層塔、忠義堂、義合店、花亭、少林寺、橋（頭）、観音座、関帝座などで、これらの設備の前で団拝、入会結拝等の儀礼が執行されたものと推定される。対联としては、霊王廟が本殿と門口の二対、九層塔が正面と二板（二階）の二対、花亭が二対、関帝座が二対、他は忠義堂（関帝を祀る）、義合店、少林寺、橋、観音座など何れも一対を示している。このうち、関帝座（おそらく関帝像神龕）の二対の一つは、次の如く記されている。

匹馬斬顔良、河北英雄皆喪胆。
単刀会魯粛、江南豪傑尽寒心。

この関帝対联は、通常、関羽の特性として強調される忠義の面よりは、臂力に勝れた豪傑、強人としての特色に重点を置いた措辞であり、いかにも秘密結社に崇拝される英雄らしい野性味が強く出ている。ところで、この対联の後半部分、「河北の英雄皆な胆を喪い、江南の豪傑尽く心を寒うす」の対句が香港新界、大埔地区の山間村落、碗窰村の関帝廟にそのまま用いられている。この廟の平面図を示すと、次図の通りである[76]（図6）。

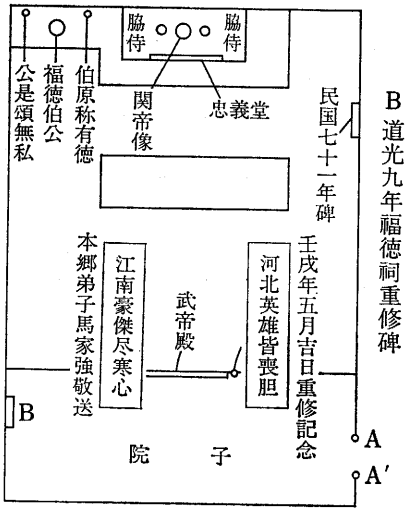

図6　碗窰郷武帝殿平面図

この廟を奉祀する碗窰村の住民は、故地の嘉応州長楽県から新安県に移ってきた客家人であり、廟内の道光九年碑によると、この道光九年頃にはこの廟は既に存在していたという。定着の時期はこれより早く、乾隆末と見られる。当初、福徳祠として建てられ、のちに関帝廟（武帝殿）に改建されたらしい。何れにせよ、天地会に属する客家人が道光—咸豊頃に、右の天地会系の関帝対联を入口に掲げたものと推定される。新界の郷村地帯はさきにものべたように、祭祀に「天運」の年号を用いることはなく、天地会の勢力は全く滲透していない地域であるが、新来の客家村落には、このように天地会の痕跡が認められるのである。

この点は、さきの『天地会文件』第四〈対联及其他〉の条の対联群のうち、観音座の対联についても、若干の検証が可能である。先ず、右文件の中の「観音座」の対联の文言を掲げてみよう。

対観音

西山緑竹千年翠

南海蓮花九品香

ここに見える「西山の緑竹は千年の翠、南海の蓮花は九品の香」とある文言は、新界の客家村落の祠堂の観音座に掲げられている例がある。例えば、香港新界林村約の一村落、新塘村の温氏家祠では、宗祖歴代神位の両側に、これとほぼ同じ文句の対联を貼っている。上図の通りである。(77)（図7）

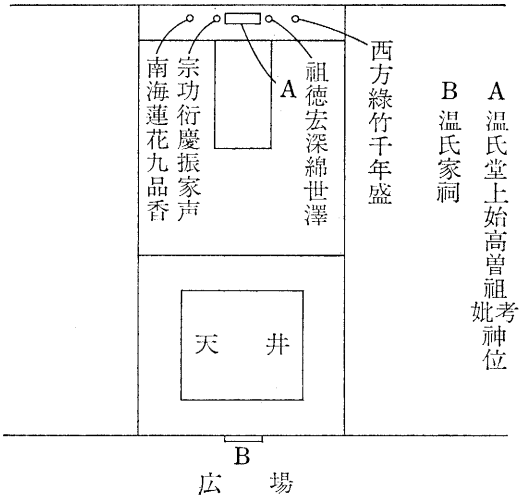

図7　新塘村温氏家祠平面図

この対联は、第一句が「西方の緑竹は千年盛んにして」となっていて、さき「千年の翠」の句と一字、異なるが、第二句は全く同じであり、同一対联とみてよいであろう。

また、同じく新界林村約に属し、さきの碗窰郷の更に奥にある蓮澳村の李氏宗祠の左廂観音座もこの同じ対联を貼る。平面図を示す（図8）。ここでは「千年翠」は「千年茂」となっているが、同一の対联と認められる。(78)

更にもう一例、新界東部、汀角約の汀角村の兪氏（客家人）の家祠にも同じ対联を掲げる。図の通りである。(79)（図9）

ここでは、さきの天地会観音座の文言と完全に一致している。兪氏一族は、汀州寧化県石壁の故地から恵州府恵陽県を経て、帰善県を通り、清代中期、雍正頃に新安県汀角に入ったらしい。新界における後来の新客家人ということができる。

羅香林教授によると、新界地区では康熙初年に遷海令が解除されたのち、潮州、嘉応州、恵州の客家人が恵州淡水を経て、沙魚涌、塩田、大梅沙西郷、梅林のルートをたどって新界東部に入殖し、沙頭角、大埔、沙田、西貢、鯉魚門、九竜城、官富場、茶果嶺などに多数の山間村落群を開いたという。上記の碗窰馬氏、新塘温氏、蓮澳李氏、汀角兪氏など天地会の痕跡を残すグループは何れもこの清代中期以降に新界東部に入殖した新来客家である。これらは何れも清代以前にこの地区に根をはっていた広東本地系大宗族に比して弱小貧困の宗族であり、山間僻地に拠って細々と生活した貧窮農民層ということができる。天地会の遺風が乏しい新界農村にあって、僅かにこのグループにその痕跡が認められるのは、天地会の基盤が貧窮農民にあったことを推定せしめる点がある。

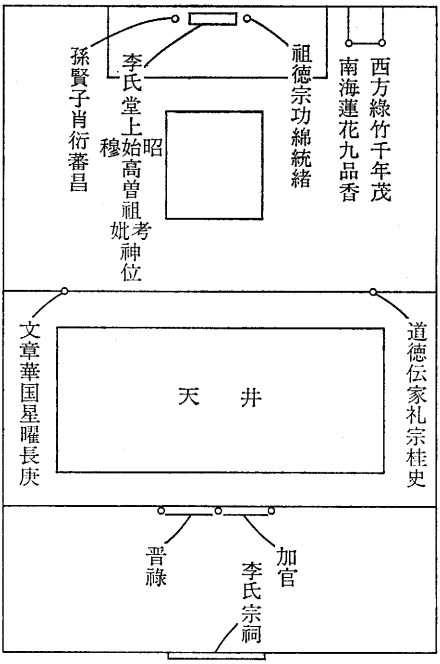

図8　蓮澳李氏宗祠

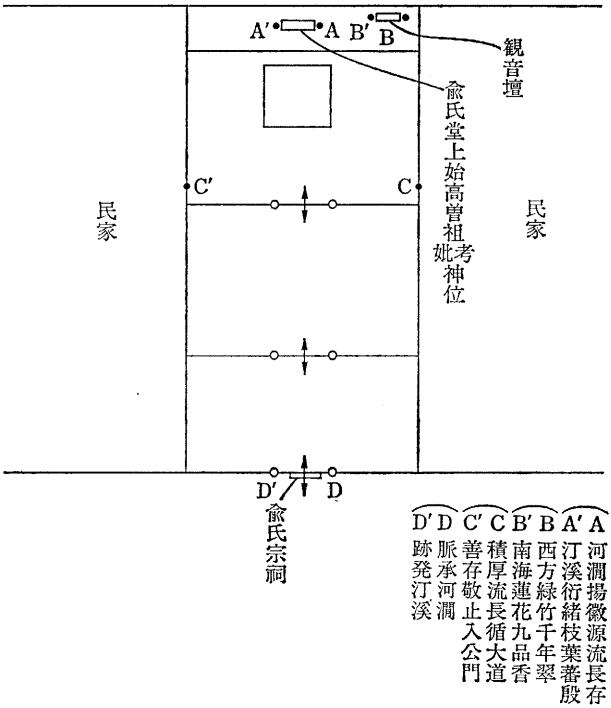

図9　俞氏宗祠図

Ⅳ　天地会系祠廟の散在

次に、香港地区の場合、天地会系と見られる祠廟が散在する点に注意したい。概ね潮州グループの祠廟であるが、例示してみる。

1　天地父母祠

さきの『天地会文件』第三〈詩篇及拝会互答〉〈祭五祖〉の条に

一に天を拝して父と為し、二に地を拝して母と為す

という言葉がある。ここから「天地会」、或は「父母会」という名がでたとされる。ところが、香港の潮州人は、祭祀において、この「天地父母」を最高神として祀る場合が多い。すべての祭祀（中元、歳晩、神誕）において、この「天地父母」を主神とする形は貫ぬかれているが、ここでは専祠或はこれに近い形をもつ竹園天地父母祠の例をあげてみよう。

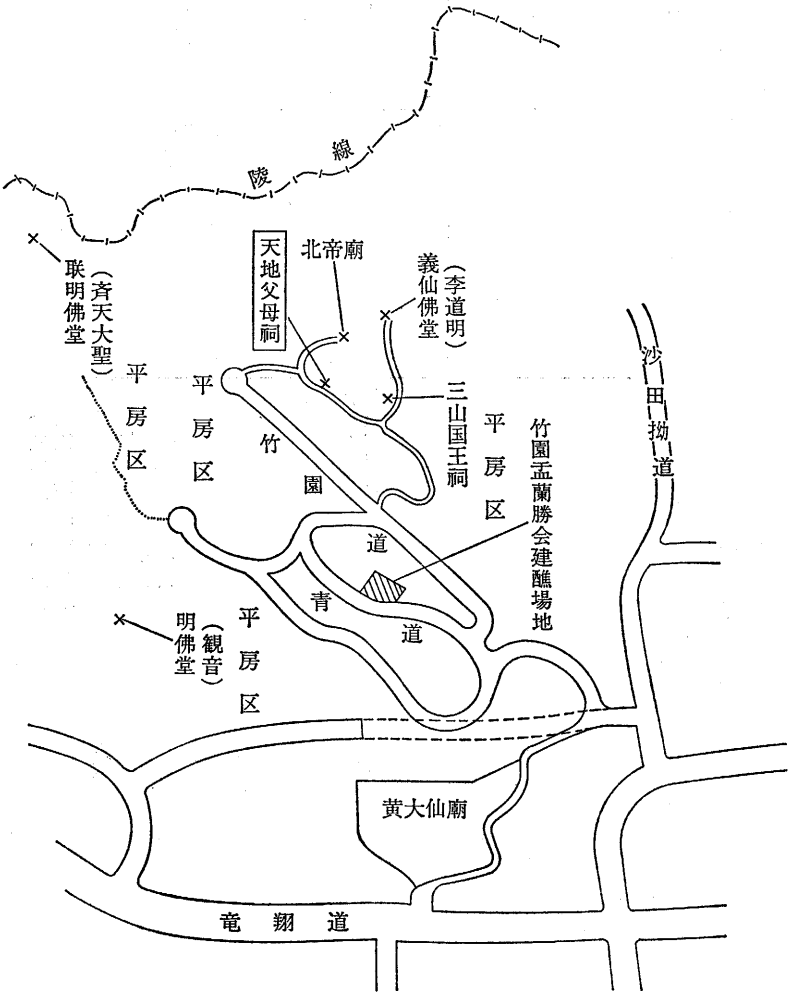
陵線
天地父母祠
北帝廟
(李道明)
義仙佛堂
三山国王祠
(斉天大聖)
联明佛堂
平房区
平房区
竹園
平房区
竹園盂蘭勝会建醮場地
道
青
道
平房区
(観音)
明佛堂
沙田拗道
黄大仙廟
竜翔道

図10　竹園天地父母祠

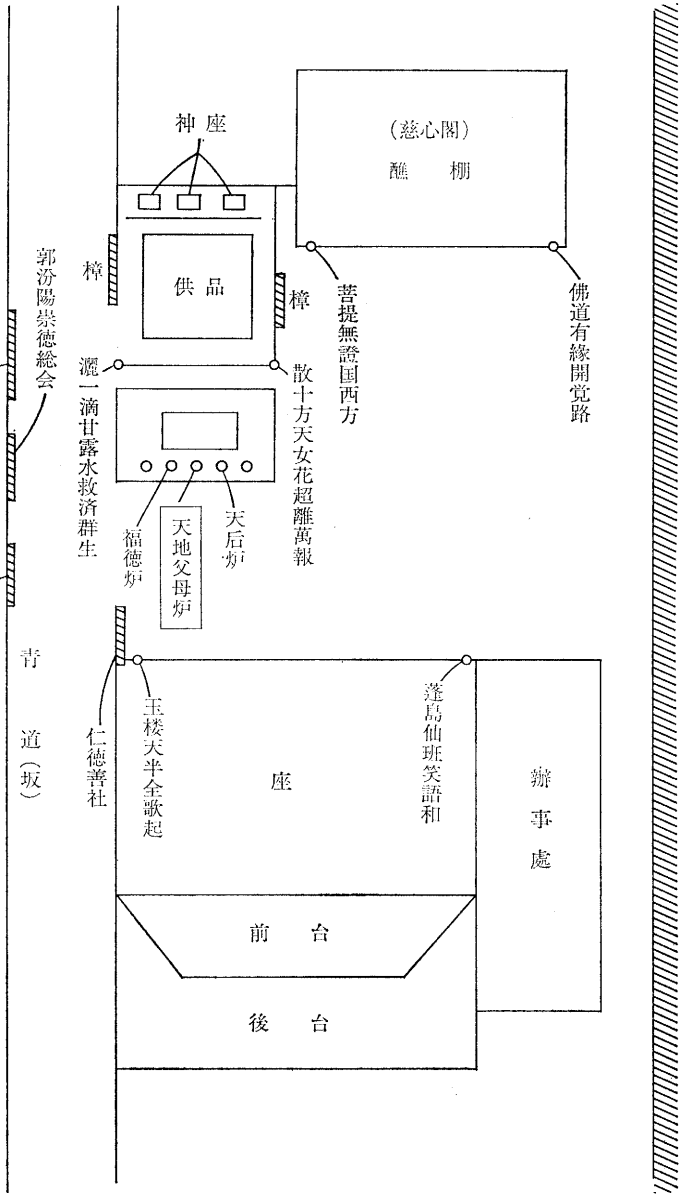

図11　竹園潮僑天地父母中元祭祀図

現在は既に消滅したが、香港九竜の獅子山の中腹に、潮州人海陸豊人難民地区に潮人の建てた「天地父母祠」があった。渺たる小祠で間口半間、奥行き半間、高さ一間の石室にすぎないが、周辺に散在する北帝廟、観音廟、三山国

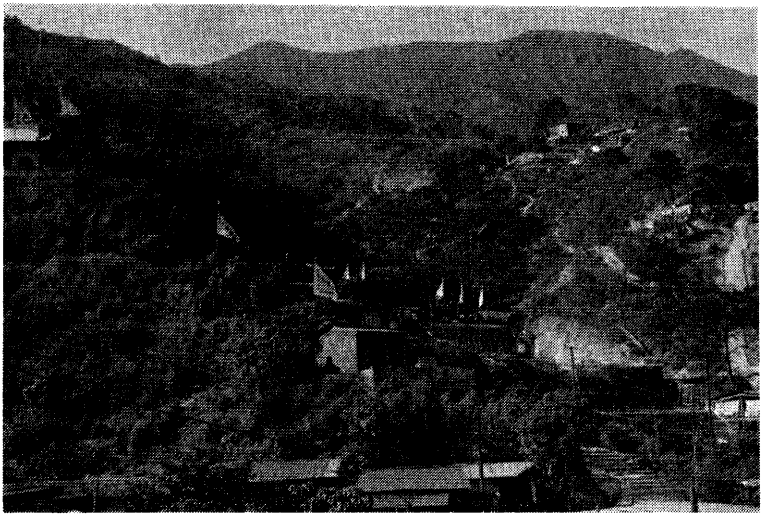

写真7　獅子山竹園地区諸廟

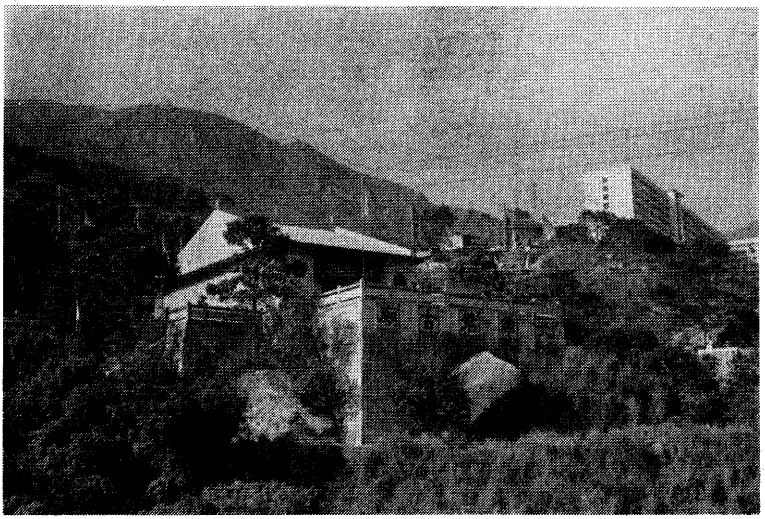

写真8　竹園北帝廟

王廟などの前方を扼する位置に南を向いて立つ（図10）（写真7、8）。神座には中央に「天地父母之位」と刻する石碑、両側に「天后聖母宝座」、「福徳老爺神位」の嵌め込み石板を配する。それぞれ前に香炉を置く。（写真9～10）。明らかに天地父母を中心にした構成で、「天地会」の思想が現われていると言えよう。この小祠は竹園潮僑盂蘭勝会が奉祀しており、毎年中元節、農暦七月初一日から三日間、この「天地父母祠」の三基の香炉を近隣の小公園に架設された神殿に奉迎し、潮州徳教団の建醮儀礼と潮州劇団の潮州劇を奉献する。一九七九年度の場合、場地は図11の如く配置され、建醮儀礼は「徳教慈心閣」、潮劇は「玉梨春潮劇団」が担当した（演目は「唐僧出世」、「唐僧取経」、「崔鳴鳳」の三曲）。第三日、七月初三日、午夜一二時すぎ、神殿前の香炉三基を「天地父母祠」に送る。隊列を組み、鑼を打ちつつ、山道を行進して小祠に至り、香を進めて祠内に安位させる。天地会の信仰がここに形をとって生きていると言えよう。

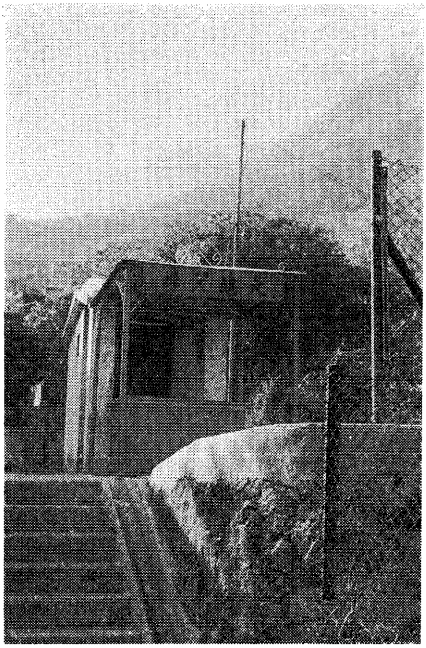

写真9　竹園天地父母祠外観

2　天徳宮

香港新界、錦田郷大江埔村に、これまた潮州人の奉祀する「天徳宮」と称する小廟がある（図12）。本殿には八仙

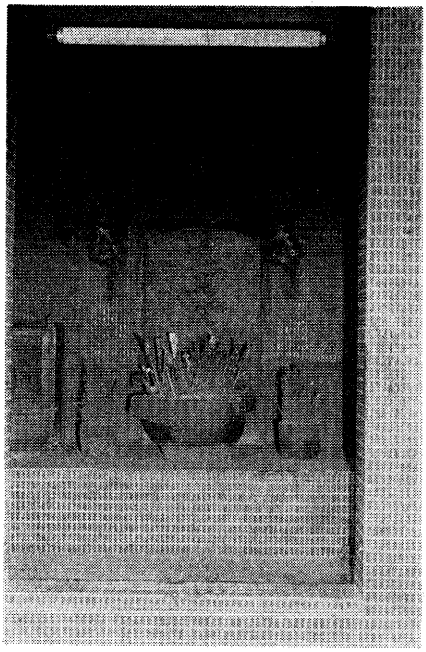

写真10　竹園天地父母祠（内部）

祖師と観音大士を祀り、右廂には宋大峯祖師、斉天大聖、観音娘々、梨山聖母を祀り（斉天大聖像あり）、左側には福徳祠を配する。前庭中央正面に「天地父母壇」を設け、「天光上載、地徳下臨」の対联を貼る（図13、写真11）。廟の前庭前方に「天地父母壇」を設けるのは、潮州人の通例であるが（写真12）、「天徳宮」の「天徳」の名は、British musium 所蔵の「漢大明統兵大元帥黄口暁諭事」と題する文件に「大明天徳皇帝」、「天徳癸丑年」などと記される通り[80]、反清復明の天地会系の年号、帝号である。錦田潮僑盂蘭勝会は、毎年農暦七月十三日に中元建醮を挙行するが、この時にはこの天徳宮の神殿三炉を建醮場地の仮神殿に奉迎する。一九八〇年農暦七月十三日の建醮場地の状況は図のごとくである（図14、写真13）。

午前十時、少年隊が抬架を擁して、天徳宮に至り、神前の三炉（天地父母、観音大士、福徳正神）を架にのせて場地に戻り、神棚に安置する（写真14・15）、以後三日にわたり、醮棚では仏僧が誦経、戲棚では老源正潮劇団の潮劇奉献を行なう。

建醮儀礼は、香港島柴湾の玄都仙館（太上老君廟）の経生が担当。この経生団は道教系の老子を祀りながら仏教風

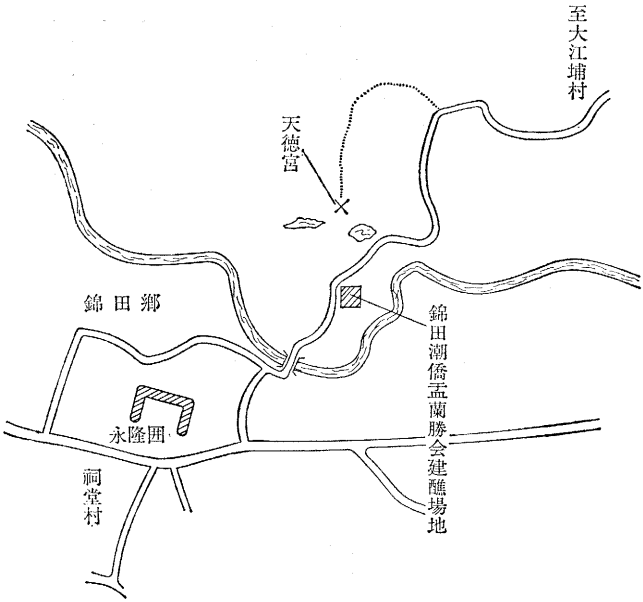

図12　錦田天徳宮図

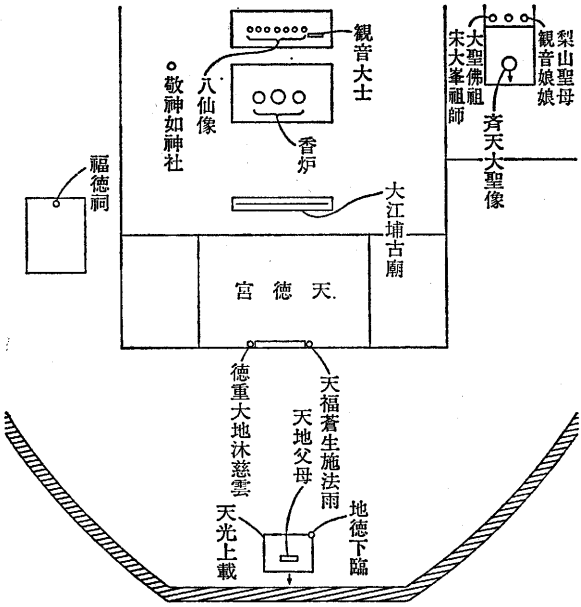
観音大士
八仙像
香炉
敬神如神社
福徳祠
大聖佛祖
宋大峯祖師
梨山聖母
観音娘娘
斉天大聖像
大江埔古廟
宮　徳　天
徳重大地沐慈雲
天福蒼生施法雨
天地父母
天光上載
地徳下臨

図13　天徳宮平面図

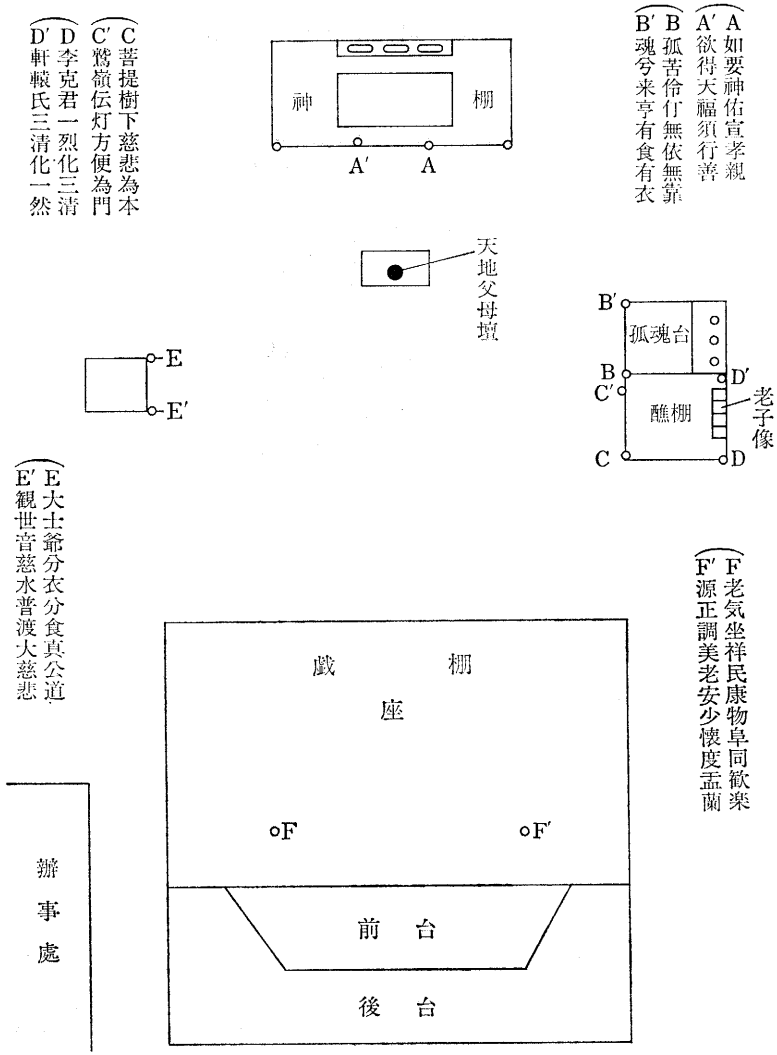

図14　天徳宮中元祭祀図

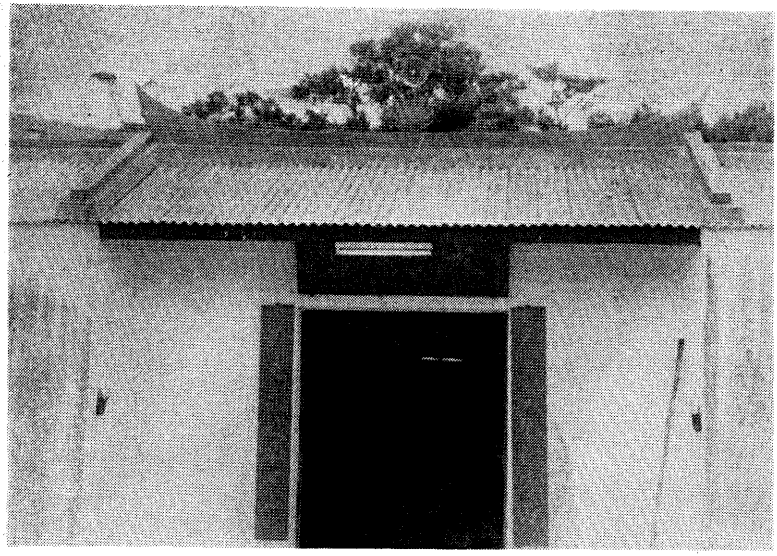

写真11　天徳宮正面

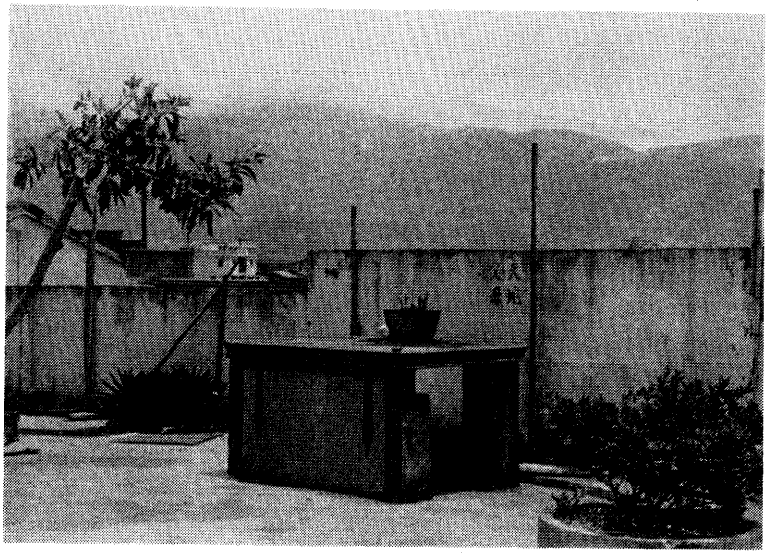

写真12　天徳宮天地父母祠

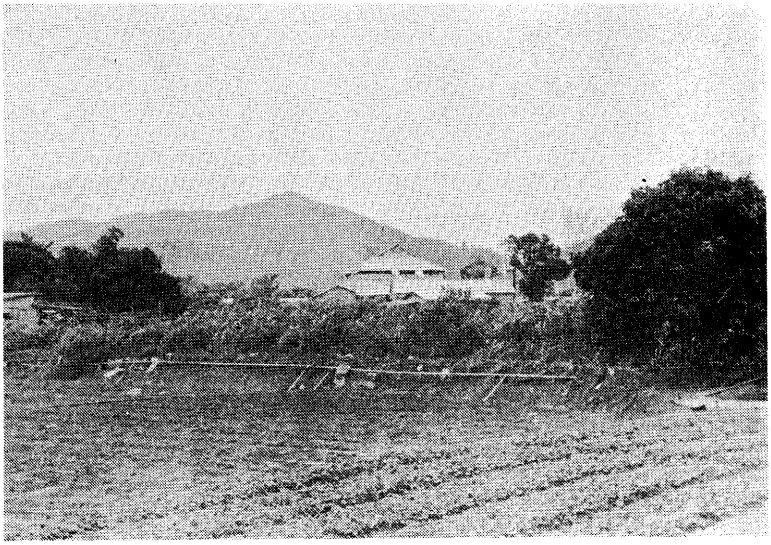

写真13　天徳宮中元祭祀場地

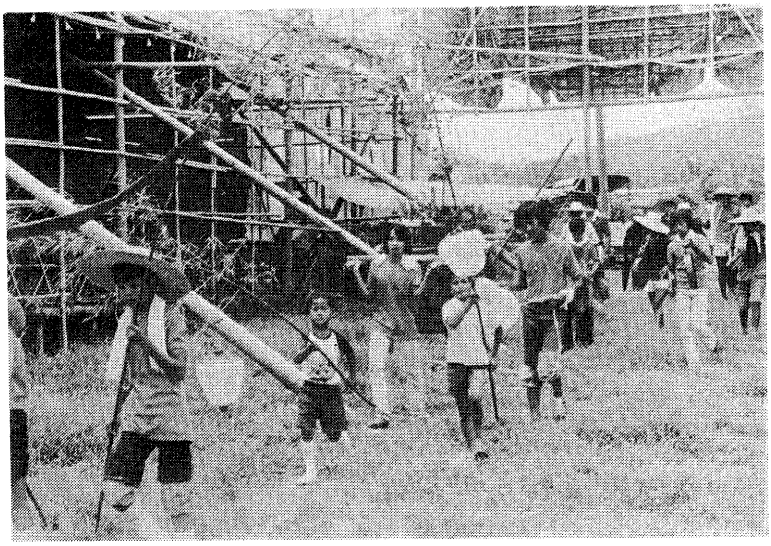

写真14　迎　神　隊

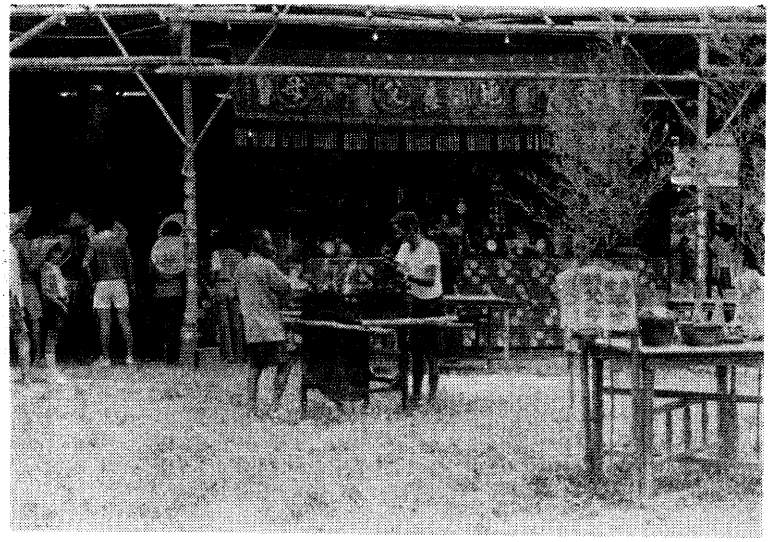

写真15　神棚内迎神安位

の誦経を行なう（対联を老子黄帝と仏の二重信仰を示す）。天地会系の集団はこのような道釈統一、或は儒仏道合一の宗教に馴染み易い面をもっているらしい。潮人の徳教もこの性格が強い。

3　シンガポール粤海清廟

シンガポールの潮州幫の代表的祠廟に粤海清廟があるが、ここにも天地会の痕跡がある。この廟は左右対称の構造で、左廂に「天后聖母」、右廂に「玄天上帝」を祀る。[81]「天后」は天、玄天上帝は玄＝地を意味する可能性が強い。さきの天地会の隠号の「蘭黥」の場合と同じく、「玄＝黒」は「地」を意味し得るからである。「天」と「玄＝地」の組み合せは、自ら「天地」会を寓意することになろう。

なお、シンガポール福建幫の拠点、天福宮も、祀神の天后を「天上聖母」と称する点で、天地会の流れをくむ点があると想像される。

以上、粤東を中心とした天地会会党の香港、南洋に対する展開の痕跡を辿ってみた。全体に潮州及びこれと関係の深い客家（嘉応州）の両集団の痕跡が鮮明であると言える。

四、天地会と演劇

さて、最后にこれら天地会会党と演劇の関係について一瞥しておく。

そもそも天地会は江湖人集団の一派である演劇人、戯班との関係が深く、彼らの一部を包摂していた。天地会会党が演劇と深いつながりを持っていたことを示す記録は少くないが、以下、若干、場面を分けて分析してみる。

Ⅰ　天地会結拝儀礼と演劇

先ず天地会会党は、結拝入会の儀礼において、しばしば演劇を上演したという。例えば、民国十年『東莞県志』巻三四〈前事略六〉（『潮州志』『咸豐四年条引』）に天地会の分派三合会について、次の如く記す。(82)

三合会とは即ち天地会の変相なり。嘉慶間に之あり。道光初に至って漸やく盛んなり…始め、拝会は香山にあり。旋いで広州、東莞各地に蔓延す。咸豊甲寅の変、即ち此に肇まる。初め起れる時、妖書を撰し、隠語を造る。伝教者を亜媽と曰い、引見者を舅父と曰い、又、先生と曰い、升上と曰う。文字を主る者を白紙扇と曰い、奔走する者を草鞋と曰う。各頭目を紅棍と曰い、拝会を「登壇演戯」と曰い、入会を出世と曰う。拝会する毎に、亜媽、紅幘を裹み、白衣を服し、五色の旗を設け、上に「彩寿合和同」の字を書き。五方に分布す。某方従り来

れる者は某旗に隷す。三重の門を設け、門ごとに二人刀を持し八字の形を作る。拝会者は匍匐して入る。自ら仔と称す。赤身披髪し跪伏して斗を拝す。三十六咒を念ず。指を割し血にて盟う。隠語を受け、三角符内に「参天宏化」の四字を写く。髪辮には両綫辮を繋ぎて一圈に結ぶ。頭目を天牌圈正額と曰い、司事を地牌圈脳後と曰い、先に入会せる者を人牌圈左耳と曰い、後に入会せる者を人和圈右耳と曰う。倶に身に短襖を披り、綵帯、藍襪、鋭履にて、刃を露わす。彼此相遇えば、姓名を問うに洪を以って対え、或は三八二十一と称すれば、便ち是の会中の人なるを知る。入教を肯えんぜざる者を皇仔と曰い、其の教を冒す者を野仔と曰い、瘋仔と曰う。入会する毎に、銀一〔両〕、銅銭三百六十〔文〕を科し、祝寿銭と曰う。其の隠語暗号を識らざる者は即ち掠せらる。

ここに見るように三合会では拝会、即ち結拝を「登壇演戯」と言っており、拝会の儀式に必ず演劇を行なっていたことがわかる。この三合会は咸豊年間に仏山鎮の陳開が起したもので、さきにのべた広西貴県修志局採訪の天地会文件は右の記述によく合い、この陳開グループのものである可能性が強い（陳開は咸豊五年に広西に入り、八月、潯州に拠り、建国して大成王と号した。貴県は大成王の属邑であった）。そこで、さきの天地会文件を見ると、その第三部「詩篇及拝会互答」の条に、この拝会時の演劇に関して次のような問答が記されている。「広東方言で記されている。以下、原文を掲げ、訳文を下に記す。）

盤問看戯（看劇について問う）

問：你看過戯無前　　汝、かつて戯を看しことありや

答：看過了。　　看たることあり

問：是乜班名　　いかなる名の戯班ぞ！

答：新好彩。　　新好彩班なり。
問：你看幾多齣　　幾幕の戯を看しか。
答：看五齣。　　五幕を看れり。
頭齣「洪門大会」文武生尽出台　　第一幕は「洪門大会」なり、文武生尽く出場す。
二齣「中堂教子」春娥老官出台　　第二幕は「中堂教子」なり、春娥老官出演せり。
三齣「橋辺飲水」散公脚出台　　第三幕は「橋辺飲水」なり、散公脚出演せり。
四齣「定国斬関」　　第四幕は「定国斬奸」なり。
五齣「和合団円」　　第五幕は「和合団円」なり。
打道鉄竜陣蘇羅掃尾　　鉄竜の陣を打破り、蘇羅にて締めくくり。
看了十分好着齣々新　　まことに面白く、何れの幕も目新らし。

この問答は面識のない三合会会員同志が邂逅した際、相手が会員かどうかを確かめるための隠語暗号の問答であるが、三合会の内部で日常挙行される「拝会」（団拝）儀礼に演ぜられる演劇の内容を反映していると見られる。右によると五種の劇目が演ぜられていたらしい。

但し、右の文には異文があったらしく Gurtave Schlegel : Thian Ti Hwui, The Hung League, or Heaven-Earth League : A Secret Society with the Chinese in China and India (1963) 第五篇〈天地会律法及規約〉第三段〈問題与答案〉の条に載る南洋流伝の天地会書のものは、文字が若干異なる。以下、これらを相互に参照しながら内容を分析してみる。

先ず、戯班名についてみると、右文件では「新好彩」としているが、Schlegelは「新彩鳳」とする、前者は潮州劇の戯班名らしく見えるが、後者は広府班（粤班）の班名を思わせる。

第一齣の「洪門大会」はSchlegel書では「古城聚会」とする。後者は三国演義の「古城会」の場であり、「洪門大会」も同様のものであったと考える。強人拝会に相応しい演目である。

第二齣の「中堂教子」は、Schlegel書では「義堂教子」とする。教者の「義堂」は、広東方言の「義」が「二」と同音であることから「二堂」と同音仮借の関係になり、「二堂教子」を意味する。これは古南戯「沉香太子」、後世の「宝蓮灯」の〈二堂放子〉の場を指すと見られる。劉彦昌と華山聖母の間に生まれた沉香が、異母弟秋児と共に南学で太師秦灼の子を打ち殺し、罪に問われるに至り、劉の継室王氏が実子の秋児を差し出して沉香を逃がすという筋。貴子落草の物語で強人達の看る劇として相応しい。現在の香港、南洋でも最もよく上演される。特に潮州劇の得意とする演目である。

第三齣の「橋辺飲水」は、Schlegel書では、「花亭結拝」とする。何れも天地会文件に載る結拝儀礼であって、「戯」とは言えない。「橋辺飲水」は、椅子に白布をかけて造った橋の下を新会員に鑽らせる「鑽橋」の儀式で、このときに発する次のような呪言が文件に載せられている。

義兄叫你拝霊神　　義兄汝をして霊神を拝せしむ、
三八二一不差分　　三七（八）二十一人、一つを差分わず、
飲過橋頭三合水　　橋頭三合の水を飲み過えたれば、
斉家都是姓洪人　　斉家都べてこれ洪を姓とするの人、

三河合水万年流　　三河は水を合して万年に流れ
二十一人共壱舟　　二十一人は共に舟を一つにせん。
洗浄凡心見五祖　　凡心を洗浄して五祖に見(まみ)え、
反骨奸心定不留　　反骨奸心あれば定(かなら)ず留めざらん。

新入会者はこの拝会の祭場において、演劇上演の場（壇上）に整列し、右の儀式（演劇）を行なったものと見られる。さきの東莞県志の記す「拝会を登壇演戯と曰う」とあるのはこれを指すものと思われる。「花亭結拝」も同様の儀礼を花亭の前で行なうものを指すに違いない。

第四齣、「定国斬関」（或は「斬奸」）以下「蘇羅掃尾」までは、「定国」と「蘇羅」の二つの固有名詞からみて、唐末、懿宗・昭宗の時代のこととして語られる弾詞『安邦志』（道光己酉二九年序刊本）、及びその続編『定国志』（同前）を劇化したものと見られる。『安邦定国全志』という形で合刻したテキストも存する。[83] 弾詞としては新らしいものであるが、譚正璧、譚尋編著の『弾詞叙録』（上海古籍出版社、一九八一年）にも梗概が記されている。話の筋は曲折が多く、細部を記す煩に耐えないが、要するに涿郡の人、趙少卿と臨安の人馮仙珠の二人の夫婦の出世物語である。二人は元来、指腹婚の関係にあったが、妨が多くてそれぞれ別の途を歩き、趙は応試して状元となり、欽安王の乱を平定して兵部尚書となる。馮は男装して武功を立て、挙人を賜わり、治水の功、治病の功で忠顕侯武俊公となる、やがて趙は丞相となる。馮は一時官を辞したが、少卿の病を見舞に行き、酔って女身なることが露見する。少卿、帝にこの旨を奏上、帝は二人の成婚を命じ、馮を安国夫人とする。趙は若年より多数の女性と情交があり、この時、既に八人の妻を得ていたが正妻馮を迎えて九妻同居となる。趙は定国公に封ぜられ、文華閣にあって政を摂ること十年に

及ぶ。安国夫人馮仙珠以下九妻の間に七子八女が生まれた（男は洪英、洪明、洪文、洪声、洪宏、洪章、洪人の七人）。その后、馮仙珠が没し、趙が吐蕃に外征している間に胡妃の兄胡雲豹が文華閣の権を握り、国政を専断し政を失なう。懿宗は太監張永に殺され、胡妃は皇后と太子を排し、自子恵王を帝位につける（僖宗）。趙の長子洪英は太子を救い出して貴州に脱出、趙は貴州にあって計を立て、太子を奉じて出兵、抄関を破って京師を衝く。僖宗を退位せしめ、太子を帝位につけ（昭宗）、胡氏一家を叛逆罪として処断する。趙は更に四人の妻妾を迎え、併せて十二夫人を得る。

以上のごとく、顕官栄達の物語で、天地会会党が親近感をもつような話ではない。特に「定国斬関（或は奸）」とは、どのプロットを指すのか、はっきりしないが、右の梗概からみる限り、奸臣胡忌豹を斬るプロットを指すものかもしれない（これについては後述）。ただ、最后に出てくる「蘇羅」については、『定国志』巻五―巻六に物語として特定できる。関係個所を摘録してみる。趙少卿が亡妻馮仙珠を弔うため越にいる間の出来事である。先ず、巻五、事件の発端部を示す。(84)

〔説〕：海洋之東首に一蘇羅国あり、国王、奸相賀拔金に殺さる。自立して王たり。蘇羅国の太子あり。逃げて海洋を過ぎり、親ら上国に投ず。立ちどころに長安に到り、天朝に相援けんことを懇求す。先に文華に到りて首相趙安に謁見せんとせしも、越に在りて相の妻室を安葬し、未だ回らず。代印の相事の官たる史必達、馮雲顕に見え、哭きて禍難を訴え、哀情を備述し、天朝に斧もて伐ち、奸を除き佞を斬らんことを要請す。……天子、奏を准し、一面にて蘇羅の太子に伝宣し、崇訓殿にて其の情を訴うるに見与し、一面にて人を差し、去きて首相定国公を召し、飛馬にて朝に回り、正事を主議せしむ。

次に、胡雲豹の提議による蘇虎の派遣とその失敗、趙少卿の親征と落着を記す巻六の説白を示す。(85)

趙相、詔を奉じて胡元を匡すも易き事に非ず。為何(なんすれ)ぞ馬到り功を成すに灰を吹くの力も費さざりしか。只だ賀拔金、主を殺して自立せるに因り、番太子救を天朝に求めり。咸通皇帝、胡雲豹の言を聴き、蘇虎を差して辺関に到らしむ。蘇虎能なく賀拔金に殺敗せらる。復た勢に乗り入りて山海関を寇す。一路の漢土、倶に侵掠を被る。溧陽城に住(とど)まりて、防がざるに、趙丞相の兵、所に来り、一戦を以って便ち破る。若し漢土を拒ぎ、身ずから番邦を守らざれば、趙丞相、智足り謀多しと雖も、安んぞ能く功を成さんや。趙相、賀拔金を破り番太子を送りて国に回し、王を称さしむ。趙相を留め表を備え官を差し天朝に到りて入貢す。趙相、番邦に在りて約半(ほぼ)月ありて遂に番王に別れて山海関に回る。

この趙少卿の遠征は戦艦三百隻によったもので、「打道鉄竜陣（一筋の鉄竜の陣をはる」とある文句は、これを指すかもしれない。また、さきの第四齣「定国斬関」の「関」は「奸」の方が意味が通るが（賀拔金を指す）、右の「山海関」の可能性もある。更に第五齣の「和合団円」は趙少卿の凱旋の場と見ることができるが、Schlegel書は「楊城飲宴」に作り、「打道鉄竜陣、蘇羅掃尾」の二句を欠く。この場合は天地会の根拠地「木楊城」での兄弟会党の宴飲儀礼を演ずるものであろう。

以上のごとく、天地会の問答に現われる『安邦定国志』の場面が、この弾詞物語を指すものか否か、今一つはっきりしない点が残る。

一応、考えられる点は、この物語が唐末の懿宗、昭宗の時代のことをのべているのが、明末、崇禎時代を影射しているかもしれないということ、趙の七子が洪英、洪明、洪文など洪字を輩行字としており、洪門の意を寓している可

能性があること、東夷番国蘇羅を助ける話が東北の番夷清朝への優越を示す意図があるかもしれないということ、この三点である。但し、全般的に見て、宮廷高官の物語で秘密結社が親しみを感ずるような話ではないと思われる。

別に現在、香港、シンガポールなどで演ぜられる潮州劇の『安邦定国趙少卿』と題する戯曲を見ると、弾詞の『安邦定国志』とは、全く異なった筋書を展開している。筆者は一九八二年、農暦八月初三日に、シンガポールのチャンギ空港に近い Yankit Village 寅吉村の潮州人の廟、洪仙爺廟の神誕祭祀において、この劇が潮州劇団の一つ「新栄和興劇団」によって上演されたのを参観したが、その劇の内容は、趙少卿、馮仙珠夫妻が自らの子を斬刑にする話である。概況を示す。

第一場：

安邦王趙少卿の子、趙俊強（浄）、官将の扮装にて侍僕趙福を連れて登場。すぐに退場。

第二場（花園）

柳仕忠の娘柳含嬌（旦）、侍婢を連れて登場。侍婢退く。趙俊強登場、柳含嬌と邂逅、互に意を投ず。柳、趙に金釵を与う。

第三場（野外）

小生陳広才、布衣の姿で登場。趙俊強、僕を率いて出づ。両者ぶつかる。退場。

第四場（中堂）

柳仕忠及び夫人徐氏出で、侍俾伺候す。徐氏、娘含嬌の婚約者陳広才の貧を厭い、夫に婚約の解消を提議す。仕忠聴かず、之を叱す。陳広才、趙俊強の二人、出でて共に仕忠、徐氏に閲し、それぞれ女の柳含嬌を迎えん

と請う。仕忠、既に陳広才に女を許せるに趙俊強の唐突の求婚に驚く。趙、ここにおいてさきに含嬌の与えし金釵を示す。父訝かるところに含嬌出で、陳広才を厭い、趙俊強に意を嘱す。母徐氏喜ぶも、父喜ばず。趙俊強、王府の威を張り、含嬌を花轎に乗せ、陳広才を捉えて去る。徐氏喜び、柳仕忠怒り、両人争う。

第五場

趙俊強、出で、さきより偷かに情を通ぜる侍婢林素月と歓会す。素月、趙の近ごろ、柳含嬌を容れたるを聞き、その不実をなじる。両人争う。趙、素月を押し倒して却け、僕に命じて幽閉せしむ。

第六場

柳含嬌、侍婢を連れて登場、侍婢退く。趙俊強出で、両人、閨帳に入る（写真16）。しばらくして趙俊強の妹趙賽英（正旦）、侍婢紫娟を連れて登場、房門を叩く、室に入り、閨帳の動くを見る（写真17）。これを改めたるに、帳下に鞋を得たり。紫娟に命じて棒にて帳を衝かしめしに、含嬌、まろび出ず。趙俊強も次いで出で、情事、露見す（写真18）。賽英、兄の不行跡を強く責め（写真19）、特に林素月を逐える仔細を問う。遂に怒りて去る。含嬌、俊強を唆かし賽英を殺さんことを勧む。

第七場

陳広才、捕われの姿にて私牢にあり。賽英、武装して紫娟と共に出ず（写真20）。牢僕を叩して広才を牢より放たしめ、紫娟をして意を達せしむ、両人、意自ら投ず。広才の鎖を解かしむ（写真21）。趙俊強、柳含嬌、出ず。賽英怒りて含嬌を打つ。俊強これをかばい、抜剣して賽英を殺さんとす。賽英も抜剣して争う。俊強、誤って含嬌を刺す。含嬌斃る。

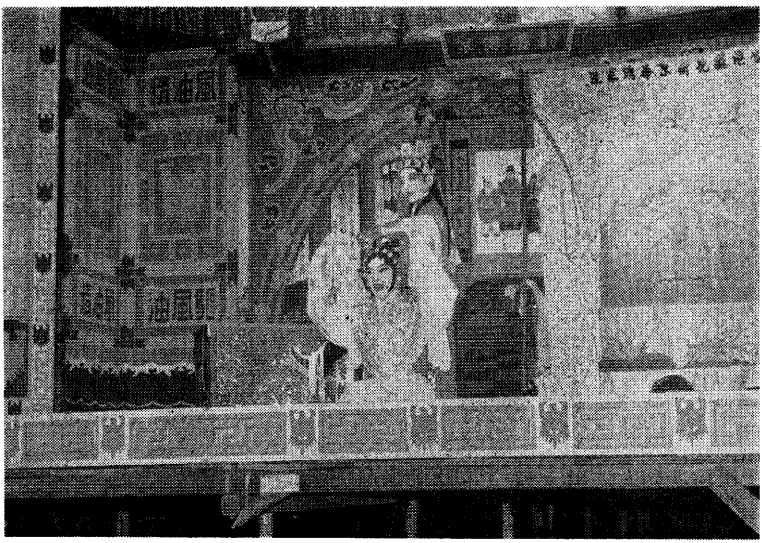

写真16　趙俊強と柳含嫣

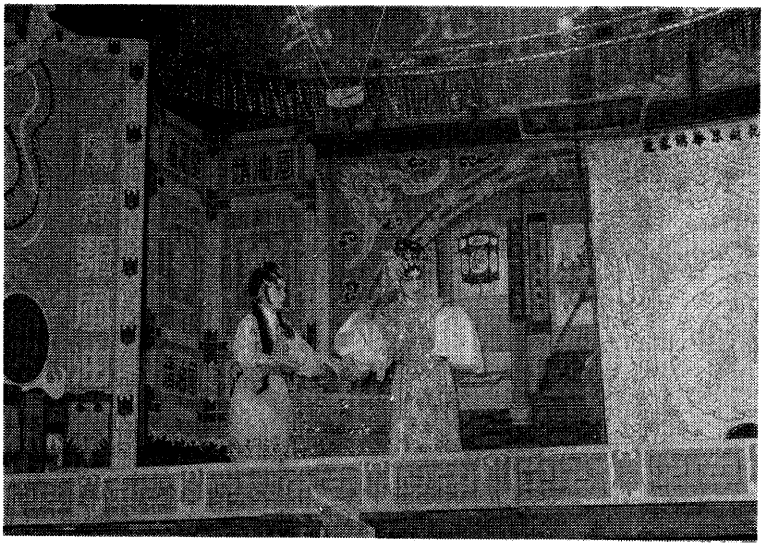

写真17　趙賽英と紫娟

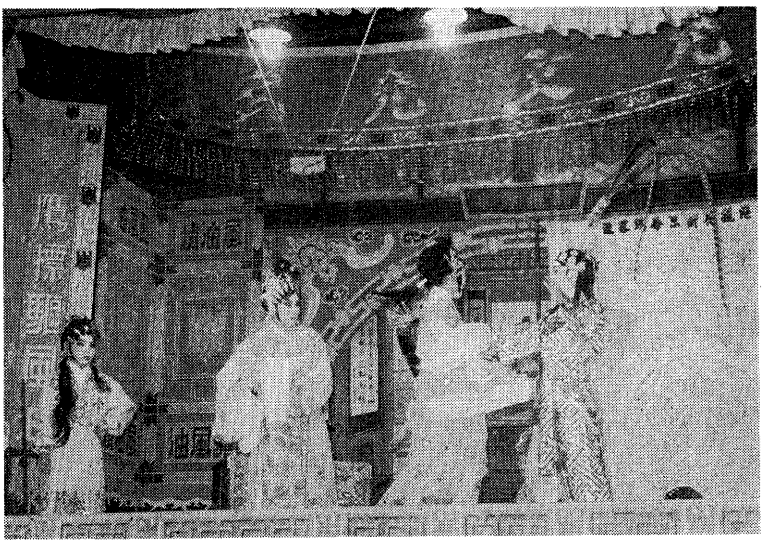

写真18　賽英，俊強・含嬌を暴く

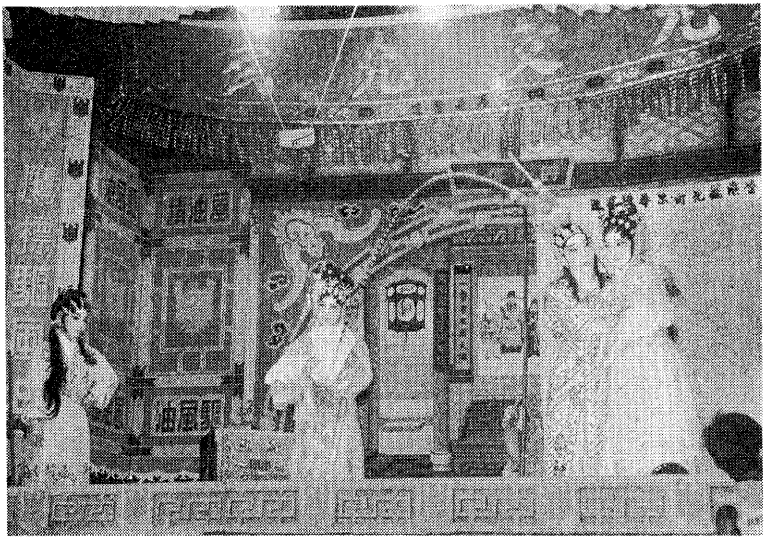

写真19　賽英，俊強・含嬌を責む

写真20　賽英，花園に出ず

写真21　賽英，陳広才を救出す

写真22　陳広才，江辺に逃ぐ

第八場

陳広才、脱走して出ず（写真22）。俊強、これを追って出ず。従卒、多数、追跡す。

第九場

陳広才、追われて海辺に至る。追手の喊声を聞き、衣を脱ぎ岸に捨て、岩影に匿る。趙俊強、卒を率いて出ず。賽英、追跡を妨げんとして出で、傷つきて水に墜つ。紫娟もまた殺さる。

第十場

江南巡按郭佳、船に乗りて水上を行く。

第十一場

郭佳、水上に漂流する趙賽英を発見し、これを船上に救い上げる。介抱し蘇醒せしむ。賽英、身の上と経緯を語る。

第十二場

趙俊強の僕、趙福(丑)出ず。滾白により主人の命を受けて敵人の探索に赴く旨をのべる。江南巡按郭

写真23　趙少卿と馮仙珠

佳、売卜人に変装して出ず。趙福と会う。趙福、主人のために占卜を依頼す。郭、諾し、趙福に随って趙府に至る。

第十三場

趙俊強出ず。郭佳、売卜人の姿にて登場、中堂にて趙俊強の相を占う。趙は姓名を李といつわり、郭に見破られると、郭の身分を暴き、家人に命じて打ち殺させる。

第十四場

宮廷公堂の場、右丞相劉世光、兵部侍郎呂桐、諫議大夫毛松出ず。皇帝昭宗出ず。陳広才は文状元に合格し、趙賽英は李志と変名して武状元に合格し、二人そろって登場、皇帝の謁見を受く。安邦王趙少卿、定国夫人馮仙珠登場。女賽英に気ずかず（写真23）。皇帝は梁山の方正天の起義事件、毛松は江南巡按郭佳失踪事件を奏上す。趙少卿提議し、方正天事件を新武状元李志に、郭佳事件を

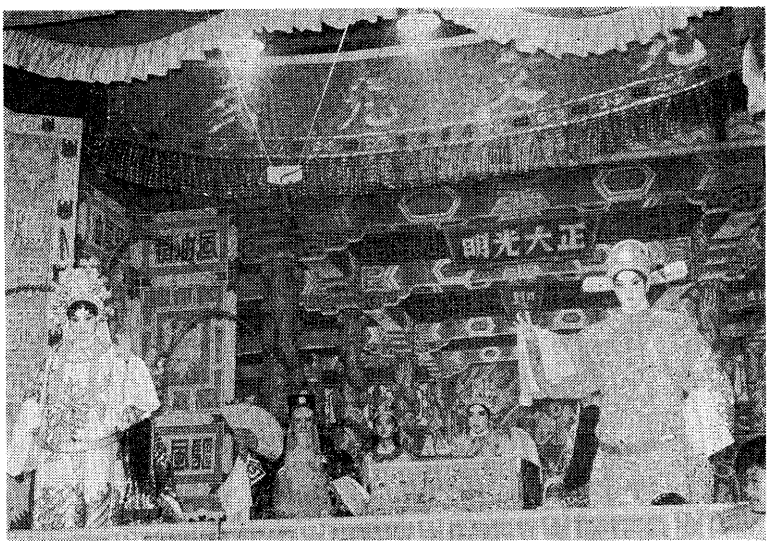

写真24　陳広才と趙賽英，文武状元として登場

新文状元陳広才にそれぞれ解決するよう命ず（写真24、25、26）。全員退場。

第十五場

中堂の場、陳広才、夜、書見して眠る。郭佳の亡霊出る（写真27）。陳、これにより巡按郭佳の死を知る。

第十六場

陳広才、兵を率いて趙府に赴き、これを囲み、中堂に入る。府内を捜索して郭佳の金印を得、趙俊強を逮捕せんとす。俊強、王府の威を楯にこれを拒む。趙少卿、夫人の仙珠（定国夫人）と共に登場。陳広才は聖旨を示し趙福、薛虎の二人の僕を捕える。趙少卿、子の俊強の悪事を知り、これを殴打す（写真28）。

第十七場

陳広才、趙府中堂を法廷とし趙俊強及び趙福、薛虎を断罪す。母仙珠、懇願するも、趙少卿、動ぜ

写真25　同　　上

写真26　趙少卿，文武状元を激励

写真27　陳広才の前に郭巡按の亡霊出ず

写真28　趙少卿，俊強を打つ

ず。俊強は陳広才が妹の賽英と私通せる旨を言い立てるが、このとき、武状元賽英、林素月を連れて登場。林素月は俊強の子を抱く。俊強は証人に囲まれて申し開きならず、陳広才は斬刑を主張。趙少卿、仙珠夫妻は趙家の絶嗣を危惧して逡巡したものの、林素月の出現により、その子を後嗣とすることで趙家の保全が得られることから、俊強の断罪に同意する。陳はこれをうけて俊強を斬刑に処する。

右の話は、さきの弾詞『安邦定国志』の筋に見えない上、話の背景も異なる。即ち、弾詞では、趙少卿と馮仙珠の間には、一子洪英、一女宣華があった外、他の妻との間にも六子七女があったとするが、潮劇では趙、馮の間に一子俊強、一女賽英があるのみで、他に子女は全くいないという設定である。また子女の名も異なる。弾詞とは別系統の『安邦定国志』ということになろう。(86)

しかし、内容は、趙少卿が一子俊強の悪虐に斬刑を以って処断するというもので、さきの天地会の問答に見える「定国斬奸」に当たる可能性はある。特に「大義、親を滅す」という内容は、家族同族を超えたモラルを追究する天地会会党の発想に合う点もある。また、前述の潮州人と天地会との深いつながりからして、さきの問答に見える演劇も潮州劇の可能性は大きいから、所謂「定国斬奸」は弾詞系とは異なる潮州劇系のものであった、と推定しておきたい。

天地会の会党が、その拝会においてしばしば演劇を演じたことは、他にも文献の徴すべきものがある。例えば、雍正十三年（一七三五）五月、江南潁州霍邱県（安徽省中部）の天地会系結社鉄尺会では、拝会に当たって演劇を行なったという。宮中檔案第七十五箱、三七九包、一〇六一〇号、雍正十三年六月二十一日、趙弘恩奏摺に次の如く見える。(87)

署潁州知州李元祥の稟称に拠る。

訪ね得たるに、州属の霍邱県葉家集地方に愚頑の多人、あり。衆を聚めて結盟し、名ずけて鉄尺会と為す。高二、王三酒、宋大漢、郭長腿等数十余人あり。閏四月二十二日に於いて、丁届遠の家に在りて拜盟会酒して演戯す。前に布篷十座を搭し、各々鉄尺一根を執る。高二、王三中に居り、扁担二条を擺列し、以って刑杖と作す。凡そ指揮を聴かざる者は、扁担を以って之を責む。五月十二、十三等の日、又、菜園内に在りて戯三本を演ず。王二酒の家に在りて聚会す。共に二十余席あり。

ここでは、会党達が四月に結拜したときに演劇を行なって神前に誓いを立てたのち、更に五月十二、十三日にも三日間にもわたり、毎日一本、計三本の演劇を行ない、会飲している。五月十三日は関帝の誕辰であり、彼らはさきの天地会文件に見えるケースと同じく関帝信仰を結盟の媒介としていたものと見られる。

会党が結拜に演劇を用いたことについては、孫文もその『建国方略、有志竟成』の中でふれている。次の如くである。(88)

洪門の拜会は則ち演戯を以って之を為す。蓋し此れ最も羣衆の視聴を動かし易ければなり。其の思想を伝布するは、則ち不平の心、復仇の事を以って之を導く。此れ最も常人の感情を発し易きなり。其の口号暗語は則ち鄙俚粗俗の言を以って之を表わす。此れ最も士大夫をして聞きて厭を生じ遠ざかりて之を避かしむる者なり。其の固く団結を結ぶは、則ち博愛を以って之に施し、彼此をして手足相顧み、患難相扶け使む。此れ最も夫の江湖旅客、家無きの游子の需要に合するなり。而うして、最終は乃ち伝うるに民族主義を以ってし、以って其の反清復明の目的を達せん。

ここで孫文は会党における演劇の効用を「羣衆の視聴を動かし易き」点に求めているが、その内容としては、会員に不平の心、復仇の事、及び団結の心を養うものを理想としていたらしい。この点では、関帝信仰を紐帯とした『三国演義』の劇が最も相応しかったと言える。江湖英雄の活躍を演ずる『水滸伝』の劇も勿論、歓迎された筈であるが、中国地域社会の一般的な結合原理を説く点では『三国志』の方が普遍性があり、実際には結拝の際にも『水滸伝』より『三国演義』の方が上演が多かったと思われる。さきに見た『安邦定国志』なども演ぜられたことは明らかで、この点では、結拝演劇は、宗族結合の基礎となる儒教倫理から余り離れない、意外に旧いスタイルの演目が選ばれていたようである。現今の香港で海陸豊集団は、祭祀の醵金集めなどで有力な個人（董事）が遠隔居住者を個人的ネットワークを通じて掌握し、その個人が数名～十数名分の醵金を包攬する形で資金を集積する。秘密結社に近い組織方式で、個人的な異姓兄弟の感覚が強い。この海陸豊集団は儀礼上、例外なく「天運」の年号を用いる点で、天地会色が強いが、演劇の面でも『三国演義』を偏愛している。神誕祭祀、建醮祭祀の何れにおいても、何日も続けて『三国演義』の戦斗場面を演ずることが多い。『水滸伝』が個々の英雄の武勇譚を主とするのに対し、『三国演義』には、集団戦斗、組織戦斗を主体に物語を組み立てており、この点も戦斗集団としての会党に受け入れられ易い要素をもっていた。この点で海陸豊集団の『三国』劇への傾倒には、天地会会党の伝統が反映しているものと思われる。

Ⅱ　天地会と俳優戯班

天地会会党の中に俳優が含まれていたことは、咸豊六年六月に、太平軍の別派、三合会の首領の陳開が仏山鎮で烽起したとき、仏山に拠点を置く粤劇本地班の俳優李文茂がこれに参加し、各地に転戦して武功をあげたことからも、

よく知られている。広州では清代中期以来、江蘇、浙江、江西、湖南方面から流寓する崑班、京班が所謂外江班として劇界の上位を占め、会館（外江梨園会館）を広州城内に建てて城内の官僚大商の宴席演劇や大宗族の郷鎮演劇の場を抑えていたのに対し、広東本地の土腔班は劇界の下流に甘んじ、専ら戯船に乗って僻遠の小郷村を巡回し、その会館（瓊花会館）も広州でなく仏山鎮に置いていた。李文茂など三合会起義に参加したのは、仏山鎮の粤劇本地班所属の下層俳優であった。従って、太平天国終熄の後に、清朝の弾圧を受けたのも、広州外江班ではなく、仏山本地班である（瓊花会館は焼燬さる）。天地会は専ら下層本地班との間で組織上の交渉があったと云える。以下この点について、若干、分析してみる。

1　李文茂

粤劇俳優李文茂が仏山の天地会（三合会）の首領陳開の烽起に参加し、粤劇俳優を率いて各地を転戦し、武功をあげたことについては、麦嘯霞『広東戯劇史略』（『広東文物』巻八、一九四〇年）に詳しい。李は咸豊四年六月に仏山で烽起したのち、広州、恵州の属、十四州県、及び肇慶府を攻め陥したが、広州を包囲して克たず、咸豊五年八月、陳開、梁培友と共に広西潯州府に入った。さきの『天地会文件』の出た貴県もその行動圏に入っていたから、この文件も李文茂と関係があると見られる。以下、『広東戯劇史略』の李文茂に関する記事を摘記する。(89)

粤伶李雲茂なる者あり、又、文茂と名づく、鶴山県の人。世代俱に名優たり。雲茂体は雄にして力は健なり。声は洪鐘の若し。父業を紹ぎて二花面となり、善く「蘆花蕩」の「張飛」、及び「王彦章撑渡」を演ずるを以って、時に声あり。而して財を軽んじ義を尚び、頗る江湖の俠気あり、又、武技に精しく、遂に班中の打武家の領袖と為る。李文茂は初め洪氏の起義を聞き、已に躍々として動かんと欲す。密使に晤うに及びて時機已に至れり

と認め、乃ち班中の同志を率い、反清軍を組み、仏山の陳開と会合し、兵を起して太平天国に響応す。陳開夙に好く江湖の豪客を結納し、是に至って屠狗埋椎の輩、雲と湧き風に従う。各郡邑の土匪、及び不逞の徒の附する者、十万人に達す。声勢甚だ盛んなり。李文茂、班中の健児を編みて三軍と為す。小武、武生等を文虎軍となし、二花面・六分等を猛虎軍となし、五軍虎・打武家等を飛虎軍となす。文茂は班中の蟒袍甲冑を穿きて三軍の主帥と称す。梨園の子弟は倶に衣冠戯服にて之に従う。済々蹌々、居然として文官武将たり、花旦、女角は則ち七星の額を戴き、女蟒袍を着して女官となる。蓋し反清復明は、当に先ず明の衣冠を復すべきを謂えるなり。李文茂、勇敢にして戦を善くす。梨園の子弟の兵を領して前鋒となり、城を争い地を掠し、至る所功あり。班中の跟斗超躍の技を利用し、城垣を翻登す。守卒、猝かに飛将軍の天従り降れるを覩て、咸な驚惶して措を失ない、兵を棄てて逃ぐ。是を以って向う所、披靡す。勢は破竹の如く、広恵の属十四州県及び肇慶府倶に佔する所と為る。徒党既に多く、戯服敷ねからず、乃ち令を士卒に下し、一律に紅巾もて首を約し以って冠盔に代えしむ。世に「紅頭の賊乱」と称する者は是れなり。

李氏の大軍、省城を囲攻するも、久しくして克たず。卒に総督葉名琛の参将衛佐邦、肇羅道、沈隷輝、及び南海順徳の団勇、謝効荘等の敗る所となる。仏山、守を失い、陣亡者、数万人なり。賊、過ぐること梳の如く、兵過ぐること篦の如く、鋒鏑焚劫、棼乱麻の如し。粤民、殃に遭う者、二十万人を下らず。洵に広東空前の浩劫なり。

時に広西の会党の首領梁培友（粤鶴山人）、適々、新たに右江道張敬修（亦た粤人、東莞に籍す）に敗れ、衆を率いて江東に沿い、肇慶に走り、乃ち陳開、李雲茂と聯合す。張敬修、踵を接して追撃す。遂に肇慶を棄て、

梧州を過りて藤県に入り、大黄江に拠りて仍お衆数万人を擁す。時に咸豊五年四月の間の事なり。

以上が、広東における活躍の時期で、これより後は、広西での活動に移る。広東での活躍は比較的短かく、広西の方が長い。以下、麦嘯霞の文を続けて引く。(90)

李雲茂、陳・梁と桂に入れる後、力を合せて潯州を攻む（即ち今の桂平県なり）。城を囲むこと九十余日、八月に於いて之を破る。陳開、潯に拠りて鎮南王と称し、建ちて大成と号す。梁培友は平南県に拠り、平南王と称す。李雲茂は部を率いて西進し、附近の州県を連破し、復た広西の艇匪と連合し、勢復た盛んなり。九月、象州（即ち今の象県）より柳州を佔む。十月、自立して平靖王となる。（以下略）

これをみても、さきの貴県出現の天地会文件がこれらの李文茂、陳開などの三合会会党と関係が深いことを推定し得る。内容的にも粤劇俳優の資料と重なる点が少くないが、これについては後述に譲る。

2　瓊花会館

次に、瓊花会館について。瓊花会館は仏山の本館の他、広州城内にも支所があったという。これについては香港八和会館関係者の伝承がある。『星島日報』一九七八年一〇月二十三日号に、同館会長、関徳興、梁醒波、何非凡、麦炳栄の四人の長老の談として、次の如き記事がのせられている。(91)

粤劇瓊花会館は万暦年間に始まる。一は粤の東南仏山大鎮の大基尾に設け、一は広州沙基広埠に設く。目的は芸人の団結を謀り、芸術を研究することたり。太平天国洪秀全、仏山に起義するに迨び、当時、粤劇に「小武」李文茂、呉鷹揚、肥仔存等あり、清廷の専制を恨み、遂に梨園の子弟を召集し、洪師に響応し、身を太平軍中に投ず。以って粉墨登場に借りて現身もて法を説き、鼓吹して革命を宣伝するの工作あり。以って戯班の流動を利

用して革命志士に聯絡し、消息を伝達する等の任務あり。旋いで洪秀全失敗するに因り、清廷粤劇戯人を仇恨し、遇うごとに必ず殺す、且つ令を下し、仏山の瓊花会館を焚焼し、広州の瓊花会館も亦た拆毀に遭い、充てて公産と作す（即ち広州の六二三路直街なり）。

これによると、仏山起義に参加したのは、小武生の李文茂、呉鷹揚、肥仔存の三人を主とする仏山瓊花会館傘下の俳優で、彼らは日頃、紅船と呼ばれる戯船に乗って移動生活をしていたから、珠江デルタ一帯の地理に明るく、戯船の機動力と情報網を利して宣伝と連絡に当ったという。会党間の連絡は会員でなければ、できない筈であったから、粤班は元来、天地会会党と深い関係にあったものと推定される。李文茂及び粤班子弟の反清起義軍参加については、伝説、口碑の類が多く伝わっているが、そのうち、最近のもので比較的詳しい内容をもつ特摩「仏山古戯台」（『良友週刊』二三九号・一九八一年四月十一日、香港）の記事をあげると次の如くである。(92)

仏山は粤劇の発源地なり。早く明代にありて粤劇戯班は已に仏山に在りて逐歩、形成され、很だ羣衆の喜愛を受く。後来、戯班は但だに仏山に在りて演出せるのみならず、還、四郷にも到る。仏山は珠江三角洲水網地帯に処り、戯班、郷に下るに都べて船に坐るを要す。識別に便あらんが為めに、戯班の船は都べて紅色に髹上す。粤劇芸人もまた「紅船子弟」と誉称せらる。明嘉靖年間（約公元一五一二年）、粤戯班は「戯行」を成立し、一間の会館を建つ、名ずけて「瓊花宮」という（後に「瓊花会館」と称す。）

清王朝に反き、北方より南下せる革命志士と長江以南の各省人民は「天地会」を組織し、地下闘争を開展し、広東は「天地会」の重心たり。許多の革命志士は、都べて隠伏して戯班の中にあり。当時、戯班の社会地位は低微なりしに因り、戯班の中に在れば、掩護に便にして、又、羣衆に接近すべく、仏山の「瓊花宮」は一度び広東

「天地会」の地下司命部と為れり。

清初、北京に一位の名伶張五あり、別に「蠟手五」と号す。清廷の専制に不満なるに因り、台に登りて演戯せる時、常常、戯文の中に在りて一些の議論を加進し、以って抑塞不平の気を抒発せり。清廷に発覚せられ、〔清〕緝拿して罪を治めんことを要む。張五、服を易え装を化し、仏山に逃亡し、「瓊花宮」に落脚す。他、京戯の技芸と崑曲の唱腔を紅船子弟に教給し、又、漢劇の組織に仿效して粤劇戯班を改革し、粤劇をして戯班組織より芸術水平に到るまで、都べて提高するを得、一種の較や完善たる戯種と成らしむ。另に一方面にては、又、反清の力量を組織せり。而して当時、一股の反清の力量あり。これ河南嵩山の少林寺より来れる和尚なり。少林の和尚も反清に失敗し、南に逃げて仏山に流落し、他們は少林拳術を紅船子弟に教給す。

一八五四年、仏山天地会の領袖陳開（老馬の別号あり）、他の副手李文茂と和に衆を率いて起義す。仏山にて這次の起義に参加せる手工業工人は四万多人に達す。紅船子弟の大部分は天地会に加入して、也、数千人あり。還、九十多条の船の漁民と水上運輸の工人あり。起義大軍は、很だ快く便ち仏山を佔領し、還た経堂寺に在りて都督府を建起せり。但だ、這次の起義は很だ快く清廷に鎮圧（下来）せらる。「瓊花会館」は焚かれ、紅船子弟は大批に殺害せられ、粤劇も取締らる。

清の軍隊は重ねて仏山を佔せる後、四十八条の街を焼き、「瓊花会館」の廃推と附近の醬園工場を刑場となし、数万人を屠殺す。粤劇は取り締まられ、一直、清同治七年に到りて、才めて解禁を獲たり。

右の記述の中、清初の張五の部分は、表嘯霞『広東戯劇史畧』に拠るものであるが、咸豊四～六年の陳開起義の記述は独自のもので、粤班子弟数千人が参加したという。やや誇張があると思われるが、天地会と粤班の関係が根の深

いものであったことだけは推定できよう。紅船で生活していただけに、漁民や水上運輸労働者とも関係があったことも想像できる。家室を成さない、游民江湖人の生活であり、それは天地会会党を構成する貧窮の農工人層と連なる階層であったと言えよう。

さて、右に見える太平軍の敗退、瓊花会館の燬焼のあと、同治六七年の会館（吉慶公所と改称）再興までの間は、紅船子弟の苦闘時代が続く。香港八和会館慎和堂編『我們的八和史畧』（一九四九年）はこの経緯を次の如く記す。(93)

其の時に当たりて、幸いに頼るに一部份の接戯の人員あり。如えば施公正、馬東林、徐汝江、何標、謝北等、我が粤劇界の同人、此くの如き不幸に遭遇するを目睹し、深く粤劇の前途、此に因りて消滅するを恐れ、乃ち秘密に応付及挽救の方法を磋商す。施・馬の諸君迫られて仏山由り遷りて広州黄沙同徳大街に至り、臨時に一灯色店舗の中座を租賃して辦事処と作為す。商得たる計劃に依照し、粤劇を改名して京劇となし、当時、梨園京班の名義に因りて以って清廷の注意を掩飾せるなり。果を結ぶや、暗中に函を分ちて粤劇同人に通知し秘密に広州に来たりて集合せしめ、「京班」を組織し、以って生活を謀る。此に因りて幸いに営業を恢復するを得たり。但だ乃ち清廷の淫威に慄れ、敢えて公然とは表演せず。故に当時、極力、京腔を研究す。所謂京腔を唱い、官話を用いて道白する者、始むるに其の時よりす。殆んど純に清廷の耳目を掩飾せんが為の計なり。所有、各郷の抬脚を招接して、生意するに至りては、統べて「慎和堂」に由る。各老前輩の接戯員、惨淡経営し、同時に更に永久経営の計を謀り、乃ち復た接戯条約の中に在りて規定を増加し、公款を訂収す。毎天、現収の登記銀五銭、現収の点心銀五銭、毎枱現収の登殿銀四銭四分、紅鶏銀一銭八分なり。上に列せる各款規定の収費は、統べて戯を定せる主会方面より数の如く邀交せしめ、另に毎本、班東・班号銀三毫を加収す。蓋し此の款は実に粤劇を恢復する

に預備するの基本金たり。当日、班業日に漸く発達し、営業興旺せるに由り、所収の各款、之に因りて日に多し。定戯の主会に昭示して信用せしむる起見の為に、已に同人より決議して吉慶公所を成立し、高く大小京戯を承接するの招牌を懸け、以って招俠を広くす。日を積み月を累ね、収むる所の公款更に鉅なり。遂に当時の接戯員各老前輩に由りて会商し、粤劇を復興する辦法を図謀す。当時の清廷の梨園を子弟仇視する心理、乃ち漸く鬆弛をなし、経済方面に在りては、公款積存の数も亦た地を購い房屋産業を建築し、以って今后粤劇同人に足を立つる営業謀生の基地ありと為すに足るに因りて、当時の各接戯員、復た諸多の籌款の辦法を提出し、腋を集め裘を成し、得る所、益々夥し。乃ち、満清の同治六年、先後に所有公積金及び籌し得たる銀両を将ちて、広州黄沙承祥坊にありて空地を購置す。共に三百八十余井なり。并びに吉慶公所の名義を用いて号召す。各郷の枱脚に対して、信用は提高し、生意は利に順い、班業は日に興盛を見し、而して劇界の同人、日を逐いて増加し、収入更に多し。旋いで全体同人に由りて発起し、吉慶公所を建築し、以って基業を奠む。工程浩大なりと雖も、但だ各前輩、接戯員及び粤劇同人の苦心、孤詣、設力籌募の下にありて、期年ならずして、吉慶公所終に完成し、粤劇、得て以って復興せり。

右によると、清朝弾圧下の粤劇俳優は、仏山の本拠地拠点たる瓊花会館、及び広州の分館の双方を失ない、営業を禁止されて路頭に迷う危機にさらされながら、広州の外江梨園班を擬装し、京戯を看板として生きのびたという。苦心経営の中心を担ったのは、戯班を各郷の主会に売り込む接戯人（マネージャー）であり、彼らを中心に所謂「八和」の組織が形成された。その経緯について上引の史畧は次のごとく記す。(94)

溯るに吉慶公所の落成は乃ち光緒十年に在り。慎和堂の接戯員、更に落成慶典の日、全体粤劇同人の一堂に聚

首するの時に於いて、復た八和会館并びに各堂宿舎、以及び墳落を建築せんことを倡議す。

八和会館の建築に籌備するに、吉慶公所の当時召集せる全体粤劇界同人大会に由り、鄺殿卿（即ち武生新華）、楊倫（即ち小生倫）、張啓（即ち小武崩牙啓）、古秋田（即ち武生大福）、易品山（即ち正旦金）等を公推して籌備員となし、建築の事宜を主持せしむ。……同時に同人大会の議決に依拠し、入行基金二元を徴収するを除くの外、并びに同善堂の名義を以って千益会を設立し、毎份会金三元とす。……籌備すること数戴、光緒十五年に至りて、乃ち一の美奐美輪、規模偉大なる八和会館を完成せり。

ここに八和会館とは八和各堂の連合体で、八和とは、慎和堂（接戯員）、永和堂（武生）、新和堂（丑）、兆和堂（生、花面、正旦、鉄旦、大浄）、徳和堂（五軍虎）、福和堂（花旦、打武旦）、慶和堂（二花面）、普和堂（棚面、音楽師）の八種の脚色別組織を指す、「八和」はおそらくさきの『天地会文件』第三《詩篇及拝会互答》《祭五祖》の条の「一に天を拝して父と為し、二に地を拝して母と為し、三に日を拝して兄と為し、四に月を拝して嫂と為し、五に五祖を拝し、六に万竜大哥を拝し、七に陳近南先生を拝し、八に兄弟を拝して和順ならしむ」とある第八項、「八拝兄弟和順」の句からとったものであろう。従って「八和」の二字はそれ自体で天地会会党の組織であることを示していると言える。八和会館は、民国に入って、「八和劇員総工会」、一九二七年に「八和粤劇協進会」、更に一九四九年以後は「八和粤劇職業工会」と改名した。一九四九年以後は、香港の粤劇俳優も独自の組織を作らざるを得なくなり、当初、亜皆老街に八和会館を設置し、その后、九竜油麻地弥敦道四九五号、麗星大厦六楼に新会址を建置して、現在に至っている。香港九竜、新界の粤劇上演の権限は、八和会館が独占しており、その統制力は旧来と変らない。往時の天地会の遺風はなお存していると言ってよいであろう。

3　紅船

次に粤劇子弟の戯船、所謂〝紅船〟も天地会と関係があったことを注目したい。

先ず、紅船について香港の老粤劇俳優からの情報を集めて研究された故 Barbara E. Ward 博士の論文 The Red Bort of the Canton Delta; a Historical Chapter in the Sociology of Chinese Regienal Drama によると、粤班紅船は二隻一組で行動し、一方を天艇、他方を地艇と称したという。次の如し。(95)

劇団は通常、それぞれ天艇、及び地艇と称される二隻一組の艇によって遊行した。後になって舞台背景が用いられ始め、富裕な俳優が個室を用いるに至って（女性俳優が劇団に加ったこともある）、第三の艇即ち画艇が通常、加えられた。天艇と地艇は全長八十尺、巾十尺であった。画艇はこれより少さく、当時の中型の川船と特に異なった特徴はなく、また通常、紅船とは称せられなかった。

これによると、粤班に女優が加わる以前、即ち、清朝時代から民国初期までの段階では、粤劇俳優はすべて男性で、上下の地位にかかわりなく全員共同で生活したため、個室の必要はなかったため、生活のルールも単純で劇団は同型同大の二隻の船に分乗して行動した、という。一方を「天艇」、他方を「地艇」と称したというのは明らかに「天地」会の船であることを意味する。これを「紅船」と呼んだのは、船体を紅く塗ったためであるが、同時に「紅」＝「洪」の意、即ち洪門の意を寓したからであろう。

また、紅船の構造も天地会の戦艇の構造と似た点がある。先ず、紅船の構造についてみると、現在、三種の説がある。一つは Barbara Ward 博士の作図（何彬友憶述・図14）、第二は、広東省粤劇研究室の作図（劉国興氏憶述・図15）、第三は香港区域市政局の作図（顧鴻見憶述・図16）の三つである。第三と第一は左右の配置が逆であるが、基

本的には同じである。今、原図を同じ形に直して三つの図をかかげる。

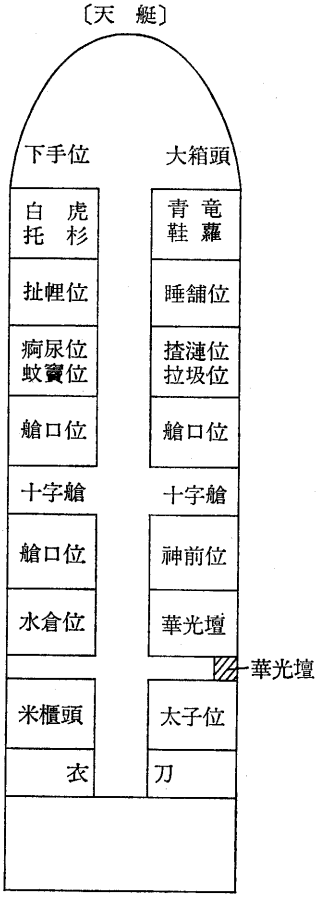

図15　(B)広東省戯劇研究室拠劉国興憶述作図

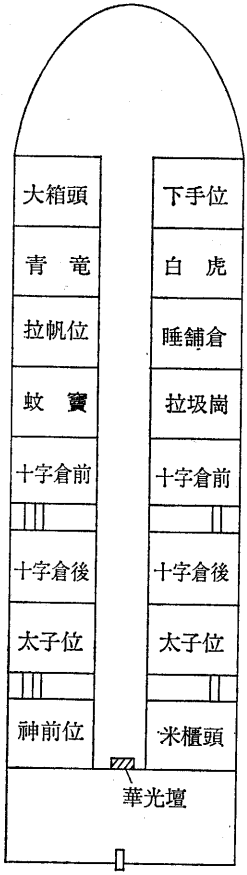

図14　(A)Barbara E. Ward拠何彬友憶述作図

三図のうち、華光壇の位置が(A)のみ異なり中央にある。これはやや不自然である。(C)には、地艇の表示があるが、この図だけ、(A)(B)と左右が逆になっている。従って(B)を天艇とすれば、(B)(C)、がセットで併列したとき、左右対称に

なる。天艇と地艇で、配置が逆になっていた可能性は大きい。また(C)の右の太子位は米櫃頭の誤りと見られる。全体に(B)の図が最も難がないように思われる。[96]

次に天地会の戦艇については、貴県天地会文件に推定し得るところがある。今、同文件の関連個所を引いてみる。[97]

問：你の船、幾隻の艙ありや、幾条の釘ありや、幾多の篙ありや、幾多条の桅ありや、那条を大となし高となすや、左には乜様ありや、右には乜様ありや、幾多張の帷ありや、幾の高さなりや、幾の闊なりや、幾人扶持するや、乜人伴を作すや、某省某州に住めるや、某姓、某名なりや。某日某時に生まれしや、某処より起岸せるや、某人船を看るや、乜ありて証となすや

答：頭艙には紅米あり、二艙には紅柴あり。三艙には軍器あり、四艙には華光あり、五艙には五祖あり、六艙には関帝あり、左辺は関平、右辺は周倉なり、七艙には二十一人、八艙には壱百零八人あり。三塊の板に二百

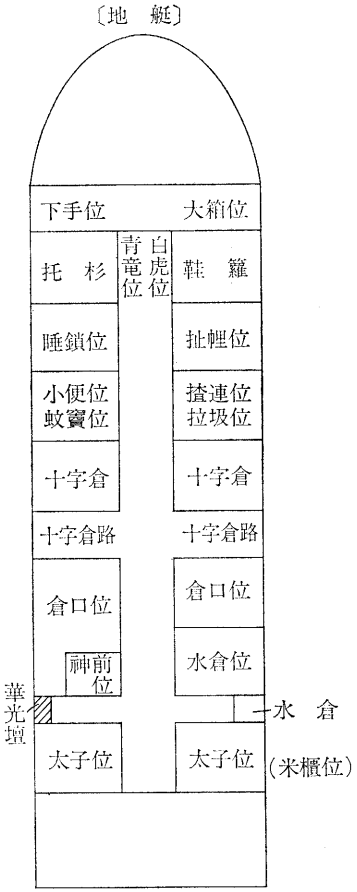

図16　(C)香港市政局拠顧鴻見憶述作図

一条の釘。五張の篷、三堂の櫓、三塊の底、四条の篙、三条の桅あり。中心は義気を大と為し、左辺には仁義礼智信あり、右辺には共同和合、万を結ぶ。吉（七）十二張の帷、二丈一の闊（ひろさ）、一丈の高（たて）。十八羅漢、扶持し、水公水母、伴を作す。水公は広東恵州大中堂に住在む。姓は櫓、名は槳、正月十五の子時の生まれ。水母は福建福州府海童寺厦門の人士、姓は柳、名は徳、八月十五、午時の生まれ。子午冲して結びて夫婦となる。長沙湾口の渡頭、烏竜江を経過す。三方より起岸し、太平墟観音老母に付して船を看しむ。

今、右の問答により、この船の構造と艙の配置を描いてみると、図の如くである。但し船の後半分の艙の配置が詳しいのに対して、前の半分の叙述に乏しく、空白部を残す。

この図は、前掲の紅船三図のうち(B)に最も近い。特に華光壇の位置は殆んど同じである。舳に近い方の艙に、神々を祀り、また食糧、薪柴、軍器を貯え、指揮統括の場としているわけで、この発想は紅船の場合と同じである。特に華光大帝を主神とする点は全く同じである（関帝等は陪神）。この会党戦艇の構造に倣って紅船の船艙配置がきめら

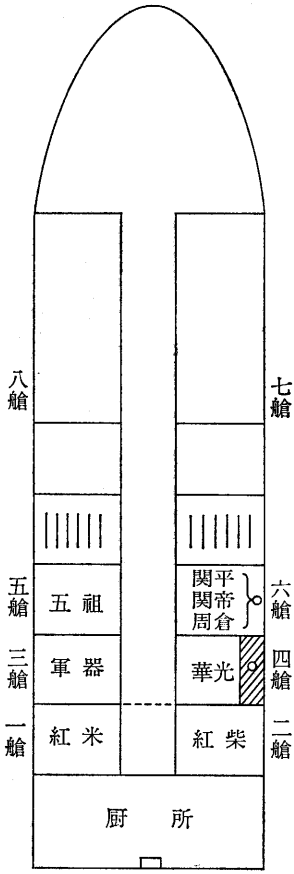

図17　天地会の戦艇

れたものと考えられる。紅船が天地会の戦艇の系統を引くことは、粤班俳優と天地会の関係からしても当然と言えよう。

なお、紅船の行動範囲は非常に広かった。広州の吉慶公所は戯班を招こうとする各郷との契約について厳しいギルド統制を敷き、契約文言を統一し、かつ、その文書を公所に掌握していたから、公所保管の歴年文書から、戯船の行動した各郷の名称が判明する。この種の資料からみると、民国初年から同廿一年頃までの間、吉慶公所所属の一統太平班、永寿年班、頌太平班、詠太平班、祝太平班、汪太平班、新紀元班、などの各班は、南海、番禺はもとより、順徳、新会、香山、東莞から、更に遠く台山、開平、鶴山、花、増城の各県にまで足をのばしている。[98] 遠隔僻遠の地に赴いた紅船子弟はしばしば地元の悪棍の恐喝の危険にさらされ、その生活は容易でなかったらしい。例えば、吉慶公所が各郷と交わした合同の文言の中には、次のような文が見える。[99]

〔本文〕竊かに惟うに梨園歌舞は乃ち昇平の事なり。江湖を跋渉する人と雖も、倶に份に安んじ己を守り、敢えて非為せず。演ずる所の戯齣も亦た本より忠孝節義等の劇にして実に善心を啓発し逸志を懲創することあるなり。……

〔追加修項〕本班の各伴、歩に到りて上落するに及び、如し人に打単擄掠せらるる等の情あらば、主会に是れ問う。

ここに見るように、紅船子弟は、江湖を跋渉する間に、份に安んじ「忠孝節義」の劇を演じて官の弾圧を招かぬように努めてはいたものの、しばしば、悪棍の「打単擄掠」の危険にさらされていたわけで、天地会に所属する目的も相互扶助の力を借りる点にあったと言えよう。その行動半径が広いだけに、大きな組織力をもつ天地会の庇護を必要としたものと考えられる。

4　粤班における天地会故事の演目

以上のごとく、粤劇本地班は、天地会との関係が深かったため、その演目の中にも「天地会」の物語を内容とするものが少くない。ここでは、一九七九年農暦三月廿四日に香港、赤柱村の天后宝誕に出演した彩紅佳劇団の「九環刀濺情仇血」の梗概をあげておく。(100)

明朝末年、李自成の強兵、北京を破る。明の思宗（崇禎）煤山に自縊し、呉三桂、清兵を引きて関に入れしむ。李闖、敗亡し、宝を蔵せる地図を将ちて、武当の大俠、血掌神剣凌梓雲に交し、囲を突きて出ず。梓雲、八大門派（少林、武当、峨眉、崆峒、天仙、崑崙、青城、終南）及び天下の緑林豪傑に声絡し、声盟して福王（明永暦帝）に响応し、程を起こして清に抗し、江湖に奔走す。宝図は携帯するに便ならざるにより、遂に南嶽双凶之一、奪命無常苗金霸に交し、代りて為めに保存せしむ、事、三載を隔て、羣雄、日を択びて兵を起こす、梓雲、愛徒、閃電金刀雷経緯に命じ、前みて苗家に赴き、図を索めて宝を掘り、以って軍餉の用と作さんとす。

経緯、師父の命を奉ぜる後、程を兼ね趕ぎて南嶽の苗家に赴きて図を取らんとす。途次、呉三桂の侍衛長、南嶽双凶之二、催魂使者雷万嗔に遇い、激闘を発生す。万嗔の技遜りて敗逃す。経緯も亦た万嗔の七日断魂毒針の傷つくる所に遭う。幸いに奪命無常の子、千里追風苗継業に遇い、代りて為めに療治す。二人、竟に八拝の交を成し、結びて兄弟となり、同じく南嶽に赴きて去る。

奪命無常苗金霸、心に大欲を存し、宝図を拠りて己の有と為さんと欲す。経緯至れりと聞き、遂に妻、南嶽飛蛍陸彩虹の義女、凌波仙子苗秀嫻をして壮丁を率いて三重の大門を扼守し、以って経緯の武芸を試す。経緯、芸高く胆大なり。手に金刀を掌り、勇みて三門を闖る。金霸、敢えて明らかに大門派と敵を為さず、又、坐して宝図を失なうに甘んぜず、霊機一触、巧みに美人の妙計を施す。義女秀嫻をして経緯と婚せしめ、緯をして長く温

柔の郷の内に困しめ、翁婿の情に籍りて緯に逼りて図を献じ宝を譲らしめんとす。封存せること廿年の九環の宝刀を将ちて惜しまず、嫻に贈りて嫁粧と作為す。苗継業、暗かに秀嫻を恋うこと已に久しく、訊を聞きて気結び、大いに新房を鬧がし、経緯の義なきを責むるを準備す。

洞房、春暖かきも、経緯、心に正事を懸き、満懐に愁緒あり、坐臥に寧からず。秀嫻悦を個郎に取らんが為めに、慨として、裝嫁の九環宝刀を将ちて転じて英雄に贈る。経緯、宝刀を一見して、堂に当たりて大いに叫ぶこと一声、房中に昏絶す。嫻急きで救い醒ましめ、故を問う。経緯、猶お瘋虎の如く秀嫻を追殺す。嫻、涙を含み相詢うに、緯も亦た花を摧くに慣れず、悽然として詳しく往事を訴う。原来、緯の生母、竟より廿年前の一代の俠女にして、名は金鈎嫦娥、趙芷明と喚ぶ。一夕、仇家と悪闘し、身に重傷を負い、逃げて武当山下に至り、巧血掌神剣凌梓雲に遇う。時に経緯僅かに嬰孩なり。尚、母の懐中に在りて熟睡す。芷明、梓雲に見えし後、一代の大俠なるを知り、遂に緯を負托し、僅かに「仇人—玖環刀—児姓雷」等の八字を説出せるのみにて即ち気絶えて身死す。後に及びて経緯長成し、身世を知悉し、母を殺せる仇人を苦尋せしも未だ獲ず。九環刀を賭るに及びて後、驚きて嬌妻竟より仇人の女にして、岳丈は原、母を殺せる凶徒なるを知る。嫻、悉を獲たるの後、肝腸寸断、泣に血ありて詞を陳べ、緯に再び仇殺を生ずる勿かれと苦勧す。〃寃々相報ずれば、血債何れの期にか始めて了らんと〃。二人言い語るに、竟に来たりて新房を鬧さんとするの継業に遭う。窗外に在りて竊かに聴き、更に金覇を引き出だして緯と対質せしむ。金覇、緯の母を殺せる仇人なるを担承せしも、但だ元兇に非ず、主使の者は別に其の人ありとて、明夜寿誕の宴中に主謀の人を指し、此の寃案を了らんと相約す。

寿酌の筵開き、羣雄雲集す。緯、単刀もて会に赴き、昂然として懼れず。金覇、元兇を引出するに、赫然とし

て是れ催魂使者雷万嗔なり。経緯、仇人と見面て、前に上(すす)みて戦を搦(いと)む。詎んぞ知らん、万嗔、我児と悲呼して已まず。緯、莫明其妙(いぶかる)のみ。金覇、遂に笑いて其の故を言う。原来、廿多(よ)年前、覇と万嗔は江湖の巨盗たり。二人、合夥すること廿載、形影離れず、故に南嶽双凶の名あり。後、万嗔、投じて呉三桂に奔る。桂に於いて重用せらる、後、桂、清兵を引きて関に入れしむ。事前に万嗔の妻、金鈎嫦娥の聞く所となり、万嗔に紂を助けて虐を為さしむる勿かれと苦勧す。万嗔、聴かず、金鈎嫦娥、憤りて児女を抱きて出走す。万嗔、事の漏るるを恐れ、伝を江湖に飛ばして急に令し、金覇をして金鈎嫦娥を截(さえ)ぎり獲え、之を殺して口を滅せしむ。

経緯、訊を聞くの下(とき)、恍として晴天の霹靂の如く、呆なること木鶏の如し。万嗔更に提言す。三桂此の図を得んと欲す。若し緯、献出せば、則ち金覇と父子三人、蔵宝の半数を得べく、且つ功名に望みあり。如し緯、従わざれば、則ち、父子翁婿の情、一刀にて斬断せんと。三鼓の時份、灯滅し人亡(な)し。緯、生父の禽獣の如同きを見て、悲憤、莫明、房中に奔り回り、門を掩いて痛哭す。金覇、緯の父子の情を念いて私かに宝図を嗔に献ずるを恐れ、更に草を斬り根を除き、務めて緯を去りて後、快ならん欲す。逼りて秀嫻をして駆けて夫を図殺せしめんとす。秀嫻、淫威の下に在りて、強いて負義の人と作り、暗かに匕首を蔵し、機を俟ちて緯を殺し、以って金覇の廿載養育の恩に酬いんとす。

玉漏、人を催して、三鼓は瞬にして即ち将に至らんとす。緯、痛みて決心を下す。父の刀の下に拼死すとも決して図を献じて苟しくも私せずと。装を束して戦を待つ。書を留め、秀嫻との別を賦す。書写の間、秀嫻潜かに至り、状を見て、深く感動し、緯を殺すに忍びず、反って緯に己を殺し、難為(まとい)て左右するを免れしめんよと諭す。緯は暁すに大義を以ってし、嫻、終に醒悟す。夫妻手を携え、三重の荘門を殺出し、寧ろ玉として砕くるを為す

も瓦として存するを作さざらんとす。

金覇、秀嫻の己に叛せるを知悉し、赫然として震怒し、緯、嫻を殺して恨を洩らさんと誓う。経緯、秀嫻は継業、彩虹の一面、網開くを得たりと雖も、奈何せん、金覇、堂前に坐鎮し、飛渡する能わず、一場の悪戦、嫻と緯と倶に敵せず、急々の間、緯、宝図を跌下す。金覇、万嗔、同じく前に撲して搶奪す。万嗔、悪念頓みに生じ、竟に金覇の背後に在りて、猛かに毒手を施す。金覇、驚覚に及ぶ無きも、怒りて万嗔を刺す。一双の老夥伴、互に纏いて死に至り、同じく尽くるに帰す。死せる時、猶お相視て獰笑して止まず、一半の宝図を合い握り、恨を含みて終る。幸いに彩虹、深く大義に明るく、前仇を捐棄し、但に経緯、秀嫻を釈けるのみならず、且つ児の継業と南嶽の羣雄を率いて、抗清の義挙に参加し、共に明室の江山を保てり。

この劇は、梁沛錦『粤劇劇目通検』（香港三聯書店、一九八五年）によると、抗日戦開始（一九三六年）以前、おそらく一九三〇年代に、「新春秋劇団正第一班」が初演したらしい。以来、四十余年、人気演目として絶えず上演され、今日に到っている。近年の香港では、羽佳の雷経緯（武生）、南紅の苗秀嫻（花旦）の主役コンビが有名で、名劇として定着している。劇の構成としては心理描写の多い近代話劇風の演出であるが、内容は反清復明の会党の話であり、天地会の影響が社会風気の上にも残存している香港社会に流行の根があると言えよう。

この外にも「緑林豪傑」「強人」を題材にした劇は粤劇全体として少くない。紅船子弟の伝統はなお、作劇の上に残っていると思われる。

結　語

最后に、天地会会党が閩粤地域社会のどの部分に滲透し、根を張ってきたかについて一瞥して、小論の結びとする。

この点については、福建提督学政汪潤之が嘉慶二十一年に草した「化導士民告示」稿（中国人民大学清史研究所・中国第一歴史檔案館編『天地会』(六)、中国人民大学出版社、一九八七年）の次の文が参考になる。[10]

本院考試より以来、各府を周歴す。聞見する所に就きて、爾等の為に告ぐ。近来、閩省の邪匪、如えば陰盤教、仁義会、三仙会、添弟会、拝香会、双刀会、百子会の諸名目、悉く拿獲せらる。其の匪犯、多く建寧、邵武二府の間に聚る。汀〔州〕の寧化、延〔平〕の南平、竜渓、福州の古田、屏南等の県に毗連し、福寧一府にも亦た之れあり。其の故を推求するに、只だ建、邵諸処、荒山縦径多く、蔵匿に易きに因る。又、崇安は地、武彝に近く、茶の利あり、衆民雑り来たり、奸匪遂に中従り、之を煽惑す。其の中、固より興〔化〕、永〔泰〕、泉〔州〕、漳〔州〕、下南の諸府の人あり。而して下南、尚お会匪少き者は何の故なりや。蓋し、泉、漳の間、地は海浜に近く、百姓は塩を晒らし、魚を捕り、猶お生を為す可し。又、復た族を聚めて居り、小族は大族に附し、奸宄、容れ難き所あり。故に但だ外に出て匪と為るのみにして、邪教を其の郷里に倡うる能わず。

これによると、会党が活躍し得るのは、荒山縦径が多く、衆民雑居の処に限られ、宗族が聚居している村落の場合、大宗族が小宗族を支配し、小宗族は大宗族に依付する形で村落秩序が維持されており、会党の入り込む余地はない。村民は外に出て会匪になることはできても、郷里の内部で邪教を宣伝する余地はない、という。事実、香港の場

合、上来述べてきたように、内陸平野部の宗族村落には、「天運」の年号を用いるような「天地会」系の痕跡は見られない。天地会の痕跡が残るのは、新界東部の山間僻地の客家系小村落か、宗族支配の届き難い市場地、市街地に偏っている。シンガポール等に天地会会党の遺風が濃いのも、この地域が宗族支配を欠き、衆民雑居の市場地、市街地だからであろう。かつて粤班子弟が紅船に乗って活躍した場所も水路沿いの市場地、墟市が多かった。これらの郷鎮市場地は、宗族の支配が及んではいたが、村落の場合に比べてその支配力は弱く、商人、工人、農民などの雑居地帯になっていた。天地会会党は、このような宗族権力の空白地帯に滲透し、その勢力を伸ばしたものと考えられる。

これを演劇史の側からみると、以上の事実は宗族支配の弱まった市場地の場で、初めて祭祀儀礼から演劇の自立が達成されたという事情と対応する。宗族統制の及び難い市場地こそ、演劇の自由な発生と展開の条件を提供し得た。天地会会党が演劇人を含んでいたことも、このような市場地演劇を拡大する上で、寄与した点があると言える。天地会会党の演劇伝承及び慣行については、なお資料不足で不明の点が多いが、本稿としては、香港、南洋に散在する関連資料から、状況証拠を列挙し、その方向を探ったことで、一応の試論を終える。細部の探求は、今后の課題としたい。

1　呉華『新加坡華族会館志』（新加坡・南洋学会・一九七五）第二冊〈（曹家館〉条。「拠曹家館的口伝歴史、曹家館的所在地（勝明拉街一号）是在一百五十五年前、莱仏士為感激亜志協助他登陸新加坡而将該地段賜与他。」

2　呉華同前書第一冊〈寧陽会館〉条。「一八二二年、曹亜志創立該会館時、初称為「寧陽公司」、館舎以乃亜答与茅草所建造。」

3　呉華前掲書第二冊〈曹家館〉条。「拠説、該館乃于一八一九年、由台山人曹亜志所創立。……該館現存両幅木刻賀联……其

二『咸豊三年、曹府大公司栄陞之慶……』、咸豊三年即為公元一八五三年、由上述联語中、可知曹家館在一八五三年時乃称為〝曹府大公司〟。」

4　陳育崧「新加坡開埠元勲曹亜珠攷」(『南洋商報』一九七〇年一月一日)。五虎祠・俗称社公廟、這是曹家館対過的一間小廟、廟裡奉祀著八十多件的神主牌……這説明了曹亜志（？）是当時秘密組織義興公司的一個領袖人物。」

5　陳育崧同前論文。

曹氏総墳、在碧山亭第三亭的山崗上、叫「坡字山」、山上有二十個総墳、其中属於血縁関係的、除曹氏外、有朱氏、甄氏、陳氏、許氏……根拠調査所得、這一個墓羣、是一九〇六年従青山亭遷緑野亭、一九五七年由緑野亭遷碧山亭的。曹氏総墳的左方、有一個很完整的独立墳墓、墓碑比較闊大、上面刻着「皇清顕祖考符義曹公墳墓、道光十一年歳次辛卯仲春建、一九五二年七月八日星洲曹家館重修」等字。石墓碑上用洋灰砌成横額、鐫有「曹公諱志之墓」六字。這無疑是最近重修時加上去的。這個作用、意義重大、曹氏族人、肯定的認曹亜志（？）和曹符義、是同一人。

6　陳育崧同論文

曹亜志（？）的神主牌……牌上正書「姚基義士号符義曹府君神位」。這個神主牌、可以打開的、裏面蔵着一張黄紙用藍色鋼筆写着、「曹亜志（？）生於乾隆壬寅年三月二十七日。台山県端芬区那泰村人、由嘉慶二十四年一八一九年一月卅日、已於（？）三十六歳、登陸本坡、一八一九年六日帰英人統治。由道光庚寅年係十一年三月廿六日四十八歳逝世、一八三一年。

7　陳育崧同前論文

這一羣墓葬、有一個是一九五七年三月九日才由緑野亭遷来的。墓碑上刻着「曹公符成附葬的妻子叫了氏」。符成和符義有很密切的関係、可能是兄弟輩行。……五虎祠……和曹符義同称「姚基義士」的、另有両人。其他最重要的一位是「創建功勲諱号符成才富曹府君神主」。

8　陳育崧同前論文。

廟裡奉祀着八十多件的神主牌……有各式各様称号的。……我発覚上述的称号、和台湾明鄭的職官、可以作一比較研究。

9 陳育崧同前論文。

天地会的組織、跟鄭成功的反清復明運動、有着很密切的関係。在東南亜各地的義興公司、是一脉相承的。……作者還推測新加坡的地名 Rochore（梧槽）、很可能是出自天地会的瓢始人「五祖」両字的転訳。

10 呉華前揭（注1）書第二冊〈曹家館〉条。

従史料中、我們確知有曹符義其人、陳育崧先生在翻地契中発現了曹亜珠簽署文件、所以曹亜珠也是確有其人、但是曹亜志這麼一個伝奇性的人物就没有史料可以証実。「曹符義即曹亜志」、我們在史料中尚未能証実、「曹亜珠就是曹符義」、也未能確定。所以、「曹符義、曹亜志与曹亜珠同為一人」的問題、尚待我們去尋找史料来佐証。

11 陳育崧『柳蔭館文存』（南洋学会、一九八三年）転載、同書第一巻九八頁。

此等神牌最足引人注意者、厥有二端：一、牌上率用有明朝号。二、間有官銜職位者。道咸年間会匪蠭起、太平軍固無論已、自余能争城争奪地、粗具規模者厥為厦門小刀会、其直接尊用勝朝名号者、亦推此役。然則此数十木牌之主人者、殆個中人歟？。

12 陳育崧同前書所収。同書第一巻七四頁。

本年三月廿六日、南洋商報刊載有供奉明代神主八十一座的社公廟新聞一節。関於這所叢祠（俗叫五虎祠）、我曾在一九三八年星洲日報月刊第四期上発表過「厦門小刀会与新加坡」一文；不過当時我很牽強地把這些遺物的主人和厦門小刀会拉在一起、現在看了覚得不無冒失。

13 呉華前揭（注1）書第一冊〈義安公司〉条。

義安公司是新加坡潮州邑籍人士最早的一個団体、它正式成立于一八四五年。……義安公司先後購置義山共有六処。泰山亭、広恩山、広義山、広寿山、広孝山及広徳山。各処義山中乃以泰山亭開闢最早、它係于一八四五年十月廿日由東印度公司発給地

契。

14 陳育崧「関於洀墓的研究」（『柳蔭館文存』第一巻一〇〇頁所収）

新加坡的「百老匯」烏節路、今日一座座的摩天大楼矗立起来、誰知這条路上的大半段、十年前是潮州義安公司泰山亭公塚所在……在断碑残碣的周遭、発見許多很可注意的墓羣。讓我約略的介紹出来、

光緒三年六月十六日立、洀考挙明卓公、妣慈徳呉氏墓。世居澄邑□□都□□鄉、

天運甲申年三月廿二日立、妣竹富林氏、洀考宝満謝公、妣上社王氏墓。世居澄邑□□都□□鄉。

這両個墓碑上的「洀」、是天地会党人的特製字、這個字是「清」字。党人製造此字的用意、拠説是表示「清朝無主、大明復半」、他們把「反清復明」写成「反洀復汨」。這両個古墳、時代相距不遠、光緒三年、歳値丁丑、是一八七七年、天運甲申、応該是光緒十年、一八八四年。死者都是潮州澄海県人。「明考朝元程公之墓」、這個墓碑上大書「明」字、因此有人認為是個「明墓」、其実天運乙酉是光緒十一年、一八八五年。泰山亭塚山上的墓碑、用「明」字冠首的很多、都是当時「会党」的遺物。

15 同前。一九四九年、韓槐準在義順村附近発現一古墓、墓碑刻着；

義叙；達豪赤港鄉、明考朝元程公之墓。

這些墓葬、是一八九〇年禁閉私会党以前的遺物。在柔仏新山公塚、我們還可以看到同様的墳墓。

16 陳育崧「新加坡史話」（『柳蔭館文存』第一巻七四頁所収）

韓先生考証是明墓、從碑銘体例看、我却認是道咸年間会党的遺物。因為同一体例的碑銘我看過不少、潮州八邑会館的泰山亭墳山、沿八徳仙路一帯、許多墓碑都刻有『明考』字様。有的把『清』字写做「洀」字、有的也鐫有「義叙」両字。潘醒農先生告訴我、泰山亭是道光二十五年（一八四五年）開創的。……韓先生継続在程墓附近地方又発見旧墳六七処、和倒置山側的墓碑数方、就大半都刻有咸豊年号。

17 陳育崧同前論文。

程墓和泰山亭墓群、都属於潮幫、在別幫的墳山里、我們尚発現同様的碑銘。

18 原文

〔道光〕二十四年、知県呉均勦捕土賊黄悟空。

先是巡道李燁煜以海陽附郭、非幹員不治、詳調嘉応同知呉均知県事。奸人憚其厳明、多逃他邑。会歳饑、潮陽黄悟空与曽阿三等豎旗拝双刀会。応者万計。囲揭陽城、郡中震動。燁煜檄均督勇勦捕、賊敗潰、乃訪賊党主名、移潮陽知県寿祺購捕。悟空為妻弟縛献。余党亦次第就擒、按察使孔継尹来潮涖讞、誅首悪外、余多縦捨。均治乱民用重典、力争不得。仍密捕誅之。衆心粛然。

19 原文

二十四年、土寇黄悟空倡乱、知県寿祺購捕伏誅。

黄悟空者夏林郷人、性険鷙、嘗賃豪家奴、殺其主、至是結双刀会、潮揭愚民応之者万数。然蹤跡詭祕、初未知其為禍首也。八月嘯党囲揭陽、兵備道李璋煜率海陽令呉均等馳往散之、廼得主名、密飭祺購捕。其妻弟縛悟空以献、解郡正法。

20 原文（同書九五—九六頁）。

至於双刀会則是因結盟時架設双刀而得名。与小刀会的得名不同。広東恵潮嘉各府、双刀会的勢力最為浩大、潮州府潮陽県人林大眉、黄阿隆、黄悟空等俱係天地会党、郷里側目。福建漳浦県人戴仙、原名戴毓祥、素習堪輿卦命、道光二十三年七月間、戴仙至広東恵州府陸豊県大安圩地方擺攤算命、有長楽県人曽阿三常往叙談。彼此熟識。曽阿三告以従前在漳州生理時、曽拾得天地会歌訣図一張、帯於身辺、遇事有人幫助。戴仙即用布照様写画一張。道光二十四年八月、戴仙至揭陽地方、仮冒曽阿三姓名、揑称天地会大哥、与揭陽会党首領林阿隆、黄大頭等聯為同党。潮陽県人黄悟空先於是年四月初五日、因挾族人黄銀生争水之嫌、糾同会内黄寛書等将銀生殺死後逃避。八月二十六日、黄悟空起意同林大眉、黄阿隆分頭糾人結拝天地会。惟因天地会名称沿用已久、恐難吸収会員、遂改名双刀会。旋糾得八人、一共十一人、於八月二十八日、在林大眉居住的港内郷外涵元空廟内

設壇結拜、各出銭一百二十文、交与黄悟空買備香燭鶏酒、不序年歯、共推黄悟空為大哥。壇上供設洪令牌位、黄悟空率衆跪拜、另紮篾圈為門、架起双刀、衆人由刀下鑽過。黄悟空伝授「開口不離本、出手不離三」暗号、每人分給会単一紙、宰鶏滴血入酒、分飲後各散。其後黄悟空因拜会人少、復製得紅布三角洪令小旗、上写「飆飄岌」字様、意即天地会三字、作為憑信。交給林大眉等十人、分頭糾人入会、先後共糾得一百八十人、分作五起、於九月初八、九、十三、十八、二十六等日、在港内、港尾、浦東、港辺、竈浦等結拜、俱不序年歯、以林大眉、黄阿隆、李阿宅、黄阿五、黄阿壁為大哥、黄悟空為会総。戴仙聞黄悟空拜会後、亦起意商同林阿隆、黄大頭糾人結拜、遂取出会図、添写「雄兵百万、英雄尽招」等字様、並倣照黄悟空会単、刊刻木板及三省玉記図章等、共糾得一百五十二人、分作四起、於九月二十八日、十月初八、十三、十六等日在揭陽県属楊厝菴、坡嘴、馬路、三洲等処結拜、以林阿隆、黄大頭、鄭阿葆及陳阿五為大哥、戴仙為会総、亦照双刀会結盟儀式率衆鑽刀飲酒伝授口訣、分給会単。経各営県陸続拏獲林大眉等二百三十六名、当場格斃二十一名、投首四十二名、其中戴仙、林大眉、黄阿隆等首領被凌遅処死、李阿宅等一百十九名斬梟斬決、其余一百二十五名則分別擬絞遣流等罪。

21　原文。

(1)　咸豊四年五月、彩塘郷呉忠恕作乱。

先是忠恕因流民失業、与游僧亮聚宝雲寺、糾衆拜会、有某生密禀知県劉鎮、鎮疑挾嫌、置不理。匝月、聚数千人。四月、陳娘康囲呉均於潮陽、忠恕因約外属諸匪、謀攻府城、城中戒厳、賊遂椎牛饗衆、開旗倡乱、攻澄海城不克、遂攻竜溪都。

(2)　六月初四日、知県劉鎮、都司金国樑率師出駐竜湖以図彩塘。

忠恕竪旗倡乱、各属賊匪俱為響応、劉鎮会同金国樑、統兵進勦、忠恕聞劉鎮、金国樑将至、分党進踞鶴巣、又分紮古楼郷為犄角、蹙官兵於竜湖鎮等。

(3)　鶴塘郷陳阿十作乱。

先是呉忠恕将攻城、城中人多遷避鶴塘。阿十見女玉帛、頓懐不軌、先至澄海謁賊首王興順。興順允与結連。帰、遂聚衆

叛。与忠恕合進。踞臥石、岡洋、涸溪等鄉。二十四日攻饒平隆眼城。二十五日攻澄海鴎汀寨、皆為官軍鄉勇所敗。

(4) 七月初一日、陳阿十攻東橋頭、潮陽知県汪政擊之。

(5) 七月二十一日、汪政、陳坤率師、出涸溪進勦。

(6) 三十日、呉忠恕攻東橋頭、汪政擊退之。

呉忠恕糾党、号八千余人。由韓山背来。王近仁等駐東橋頭、与戦。

(7) 閏七月、呉忠恕攻庵埠、隴仔鄉。通判賀桂齡率兵救之、不克。隴仔既破、庵埠鄉遠近為賊脅応。勢益披猖、並毀通判署、分党踞之。

又称、忠恕初約阿十、同攻庵埠、阿十以七月二十五暴死、忠恕乃自行、則踞庵埠。

(8) 呉忠恕遣其党李陽春、分踞楓溪鄉。廩生呉作舟、歳貢朱光鼎潛約帰仁諸鄉、共擊賊。

楓溪故与北廂有隙、慮其襲己。帰仁鄉紳陳翺和解之。乃合力攻賊。賊驚潰、執陽春等十人送官、賊勢稍殺。尋呉阿受復引賊日李如珠、糾衆還踞楓溪、並分党踞北廂鳳山等鄉、自是賊遂分東西両路。

(9) 閏七月二十三日、西鄉賊由楓溪等処攻城。汪政伏兵西湖山側、擊之。

二十八日、募西南十排鄉勇、設団練於城東之登栄都。

時楓溪北廂皆為賊踞、各官以西南諸鄉素強悍、恐其附賊。乃諭古巷楓洋鳳塘鶴隴長美孚中諸鄉耆、募其鄉悍鷙勇、日給口糧、名曰十排、設公所城中、以資統摂、其城東上游河道為踞蔡家囲之賊所截、舟楫不通、官又諭紳士戴維祺設団練於亀湖各鄉、曉以大義。約同禦賊。外属文書悉悉由維祺、択鄉人善水者乗夜浮渡、密帯入城、以通内外消息。陳阿十賊党聞覚、攻其鄉、各団勇赴援共擊之。

(10) 八月初七日、呉忠恕合潮陽賊囲城。

時画来為官軍克復。潮陽賊投忠恕。忠恕与之合。八月初七日、霖雨甫霽、忠恕率二万余衆、分七路環攻郡城。自以大隊趨

西湖山。巡道曹履泰、潮鎮寿山聞報、登陴。汪政商令各員分路迎戦。……汪政、与陳坤、李瑄芳馳赴西湖山、先登其巔、奮力鏖戦。自午至酉、各隊殺賊無算、然我軍終以兵少、且受創者衆、不能窮追、賊自是連旬囲攻、城中糧食将尽、人心惶惶。

(11) 九月、呉均檄饒平知県王恵溥援府城。至筆架山後、為賦截刦入鸛塘。

阿十暴死、其兄阿四代統其衆、鸛塘賊当為陳阿四也。

(12) 十七日、西路賊攻長美郷、郷人含古巷楓洋等郷、与賊戦月弓池、踞北廂賊来援、孚中郷勇禦之於西塘渡。

(13) 十八日夜半、意溪郷紳士鍾英才約官軍撃東路賊、大破之。

夜半……英才与弟鴻達等暗約郷兵、開礮擒賊。官兵抵岸、賊已破。黎明、湯坑隊勇征筆架山渡菱角池、破東津、獲賊百余、東路囲解。

(14) 二十一日、官軍与十排郷勇、攻賊於鳳山、並逐踞楓溪、北廂郷賊、西路囲亦解。

(15) 十月、汪政諭紳士郭廷集設法擒賊首。並自率兵、至彩塘郷、勒交各匪。呉忠恕、李如珠、和尚亮等次第就縛伏誅。陳阿四護送王恵溥、並縛。賊数十投誠。

(16) 八月二十八日、呉忠恕遺党黄学勝、楊雲南等聚衆千余人、襲庵埠。為郷人撃敗。官軍就擒之。勝等伏誅、其党悉潰散。

22 原文。

八月十五日、官軍克復恵来、初潮陽賊陳娘康、鄭游春之衆投呉忠恕。忠恕与之合。〔太平天国日誌〕。

八月七日、霖雨甫霽……忠恕率二万余衆……〔潮乗備采録〇太平天国日誌、呉忠恕囲海陽在八月十七日〕

23 陳育崧前掲（註4）論文。

……曹亜志（?）是当時秘密組織義興公司的一個領袖人物、義興公司在萊特開闢檳榔嶼的初年、已経存在着。萊仏士把曹亜志（?）帯到新加坡、這個組織也就跟曹亜志（?）移殖到新加坡来了。

24 田仲一成『中国郷村祭祀研究―地方劇の環境』（東京大学出版会、一九八九年）二八四頁。以下一九八九年書と略称。

25 田仲一九八九年書三一四頁。
26 田仲一九八九年書五九四頁。
27 田仲一九八九年書三三三頁。
28 田仲一九八九年書三五六頁。
29 田仲一成『中国の宗族と演劇』（東京大学出版会、一九八五年）一〇三四頁、以下一九八五年書と略稱。
30 田仲一九八五年書一〇三八頁。
31 田仲一九八九年書六二〇頁。
32 田仲一九八九年書六四六頁。
33 田仲一九八九年書七〇〇頁。
34 田仲一九八九年書七二四頁。
35 田仲一九八九年書七三八頁。
36 田仲一九八九年書八〇二頁。
37 田仲一九八九年書八〇七頁。
38 田仲一九八九年書二六七頁。
39 劉枝萬『台北市松山祈安建醮祭典』（台北、中央研究院民族学研究所、一九六七年）九八頁。
40 劉枝萬「台湾台南県西港鄉瘟醮祭典」（『中央研究院民族学研究所集刊』第四七期、一九七九年）。同書一二六頁。
41 田仲一成『中国祭祀演劇研究』（東京大学出版会、一九八一年）八五九頁。以下、一九八一年書と略称。
42 田仲一九八一年書二三四頁。
43 田仲一九八一年書八八二頁。

44 田仲一九八九年書四三五頁。
45 田仲一九八一年書一四〇頁。
46 田仲一九八一年書七五四頁。
47 田仲一九八一年書七六六頁。
48 田仲一九八一年書七四〇頁。
49 田仲一九八一年書七九一頁。
50 田仲一九八九年書四〇一頁。
51 田仲一九八一年書七一六頁。
52 田仲一九八五年書二六三頁。
53 田仲一九八一年書七〇八頁。
54 田仲一九八一年書八一二頁に天運庚申年の啓文を掲げる。
55 田仲一九八一年書八〇八頁。
56 田仲一九八九年書四六四頁。
57 田仲一九八九年書七五三頁。
58 田仲一九八五年書六五六頁。
59 田仲一九八五年書七五四頁。
60 田仲一九八九年書九五七頁。
61 田仲一九八九年書八七八頁。
62 田仲一九八九年書六四頁。

63 田仲一九八五年書四〇四頁。
64 田仲一九八五年書三四二頁。
65 田仲一九八九年書一一一一頁。
66 田仲一九八一年書一二四頁。
67 田仲一九八一年書六三六頁。
68 田仲一九八五年書一六六頁。（榜文）
69 田仲一九八五年書一三六頁。
70 田仲一九八一年書六一一頁。
71 田仲一九八一年書二四一頁。
72 田仲一九八九年書六九八頁。
73 田仲一九八九年書七二三頁。
74 中国人民大学清史研究所 中国第一歴史檔案館『天地会』㈤（中国人民大学出版会、一九八六年）四八五頁。
竊照泉州匪徒陳蘇老等改設天地会名色、糾衆図劫……因天地会匪査拿厳緊、改造飄飄名色、又憶従前台湾林爽文曾用順天偽号、随今素能刻字之呉牛刊刻飄飄二字。
75 羅爾綱「一部新発現的天地会文件鈔本」（『国立北平図書館館刊』第八巻第四号。一九三四年）
広西貴県在鬱江之浜、正是咸豊年間被清軍称為「艇匪」的天地会所佔領的地域、天地会大成王陳開的属邑。
76 田仲一九八五年書五三三頁。
77 田仲一九八五年書三七三頁。
78 田仲一九八五年書三七四頁。

79 田仲一九八九年書一〇四頁。

80 羅爾綱前掲（註75）論文。

81 田仲一成「南洋潮僑組織与祭祀戯劇―傾向於宗族観念―」・尾上兼英篇『関於東南亜華人伝統戯劇・曲芸綜合調査・研究』第三部（東京大学東洋文化研究所、一九八六年）七頁。

82 原文。

三合会即天地会変相、嘉慶間有之、至道光而漸盛…始拝会在香山。旋蔓延広州東莞各地。咸豊甲寅之変、即鼎於此。初起時、撰妖書、造隠語。伝教者曰亜媽。引見者曰舅父。又曰先生。曰升上。主文字者曰白紙扇。奔走者曰草鞋。各頭目曰紅棍。拝会曰登壇演戯。入会曰出世。毎拝会、亜媽裹紅幘、服白衣、設五色旗、上書彪寿合同文字、分布五方、従某方来者、隷某旗、設三重門、毎門、二人持刀作八字形、拝会者匍匐入、自称曰仔。赤身披髪、跽伏拝斗、念三十六咒、割指血盟、受隠語、三角符内、写「参天宏化」四字。髪辮、繋両線辮、結一圏。頭目曰天牌圏正額。司事曰地牌圏脳後。先入会者曰人牌圏左耳。後入会者曰人和牌圏右耳、俱身披短襖、綵帯、藍襪、鋭履、露刃、彼此相遇、問姓名以洪対。或称三八二十一、便知是会中人。不肯入教者曰皇仔。冒其教者曰野仔、曰瘋仔。毎入会科銀一、銅銭三百六十。曰祝寿銭。不識其隠語暗号者即被掠。

83 東洋文化研究所蔵本（倉石武四郎博士旧蔵）は封面に『安邦定国全誌』と誌す。但し内容は「安邦志二十巻」、「定国志二十巻」の合刻本。道光己酉序刊本の後印本と見られる。

84 原文。

説；海洋之東首有一蘇羅国、国王被奸相賀拔金殺了、自立王。有蘇羅国太子逃過海洋、親投上国、立時到長安、懇求天朝相救。先到文華、謁見首相。趙安在越安葬相妻室、未回。見了代印相事官史必達、憑雲頭、哭祈禍難、備述哀情、要請天朝斧伐除奸斬倭。……天子聞言准奏、一面伝宣蘇羅太子、親見与崇訓殿、面訴其情。一面差人去召首相定国公、飛馬回朝、主議正事。

85 原文

説；趙相奉詔匡胡元非易事、為何馬到成功、不費吹灰之力。只因賀拔金殺主自立。番太子救天朝、咸通皇帝听了胡雲豹之言、差了蘇虎到辺関、蘇虎無能被賀拔金殺敗、復乗勢入寇山海関。一路漢土、俱侵掠。住溧陽城、不防、趙丞相兵来、所以一戦便破、若不拒漠土身守番邦、趙丞相雖足智多謀、安能成功。此言少表。単説趙相破了賀拔金送番太子回国称王。暫留趙相備表差官、到天朝入貢。趙相在番邦、約有半月、遂別番王、回山海関。

86 この潮劇『安邦定国趙少卿』の脚本としては旧版（戦前）レコードを復製したカセット附属のものを入手し得た（香港芸声唱片公司）。場面の配置は若干前后するところがあるが基本的には本文所掲と同じプロットで筋を運んでいる。潮州方言を極力削るなど加工の跡が目立つが、以下、この脚本をかかげておく。

第一場

林素月：〔唱〕落葉満階掃不尽、時逢佳節倍思親、母老幼少奉待、毎念及此暗傷神。唉！ 悲歳親不幸早亡故、丟下了。丟下了苦命伶仃兒。叔嬸不乖骨肉、将素月売入王府奴婢。我命兮不辰只自怨、随遇而安好歹由天。小姐她善待本堪自慰。誰料到一池静水漪漣頻起、只為因爵主挙止露軽挑、似乎他不懐好意。

〔白〕想那爵主爺趙俊強、乃是三呉聞名的花花太歳、遠近婦女、畏他如狼虎、看在伊目、就着落入伊肚、如今偏偏看到我這、真教奴日夕提心吊胆啊！ 生為百人之細、不幸降臨怎避開。奴好比籠中之鳥難展翅。又好比砧上魚肉、任人排彼、感懐身世毫無人生楽趣、終局難逃不明死。

趙福：素月、爵爺吩咐、叫你送燕窩上留香楼。

素月：府中婢僕衆多、如今奴家脚手未空、請叫別人。

趙福：哈……爵爺性情、你晩会知。還是猛々去好。

素月：哎呀、不好了。

俊強：〔唱〕享慣栄華感平常、食厭膏粱不覚香、温香軟玉乏刺激、間花野草反為珍。想素月、想素月、雖為灶下婢、体態婀娜惹人欲、三番両次暗示意、誰知她仮痴作呆、作呆仮痴避之遠。

〔白〕那小妮子狡猾如狐狸、幾次被她走脱、教我怎能下此気。垂手可得平凡物、懸欲愈無心愈癢、今日裡軟話若無效、威逼利誘兼用強、若得我願随心後、許時欲勿再商量。

素月：爵爺開門。

俊強：来了、来了。

素月：爵爺、婢子告退了。

俊強：素月、為何来去這様匆匆、爵爺還有話説。

素月：爵爺有何吩咐、快説！　婢子無暇久留。

俊強：爵爺要妳在此伴読、奉茶。

素月：此乃書童之責、婢子失陪了。

俊強：且慢。

素月：爵爺呀！　爵爺詩書蔵満腹、須重礼義、須重礼義与門風、王爺忠義昭日月、朝野同欽、同欽崇、王府中孤男寡女同一室、縦有百口辯不通、須防隔壇有耳、一旦伝聞、受人譏諷。奴雖微賤、尚知恥、望你三思莫衝動。

俊強：素月呀！　自妳入府心己動、一点霊犀已先通、芳容長留我心裡、伺機与你結絲桐、莫奈你未仮、仮詞色、使我王中痛苦万分、今日算是有縁份、枯木逢春生気濃、以我才貌兼富貴、難道不配你這茅屋小風。

素月：你我貴賤懸殊、爵爺請莫乱言。

俊強：哎呀！　情之所鍾、焉論什麼貴賤、卿卿噲、猛猛応承。

素月：看他言語是真心、不由素月心怔忡、此情景此情此景疑是幻、莫非身在夢魂中、若能高攀、也美事、飛上枝頭変彩鳳、只是那男人心裡難預測、猶似那海底之針難捉摸、還須留意再試探、免被甜言蜜語所哄、回頭尊声爵爺噲、奴今珍重言真衷、若然不棄蒲柳質、禀明高堂、禀明高堂明婚結糸桐、這苟合之事、名節攸関、万難応承。

俊強：哼！我是主来妳是僕、幾嘗見我低声下気求人、一沛誠懇、不値盼、千言万語你都不信、倘若性起、用強硬、府中下上誰敢挺身、順逆両途任選択、一経変面、似兇神。

素月：爵爺你……

俊強：従事如流遂我願、你揺身一変即成爵爺夫人。

素月：一句句語帯恐吓、一字字動奴芳心、趙家権勢蓋天下、奸一賤婢何用看天、他似真心求歓愛、我脱胎換骨成貴人。爵爺你真有意娶我為妻。

俊強：啊！我明白了。皇天在上、我趙俊強、今与素月共訂白首、倘有反悔、不得善終。

素月：咀好話呀！

俊強：素月、你今放心了麼？

素月：見他当空盟誓、足証真心無相欺、奴非木石無霊感、故作留難無非相試、軽挙玉腕将他扶起、不可不可、王中忐忑難自主。芳心揺曳失措施。

俊強：素月噲！禾扶我起来。

素月：吧吧吧、含羞忍耻挙起玉臂、扶起君家把話提。

俊強：愛卿有何金言！

素月：仁義仁字君謹記、莫作梟心泊倖児。

第二場

紫娟：哎呀！　許天会好、快快報知小姐吧。

賽美：聞報説怒火升、恨賤婢与兄長、不顧廉恥暗偷情、双親清誉天下共称頌、保疆衛土切勲彪炳、不幸虎父、竟然生犬子。兄兮不肖、敗德喪行。詩書荒廃倒還罷、終日裡招摇過市仗勢横行、為免親心受損害、未将家事向父表明、忠言逆耳不納勸、終有朝趙家被他辱浄。紫娟、即速上楼。

紫娟：且慢、小姐上不得。

賽美：為何上不得？

賽美：小姐呀！　趙家朝野受尊崇、一旦揭発人譏諷、一時不智衝上去、他老羞成怒、悪起来似那狂虎乱衝、一発不可収拾、為仇者所親者痛、伏望小姐三思忖。事急臨頭莫衝動。

賽美：愛婢所言、甚有道理、依你之見呢？

紫娟：那麼？　俺主婢暫避一旁、時間素月必須下来、那時向她責備一番、豈不是好。

賽美：吓好。

素月：小……小……小姐。

賽美：賤婢你幹得好事。

素月：小姐、婢……婢子並無過失、那有幹什……麼好事？

賽英：妳上楼何事。

素月：送点心去。

賽英：何以一上許久？

素月：爵爺命婢子伴読。

賽英：伴読乃是光明正大的事、何須関門閉戸？

素月：這……

紫娟：素月姐、還是直説吧。

素月：小姐容禀、爵爺命我送燕窩、事畢欲退不獲許可、強婢書房相伴談、抗命不得無奈何、翩翩濁世佳公子、瞬息之間変色魔、威逼利誘双管斉下、獅子博兎焉能逃、声言択日明婚配、一時智昏、一時智昏被他所愚。

賽英：妳飛娥撲火尋死路、利慾薫心、好夢終成空、不思你身為侍婢、妄想山鶏変彩鳳？

紫娟：他風流成性悪名伝遠近、始乱終棄不知幾多、多宗我輩府中為婢僕、豈無所聞。你竟如此懵懂、甜言蜜語挑動你、一失足抱恨以終、事已便然悔無及、以後必須着慎重。

賽英：堂堂王府小爵主、焉娶賤婢受王封、好事不出戸、臭事即時満街動、一旦伝聞到京裡、家丑外揚你罪孽深重、如今是必須着守如瓶、勿令洩漏辱門風。

素月：小姐当頭一棒、何異暮鼓晨鐘、黄粱一夢今已醒、伏望小姐、伏望小姐、大量寛洪。

賽英：事已至此、妳今必須聴我吩咐、自能平安無事。

素月：小姐之命、婢子謹遵。

紫娟：小姐不如暫叫素月姐綉楼聴使喚。

賽英：紫娟言之有理、素月、随我回楼吧。

素月：婢子遵命。

第三場

俊強：群芳院裡有桃源、吾似蝶児穿花楼。

含嬌：哎喲？

俊強：呀……

含嬌：驀地間、眼花、撩乱、好一個蓋世美少年、徒使人見之神魂飄蕩。

俊強：適才学生、一時冒失、這位小娘仔、恕罪、恕罪。

含嬌：相公多礼了。

俊強：妙哉！　妙哉！

含嬌：靦覥人前情何堪、速速抽身走忙忙。

俊強：小娘仔、請留步。

含嬌：相公、有何賜教。

俊強：吧……適才学生、一時冒失、恕罪、恕罪。

含嬌：相公言重了。

俊強：敢問娘仔芳名。

含嬌：這麼……相公聴道、相公聴奴説分明、姓柳含嬌姓柳含嬌是我名。家住蘇州獅頭鎮、員外仕忠我厳親。

俊強：啊……原来是柳家小姐。

含嬌：今日裡、随侍爹娘来到此、邂逅相公実有幸。

俊強：這個、小姐呀、姓趙俊強是我名、爹爹王爵趙少卿、小生閉門勤書史、双親双親侍君在帝京。

含嬌：呸你是……

俊強：王府公子称太歳、久居在這蘇州城。

含嬌：咦呀！　原来是爵爺在此、久仰久仰。

俊強：好説、好説了、小姐呀、一見芳容神飄蕩、莫不是莫不是月老暗把赤繩牽々、小姐若肯垂青愛、願与娘仔結凰鳳。

含嬌：聴聞言、聴言来暗羞慚、且喜四下悄悄無人暗観他、言行雖有軽狂態、一表才貌世無双、王府権勢人知暁、得配佳偶心頭甘。

俊強：小姐意下如何。

含嬌：爵爺呀！　爵爺真情誠堪敬、相逢恨晩誰憐情、怨爹娘不該把奴先匹配、嫁与鎮江窮書生。

俊強：呸如此説来、小姐已是名花有主了。

含嬌：贈芍在昔佳期近、八月十五花轎到門庭。

俊強：哎呀！　可惜真可惜呀！

含嬌：奴似蓮花在蓮池、花雖艶麗根陥汚泥、失家落泊貧如洗、那堪過門受苦淒、匹配窮儒非所願。爵爺你可有憐花意。

俊強：聴她言語情意濃、真個是一場艶礼沢碧空、她既願效那墻頭杏、我何不採了花児到府中。小姐呀、八月十五中秋節、王府花轎把親迎。

含嬌：呵……爵爺、你話当真。

俊強：王府権勢人知詳、誰敢与我争嬌娘。（重句）

含嬌：那就好了。爵爺、八月十五那日、王府花轎、須当早些前往迎親、切莫相負呵。

俊強：難得多情人、那甘失約、金釵、金釵、去了、去了。

趙福：爵爺、爵爺。

俊強：哂、奴才、去了、去了。

趙福：爵爺、什麼去了。

俊強：吧、阿福、事因如此如此、你今有何妙策？

趙福：哎呀！　爵爺真是艶福斉天、今日又得美嬌娘、既然如此、爵爺、候待八月十五那天、俺等備了花轎、前往柳家搶親、豈不是好麼？

俊強：好呀、嫦娥既有思凡意、奉迎仙姫過中秋、哈哈哈。

第四場

広才：行起、四壁蕭条守清貧、寒窗苦読春又秋、只望一声春雷響、魚躍竜門占鰲頭。慰平生共聚天倫楽、奉慈命、柳府迎鳳儔。（白）学生陳広才、鎮江府人氏、家厳在日、曽為府尹、不幸早喪、致使家道中落、今奉慈命、前往迎親、来人速往柳府。

轎夫：是。

俊強：行起、心歓意欲喜洋洋、紗燈花轎迎嬌娘、銅鑼声声喧天響、笙簫陣陣佳興添、花燭夜、一年知多少、小登科次次有花様。

趙福：爵爺今日作新郎、三成礼、七成勢、誰敢過問、倘若此去有阻擋、一声叱搶、新娘就過門。

俊強：唔！　一声叱搶、就娘就進門。

衆人：是、就進門。

俊強：時已不早、衆人速往柳府去吧。

衆人：是。

家人：禀員外安人、花轎已到門前来了。

仕忠：這……家人有請新郎進見。

家人：是。

俊強：喜得今朝作乗竜、進堂相見把親迎、拝見岳父岳母。
徐氏：哂、恁等是……
広才：小婿陳広才、奉了慈命、前来迎親的。
俊強：小婿趙俊強、奉了……奉了金釵来迎親的。
仕忠：這個……
徐氏：
仕忠：爵爺、你……
俊強：小婿特備礼物、前来迎親、望岳父大人収下、快請小姐出来上轎、勿誤吉時。
仕忠：
徐氏：這……
広才：岳父岳母、吉時已到、請小姐出来上轎。
仕忠：
徐氏：那個…
俊強：是是是、請小姐出来上轎。
仕忠：哎呀！ 爵爺、老朽単生一女、自幼許配陳家、爵爺何出此話呢？
俊強：吧、岳親大人、分明是您、把小姐許配於我、有這金釵為記、難道您如今、竟図反悔麼。
仕忠：咳！ 此事真教老漢莫明其妙了。
徐氏：是了、員外、這支金釵乃是女児之物、因何落在爵爺手中、不免叫出女児、前来問個詳細吧。
仕忠：家人、有請小姐出堂。
家人：是、有請小姐出堂。
含嬌：来了。
仕忠：女児、爵爺手中金釵、可是妳的。

含嬌：這麼……

俊強：小姐。

含嬌：爹爹、母親、金釵是女児贈与爵爺的。

衆人：唔、此話当真。

含嬌：爹爹母親呀、山鶏難宿梧桐枝、鳳凰不棲荆棘楼、児是嬌花貌艶麗、要嫁貴胄官家児、不願嫁到陳家去、受飢受寒受苦凄、只因為、邂逅爵爺観音廟、幸蒙月老牽紅絲、金釵是我親手贈、喜見花轎到門閭。

広忠：小姐你、女児你。

含嬌：我今要作趙家婦、不願嫁為陳家妻。

広忠：哎呀？　可怒、可怒。

徐氏：原来其中有因由、老身想着心歓喜、何幸釣上金亀婿、女児真是好福気。

仕忠：住説、真是慈多敗児、罵声逆女小賤婢、私許婚事乖婦徳、敗祖辱宗教為父臉顔尽掃地。

含嬌：咳！　爹爹、爹爹出言理不明、女児決不嫁那窮書生、你這窮鬼速帰去。莫在這裡徒作痴情。

広才：哎唸！　聴聞言来！　怒気騰、賤婢、她声々不嫁窮書生、句句皆是断腸語、不我這廂、悲恨交増、可恨賤婢太無耻、負義背約敗徳喪行、未出閨閣先作出墻杏、枉称名門一女英、陳広才、人窮志不短、定与你這賤婢上公庭。

含嬌：什麼呀！　你要与我上公庭唔？

広才：我要告妳、欺貧悔約、有乖礼教。

含嬌：咦呀！　你敢告我。

広才：不錯、正要告你、走吧。

俊強：且慢、兄台呀、得饒人処且饒人、莫要惹火自焚身、柳小姐慧眼択佳偶、学生有財有勢中雀屏、今日新娘不上你花轎、皆

怨你、乃是落魄寒儒一赤貧、勸你速速回家絶痴念、我願送你三百両銀、賠此親。

広才：住説、誰要你這不義之財。

俊強：嘺呸、無知小子、真個不識抬挙、本爵爺今日、偏要搶親、看你怎奈我何、左右、把這小子拿住、帯回府中。

衆人：領命。

広才：哎唷！賊子、你真個無法無天了。

俊強：岳父岳母、小婿告辞了。

仕忠：咦呀！爵爺你……

徐氏：好好好、賢婿、請請請。

俊強：来！回府。

衆人：是。

第五場

俊強：行上、金屋藏嬌喜心頭、如狂如醉賦好述、窮儒囚禁石室内、嬌娘安居留香楼。今朝有酒今朝醉、上楼去、顚鸞倒鳳楽温柔、歩匆匆、向那巫山上。

素月：爵爺、慢走、慢走。

俊強：忽聴背後声啾啾。

素月：爵爺、你……

俊強：唔、素月、是你。

素月：爵爺、歩屐匆匆、要往那裡去。

俊強：這個……

素月：爵爺、你……做的好事呀。

俊強：這……哼、爵爺這時、好事在身、你者何言快講。

素月：這麼……爵爺吓、林素月命運好慘悽、自幼売進王府、為奴婢、何幸博得爵爺垂伶意、另眼相待已数年。

俊強：皆因你貌美似花色艶麗、府中衆婢難与你相比、使我見之情根種。顧不得尊卑貴賤主与婢。

素月：爵爺錯愛奴心喜、数年来、俺倆情綿綿甜郷裡、聴尽君家哀心話、你曾説道。

俊強：妳是凡間一仙姫、我俊強為你立盟誓、矢志相愛心不二、待有日稟過双親、行婚配共慶花燭諧百年。

素月：爵爺呀……、山盟海誓出君口、今日所為你自知柳府搶親是何意、請問你把奴怎措施。

俊強：這麼……

素月：你豈知、春風暗渡悔恨遅。珠胎暗結你那知機。

俊強：什麼呀、怎是怎講？

素月：只為軽聴你蜜語、一念之差苟合沈迷、奴腹中已有你的親血脈、転瞬之間嬌児降世、原只望、信君高義履密約、終身有托不分離、孰料你、搶来狐精蔵府内、把奴今後置于何地（重句）。

俊強：這個……素月呀、我乃当朝王爵児、你是府内一侍婢、尊卑殊別図結合、稟告双親更難啓齒、莫奈何、煞費苦思另尋佳偶、才免悞我青春少年。

素月：唔、為了不誤你青春少年、可知害我無立身之地。

俊強：你我既然難結合、只可及早折分離、我今送你銀子三百両、你速速住別処尋投棲。

素月：哎！　你……聞斯言腸肝裂、不由我点点血涙染襟衣、賊子你前口甜言誘騙弱女、今朝負義把我拋棄（重句）。可憐我一失足成千古恨、你何忍心置我于死地、你這迎新棄旧、負約背義的悪賊子、你是禽獣披人衣。

俊強：住口、真個是不識時務的小賤人、哼、你要銀子也好、不要銀子也好、看你怎奈我何、来人。
家人：来了、爵爺有何吩咐。
俊強：快把這賤婢、趕出府去。
衆人：領命、快走、快走。
素月：賊子、你呀。
俊強：趕走小賤婢、再会美人兒。

第六場

紫娟：小姐行起。
賽英：行起、聞兄搶親藏佳麗、此事令人信又疑、趕去素月是何故、上楼問兄莫延遲。
紫娟：小姐、到此留香楼。
賽英：嘖！ 叫他開門。
紫娟：開門、開門。
俊強
含嬌：哎呀！ 是誰到来。
含嬌：郎君、是誰到来呢？
俊強：莫非是我妹到来麼？
含嬌：那……那如何是好呀？
俊強：娘仔、暫且躲避片刻吧。
含嬌：是。

紫娟：爵爺、開門、開門。

俊強：来了、来了。

美賽：兄長、恕為妹冒昧了。

俊強：那裡、那裡、妹妹到来何事！

賽美：兄長、婢女素月、有何罪過、以致駆逐出府？

俊強：她……她行為放蕩、有損家声、工作失職、留之何用？

賽英：這麽、哼、兄長素来、対他讃不絶口、今日驟変、見罪駆逐、其中必有原故。

俊強：這……

賽英：還有那柳家搶親之事、可是実情。

俊強：她……為兄素来、深居簡出、行為検点、那有做出這傷天害理之事。妹妹、切莫軽信也人胡説。

賽英：這麽……

紫娟：小姐你看。

賽英：唔、兄長他是何人？

俊強：她乃是柳家小姐。

含嬌：叩見姑娘。

賽英：嘖！兄長呀、你胡作為昧天良、失徳悖訓、蚤罪愆、你不思親在京、忠心輔君国、朝野同欽。徳沢斉天、俺兄妹留居三吳地、只望你奮発前程、承継宗香。孰料你恃勢横行臭名遠播、怨声載道怎慰老爹娘、浪子回頭金不換。勧你懸崖速収韁。

俊強：住説！我身作為自有主張。各事与你無関連、双親遠居京師地、府中算我為尊長、勧你速速下楼去、不然休怪為兄翻了

臉。

賽英：哂、如此説来、竟是忠言逆耳麼？

俊強：人各有志、何須你在此、多費唇舌。

賽英：咦呀——好吧、你既不聴勧告、待我修書進京、禀告双親。那時看你、何顔見得老爹娘。

俊強：這麼……

賽英：愛婢、回房吧。

紫娟：是——。

第七場

内声：小姐行起……行起！

賽英
紫娟：夜静更闌、凛凛、霜寒、主婢同往後園中。

賽英：只為、只為劣兄、天良尽喪行為不正。閭里皆怨言、双親在朝徳高望重、恐為悪兄、汚損難堪。徒使奴、愁懐輾転難入夢、莫奈何、歩月解愁煩。

紫娟：小姐噲、爵爺不聴你勧告、他日実難見高堂、勧小姐、莫憂慮邪正二字、難瞞衆人眼、今晩主婢結伴、賞花月、抬頭望已到後園中。（重句）

広才：咳！慈娘吓。

賽英：呀！事有礁碕、愛婢、上前看来。

紫娟：是。

家人：是誰。

紫娟：是小姐到来。

家人：呀！　原来是小姐、奴才叩頭。

賽英：恁等在此做什麼？

家人：吔。

賽英：快講。

家人：是爵爺、命阮在此看守石牢的。

賽英：石牢之内、乃是何人？

家人：是。

賽英：快快開門。

家人：哎呀！　小姐。

薛虎：快快稟知爵爺。

家人：是。

広才：呵、小姐。

賽英：奴家夜遊花園、忽聞悲嘆之声、査究真相、却是相公囚禁在此。

広才：原来如此、叩謝小姐救命之恩。

賽英：相公礼重了。

賽英：請問相公、姓甚名誰、何方人氏。

広才：這麼……咳！　小姐容稟！　承動問我姓名、陳広才便是小生、祖籍乃是鎮江府、簪纓門第、落魄窮書生。

賽英……原来是陳公子、你身因何被囚在此。

広才：小姐呀、事因為、学生昔年下聘柳家庭、今奉慈命把親迎、誰知道、柳家賤婢悔婚約、無恥作了、出墻紅杏、私通王府你兄長、今天柳家去搶親、趙俊強、倚仗父勢無天理、擄我在此受慘刑、鬼門関前生路絶、呼救無徒悲鳴、唯有待斃在瞬息、幸蒙小姐救残生、幸小姐救残生。

賽英：哎呀……（唱）聞斯言悲憤塡胸、（重句）、兄長你、悪做尽罪孽重重、柳家搶親已枉法、怎可一錯再錯、図殺生、趙家門風、人敬重、却為何、出了你這辱祖宗、小畜生、靦覥人前愧無極、激得我、苦涙満胸、苦涙滴満胸。

広才：小姐呀……〔唱〕念小生、無辜客、地遭冤情、慈母懸念旦夕倚、門庭、陳家香燈唯靠我承継、求小姐憐憫苦情、放我逃生帰梓里、待来世結草啣環謝恩情。（重句）

賽英：這麽……

紫娟：公子呀……（唱）阮小姐名字叫賽英、乃是賢淑女嫣婷、爵爺為人多作悪、小姐与他、不同品行、自当放你回帰去、勸你且莫掛心胸、你莫掛胸。

賽英：吧吧吧！　你可速逃離去、兄長見責、我担承。

広才：叩謝小姐救命之恩。

賽英：公子、請莫言此、你可走吧！

賽英：薛教頭、開鎖。

薛虎：唔、小姐你。

賽英：難道你敢為虎作倀、還不開鎖麽。

薛虎：這……是是是。

賽英：紫娟、送陳相公離去。

紫娟：是、陳相公、這裡来。

広才：多謝小姐。

広才：走上！　逃走忙忙歩不停、我好似魚児漏網、鳥惊弓、残月朦朧、四野寂、道路崎嶇、歩難行、忙々之間何処去。一歩一行、一心驚。（重句）

第八場

薛虎：追呀……

広才：哎呀……（唱）忽聴、後面追喊声、嚇得我胆顫心惊。料是賊子追兵到眞個是風波叠叠、風波叠叠、殺機重々、咬緊牙根速逃去、虎口辺生莫遅停。（重句）〔下〕

俊強：怒気冲冲出府来。

含嬌：官人、速速追上。

俊強：追殺窮鬼莫遅待、可恨逆妹太不該、縦虎帰山胎禍害、趕尽殺絶滅後患、吩咐衆人、追向前。〔下〕

紫娟
賽英：風波叠叠、浪推浪、愁雲捲捲星月寒。

賽花：悪兄懸崖偏継馬、教奴於心実難安、愛婢随我速追趕、極救陳生莫遅。（重句）

紫娟：遵命。〔下〕

広才：四起神鬼愁、冒命奔逃莫停留、大江阻隔無去路。只見那滔滔江水、滾滾波濤、莫非蒼天欲絶我人生受死莫受辱、捨身投水、莫受辱共羞、慢慢慢、倒是我身差了、冤如山仇似海、我要留得此生、報冤仇。〔下〕

衆人：追呀。

薛虎：稟爵爺、追到這裡、不見那小子。

俊強：這麼……

趙福：咦呀！　爵爺你看！　江面有物浮動、莫非是他走已投江自尽了。
俊強：這麼……好呀、衆人放箭。
衆人：是。
内声：住手！
俊強：唔！　你這賤婢、竟然追趕到此。
賽英：哥々！　為妹是、不忍你罪上加罪、勧你回頭是岸、不可一錯再錯。
俊強：喻呸！　賤婢、看殺！
趙福：爵爺、柳小姐被你錯手殺死了。
俊強：哎呀！　娘仔、連妹看劍。
紫娟：小姐、小姐！
俊強：賤婢看殺。
趙福：爵爺、小姐已昏倒在地了。
俊強：這麼……是了、快把賤婢与那臭丫頭屍体一同拖下江去了。
衆人：是。
趙福：爵爺、如今小姐已死、倘若他日、王爺与夫人追究起来、那時如何是好？
俊強：嘿嘿、本爵爺自有主意、衆人可暫回府中、再作計議吧。
衆人：是。

第九場

中軍：小女子、醒来！　醒来！

賽英：（唱）朦朧間、聞呼喚、魂魄悠悠、去復還。

中軍：咪咪咪、小女子！　巡按大人在此。上前参見吧。

賽英：哈、是巡按大人。

郭佳：你這女子、姓甚名誰、因何来此投江自尽？

賽英：這麽……（唱）聞道巡按在眼前、我要訴冤、却費思量、奴若説出真名姓、家醜遠播、連累老爹娘、双親雖是正気凛凛、怎肯割捨、骨肉情長、悪兄罪孽如山海、賊子不誅、乱了綱常。

郭佳：哈、你這女子為何沈吟不語。

賽英：這麽……是了、大人容禀。（唱）小奴名字叫紫娟、要告王府公子趙俊強。

郭佳：你告的誰。

賽英：告的是安邦王趙子卿之子、趙俊強。

郭佳：哎嘘、你告他何事？

賽英：可恨賊子趙俊強、倚仗父勢、無法無天。強搶小奴進王府、他行同禽獸要害善良、奴守堅貞志不改、触怒賊子昧喪天良、把我沉溺大江図滅口、幸得大人救我回陽、賊子横行、江南百姓多苦難、求大人拯救蒼生、誅豪強。

郭佳：哎呀……（唱）聞斯言、暗徬徨、聞斯言暗徬徨、此案関連安邦王、趙王爺与夫人、丹心耽耽、朝野上下同欽讃、因何児子多作孽、残害百姓罪悪如山、本院受案鋤暴虐、他日何顔回見趙王、倘若王爺翻了臉、那時正似列擊太山。（重句）

賽英：賊子無法無天、求大人除暴安良呀！

郭佳：哎怎！　吧吧吧、誅豺狼、雪民冤、正気浩然、那怕這道路艱難、是了、本院自有道理、左右、官船暫泊蘇州城外、候諭行事。

衆人：領命。

第十場

俊強：巧排看餌設圈套、管教鰲魚来上鈎。
薛虎
郭豹：那個江南巡按、若到此、諒他去得去不得也。
俊強：憑両人、暫避房外、聴令行事。
郭豹
薛虎：是。
家人：先生這裡来……引路。
郭佳：正門不走是何意、後門入令人疑。
趙福：公子、売卜先生来了。
俊強
郭佳：啊……
趙福：先生、這位便是阮家公子。
郭佳：啊、参見公子。
俊強：請教先生大名、仙郷何処？
郭佳：不才姓張名揚、人称張半仙、金陵人氏。
俊強：原来是張先生。
郭佳：李公子。
俊強：唔、你叫何人？
郭佳：啊、公子不是姓李麼？

俊強：哈哈、先生、学生正是姓李。

郭佳：這……李公子、今日相邀、有何賜教麼？

俊強：聞説先生観相断吉凶、測字知禍福、甚為霊驗、故此有労先生到此指点迷津。

郭佳：李公子、今日要観気色、還是要測字呢？

俊強：有労先生、先観気色吧！

郭佳：吓好、待吾来、（唱）公子印堂発異光、今日出言欺騙人、你身本来非姓李、仮名換姓為那樁。（重句）

俊強：這麼、請先生再為我測字吧。

郭佳：如此、請公子随筆写下一個字吧！

俊強：吓好、待我来写、先生、字已写好、你就測来！

郭佳：啊『強』字、強字。

俊強：不錯、就是這個強字、先生測的怎様？

郭佳：這、這、這……是了、公子請聴道、（唱）強字筆劃太不祥、弓帯身側、怕自傷、再測強字、甚不妙、公子作事喪天良、有人遭你弓中死、有人被你害得投水与懸樑、只是強弓快箭、勢将発公子你。凶多吉少在眼前。

俊強：哎唷……哼！　如此説来、我趙俊強。

郭佳：啊！　哈哈、公子如今、不是姓李、竟然自己道出姓名来了。

趙福：正是爵爺！

郭佳：既是王府公子、方才因何仮名換姓呢？

趙福：皆因你、先把自己名姓改了。

郭佳：此話怎講？

俊強：嘿哼！　巡按大人、你莫以為、只有你能看相測字、須知学生也有先知之機呵。
郭佳：你……
俊強：哈哈、你就聴了。（唱）遵声我的巡按大人、且莫把真情隠瞞、誰不知、誰不知郭佳巡按、奉旨出巡到江南、数日来、你
　　喬装相仕在街上、査東問西為那樁、事不関已勧你莫多管、多管閑事、只有自惹麻煩、自惹麻煩。
郭佳：哈哈、既然公子、已知詳情、我也莫須再隠了、勧你随我同到府衙結案吧！
俊強：哼嘿、你這小小巡按、亦不敢在太歳爺頭上動土。
郭佳：唔！　難道你！
俊強：哎呀！　郭佳呀！　小子、你這小小巡按、与我趙家作対、管教你、死在瞬息了。
俊強：来人呀！
薛虎
郭豹：来了。
衆人：爵爺、有何吩咐？
俊強：快把這個有眼無珠的小子、活活打死！
衆人：遵命。
郭佳：哎呀！　哎呀！
俊強：天堂有路你不去、地獄無門自進来！　哈哈！

第十一場

内声：万歳臨朝。
昭宗：（唱）醉郷夢正酣、鐘鼓響叮噹、惊醒了朕這個小帝皇、定国有夫人、安邦有趙王。寡人穏坐江山、太平年、該安楽、為

何故。鐘鼓声、喧、咳咳、無奈何、叫内侍、擺駕上金鑾。（重句）

太監：領旨。

衆臣：吾主万歳万万歳！

昭宗：衆卿、平身。

衆臣：謝万歳。

昭宗：衆卿、今早設朝、衆卿有何参奏？

世光：臣右丞相劉世光、有本進奏。

昭宗：右丞相有何奏陳。

世光：啓万歳、臣奉旨取考、挙子陳広才、学冠翰苑、壮士李志、武芸出衆、経已点中文武状元、望主聖鑒。

昭宗：如此、内侍、宣召文武状元、上殿見駕！

太監：領旨、伝旨。文武状元、上殿見駕。

内声：領旨。

広才：虎口余生標金榜、壮志乍酬雪仇冤。

賽英：易釵而異朝帝闕、誰識鬚眉是紅顔。

広才
賽英：年兄請了……唔、

広才：他身為何、好些面善。

賽英：他怎知道、同是患難之人。

広才：臣　文状元、陳広才

賽英：　武状元、李賽英　見駕、吾主万歳。

昭宗：二卿平身。
広才
賽英：謝万歳！
昭宗：二卿乃是当今国士、社稷棟樑、望二卿丹心赤胆、輔報聖朝、正是寡人之幸也。
広才
賽英：謝万歳！
世光：咪咪、這位乃是、安邦王趙王爺、上前相見。
広才
賽英：是、晩生参見王爺。
少卿：二位請莫多礼。
昭宗：衆卿、有本進奏、無事退朝。
呂桐：万歳、臣兵部侍郎呂桐、有本進奏。
昭宗：呂卿、有何奏陳。
呂桐：万歳呀、（唱）江南節度遞来表章、呈奏聖上聴端詳、禍只因、官宦貴族特権執、逼百姓遭顛連、落草聚義梁山上、首領名字方正天、招兵買馬声勢大、危害州府、為患不浅。伏乞聖朝調兵遣将、剿除匪寇解倒懸。
昭宗：唔、盗匪猖狂、真是豈有此理。
毛松：万歳！　臣陳義大夫毛松、有本進奏。
昭宗：毛卿、有何奏陳。
毛松：啓奏万歳。郭佳巡按、奉旨巡狩江南、接得冤案多宗、只因案情重大、故而郭巡按喬装暗訪、誰知一去多日、音訊全無、看来兇多吉少了。
衆官：唔唸、那還了得。
昭宗：聴々々々、聴聞言来心暗驚、嚇煞了朕這条小金竜、才喜得忠臣良将輔邦国、朕穏坐竜亭、享受太平、到如今、這辺奏説

匪寇行叛逆、那辺奏説巡按踪跡不明。怕只怕朕這竜亭難安穏、忙忙叫声安邦王噲、朕的趙老賢卿。

少卿：万歳。

昭宗：這両樁大案、卿代寡人細調陳。（重句）

少卿：這麽！　梁山叛逆及巡按失踪之事、皆有関連、吾主宣勅令忠臣良将、即下江南、査察此案、方免危害社稷安寧。

昭宗：老賢卿、朝中文武、誰可負此重任？

少卿：新科文武状元、乃是当今国士、正可負此責任。

昭宗：老賢卿奏得有理。文武状元聴旨。

広才
賽英：万歳。

昭宗：朕封文状元為江南巡按、即日南下査察民情、並行訪尋前任巡按踪跡、另封武状元為平寇大元帥、領兵三万、前往征剿梁山。

広才
賽英：万歳、臣有言進奏。

昭宗：唔、二卿有何奏陳。

広才
賽英：啓奏万歳、若要臣等接旨效聖命、惟恐冒犯朝中大臣、望主聖鑒。

昭宗：她！　王子犯法、罪同庶民、就算朝中権貴大臣、国戚皇親倘若犯法、朕当按律厳辦。

広才：如此、先参奏朝中大臣。

昭宗：卿家、参奏何人？

広才：参奏……

少卿：吔！　陳巡按、聖上如今、授命於你、有何参奏無妨直説。

昭宗：是呀！　卿家不必驚怕、速々奏来！

広才：吓好、万歳、微臣斗胆、参奏安邦王趙少卿。
衆人：唔。
昭宗：哎怎、你……你真好大胆了。
賽英：万歳、臣也参奏安邦王。
衆人：啊！
昭宗：咦呀——你——你的胆量、倒也不小啊！
少卿：哈哈……二位状元、堪称当今賢臣、可敬、可敬、只是参奏老夫何来？
昭宗：是呀！安邦王忠心報国、朝野同欽、陳李二卿、参奏他什麽呢。
広才：万歳呀！（唱）王爺他、他縦子不法、三吳地、江南百姓、慘無天、児子恃父勢、官府法難施、趙俊強無悪不作民痛恨。
他害得多少良民遭流離、昔日微臣、也嘗遭迫害、如今冤案消沉海底。微臣来自三吳地、趙王子罪跡外知機。
賽英：趙王爺、雖是丹心報君国、那知道、児子害得人骨肉折離、民以食為貴、那堪無辜受苦凄、皆因黎庶多災難、逼的人上山去聚義、這不是趙王爺之過失、且問這趙俊強是誰家児。（重句）
少卿：哎唷、聞斯言、波濤驟起、他等奏言、使我暗驚疑、我暗驚疑、児女遠離三吳地、老夫待君東京畿、安邦定国、伝朝野今日裡、也受告罪在丹墀、莫不是逆子真的多作孽、肆行。妄為、無法無天、倘若是他等奏言皆属実、老夫教子無方、罪難辞、治家不厳、怎輔国。枉受爵禄、英名尽掃地。（重句）
昭宗：老賢卿、拠文武状元所奏、卿家有何奏言麽？
少卿：万歳、老臣久居京師、児女遠離三吳、状元所奏、倘若属実、老臣決不担護逆子、臣願請旨南下、協同新任巡按、査察此案、望主准奏。
昭宗：如此甚好。陳、李二卿、即与安邦王同下江南、無的違旨。

広才
賽美：領旨。
昭宗：退朝。
衆臣：請駕回宮。

第十二場

俊強：唉！前日命趙福衆人、殺絶素月、不遂、無異縱虎帰山、眞是為患不浅呵！〔内声：走呀……〕
趙福：爵爺、爵爺！
俊強：何事？
趙福：前日俺等追殺陳広才小子、孰料他死裡逃生、進京赴考、得中榜首、朝廷因前任巡按失跡、聖上勅封陳広才為巡按、来到江南了。
俊強：怎説、此事果真麼？
趙福：正是。
俊強：哎唷。
薛虎：爵爺、爵爺。
俊強：何事驚慌？
薛虎：爵爺、適才我身在外、聞説老王爺与夫人一同回府来了。
俊強：哎唷、陳広才奉旨下江南、爹爹母親怎麼也是此時回府、此事必有蹺蹊、必有蹺蹊呀！〔内声：走呀！……〕
郭豹：三省巡按陳広才帯同軍兵、匆匆向王府而来了。
俊強：当真！

郭豹：正是。
俊強：哎唬！
家人：啓禀爵爺、軍兵、把将王府団団囲住了。
俊強：哎唬、王府被囲麼？
内声：報――巡按大人到。
俊強：哎唬――他来了、他来了。
俊強：啊！　不知巡按大人駕到、有失遠迎、恕罪、恕罪。
広才：免了。
俊強：唔。
広才：来人、四処搜査。
兵丁：遵命。
俊強：慢！　你豈知這裡是何所在？
広才：哼嘿！　皇命在身、就算是安邦王趙王爺到此、本院也是要搜査的。
俊強：吓這……這！　哼！　我双親已請旨南下、既要搜査、就待我双親到来。
内声：報――王爺夫人駕到。
俊強：　迎接　爹爹、母親。
衆人：　王爺、夫人。
仙珠
少卿：免了。
広才：参見王爺夫人！

少卿：陳巡按、請莫多礼。

広才：是！　卑賤君命在身、故此先到一歩。

仙珠：唔――巡按大人光臨、趙門増輝不少、只是怎麽命了軍兵、把我王府、団団囲住、此是何故？

広才：卑賤巡撫江南、各事、夫人諒已知道了。

仙珠：大人雖是奉旨、巡撫江南、対我趙家、也須尊重此。

広才：這個！

俊強：爹爹母親、這小子尚要、搜査府第啊！

少卿：唔、巡按大人尚要搜査府第麽？

仙珠：

広才：卑賤奉旨行事、望王爺夫人、見諒、見諒。

少卿：

仙珠：這麽！

広才：左右、快快搜査。

衆兵丁：喳。

仙珠：且慢――搜不得、搜不得。

広才：夫人、怎、搜不得。

仙珠：大人雖是奉旨行事、這望旨上可有示諭、搜査我趙府麽？

広才：這個！　夫人、事困郭巡按失踪、王府実然可疑之地、故而細査一番。

仙珠：倘若査無可疑之處、那時大人、可担当得起？

広才：那時夫人、再見罪未遅。

仙珠：這個……

少卿：罷了、夫人、陳巡按賤責在身、使由他搜查吧！
仙珠
俊強：王爺、爹爹你！
広才：謝王爺、左右查来！
衆兵：遵命。
俊強：哎呀——爹爹你。
少卿：哼、都是你這逆子做好事、今日才致到如此。
仙珠：王爺、可喚出女児、問個詳細吧！
少卿：不錯、家人！快請出小姐到来！
家人：王爺、小姐他！
少卿：她在那裡？
家人：她……
俊強：妹妹她……她出外射獵去了。
仙珠：哈……有這等凑巧！
少卿：哼！看他神色愴惶、其必有蹺蹊。
俊強：吔！
仙珠：吾仔、你該快快実話説。
俊強：妹妹她……
広才：好了、好了。王爺夫人、請看看這是什麽？
少卿
仙珠：哈；金印。

広才：正是金印、請王爺詳細一観吧。

少卿：江南巡按、郭佳印鑑。（重句）

衆人：哎唷。

少卿：見這、見金印肝胆寒、莫不郭巡按真個在此罹難、罵声逆子好狂妄、料你命喪瞬息間。（重句）

仙珠：見此情使我暗惊惶、鉄証如山伸弁難言。咳！　俊強我的児嚕！　究研其中何縁故、快快実講莫包蔵。

俊強：吓……

少卿：哼！　你這畜生無法無天、真是累害了爹娘呀！

広才：王爺夫人、適才問、細査真相、後園中、査出各事令人心寒。石牢之中、白骨纍纍、不知害了多少人、這付骷髏干係便大、待卑職細説因端、仮山傍梧桐樹開黄土、惊煞人血肉已散存白骨。只見金印陥在骨骼中、這金印乃属郭巡按、可見得郭大人已在此地罹難、怪不得江南百姓怨声載道、王爺夫人豈知端。（重句）

少卿：唔！　有何謡伝麼？

仙珠：

広才：曽聞道；趙王府可算是人間地獄、趙俊強乃是活閻王。於鉄証如山海、請問王爺夫人、尚有何言。（重句）

少卿：咳！　逆子罪犯属実、老夫決不循私、陳巡按可按律執法吧。

広才：如此、下官倒要借重王府大堂、作為按院行轅、望王爺許允。

少卿：大人請便。

第十三場

広才：好呀！　吩咐升堂。

衆人：領命。

広才：王爺夫人、今日本院、代天子繩法在此、敢労二位一同陪審。
少卿：如此、老夫、妾身一旁聴審。
仙珠：
広才：咪！　左右、帯一衆人犯上堂。
衆兵：領命。
中軍：稟人犯押到。
広才：咪咪！　趙俊強。
俊強：巡按大人！
広才：你恃勢欺圧百姓、害得三呉、惨無天日、還有那柳家搶親之事、豈知罪麼？
俊強：這……我身知罪、望大人開恩赦罪。
広才：還有那巡按、是怎様被你害死在王府之内、従実招来！
俊強：這……這是我身、一時錯手、犯下大罪、望巡按看在我爹爹母親面份、開恩赦罪。
少卿：住口、畜生你、你今日還有父母唔？
広才：咪呀、劃供。
中軍：領命。
俊強：這……咳吧了。
広才：趙俊強、罪大悪極、殺人償命、趙福、薛虎、郭豹等、為虎作威、同罪問斬。
衆兵：吓。
仙珠：
俊強：爹爹、母親救命。

少卿：哼！

仙珠：王爺、仔児死在傾刻、難道王爺、袖手不救麼？

少卿：哼、逆子罪無可赦、該斬該斬。

俊強：咳、爹爹母親、須念趙門、惟我一脈啊……

仙珠：児呀——

俊強：母親。

少卿：這一言如地裂山崩、惊醒了這夢中人、按律執法逆子、一命喪、趙門香燈靠何人、若要循私、綱紀乱、好教老夫開口難。

仙珠：王爺呀……趙門唯一脈、仔児一死、香燈断。俺二老桑榆暮景、怎忍晩年甘旨無人、枉俺夫妻、数十年沙場汗馬保邦国、今日裡、難保仔児一命在此間。

少卿：夫人呀。（唱）恨逆子不法、恨逆子不法、罪大如山、神人共怨、天理循環有報応、条条王法、王法条条、饒他難。

仙珠：逆子雖然受極刑、国法不離人情、俊強一死後裔絶、何忍得你我晩景同飄零、多年来、俺只知丹心赤胆輔邦国、也難辞這教子無方之罪名、昔知終局、是如此、這堂上御賜扁額有何用。

少卿：這麼、啊安邦定国、安邦定国、真個是清官難断自家案、這匾額使我触景傷情、誰不知我数十年夫妻同患難、戎馬生涯為国效命、定国有我馮氏賢夫人、安邦是趙少卿、好夫妻忠勇報君国、只望万古流芳名、如今逆子罪孽重、循私袒護、有損英名。

仙珠：咳！王爺啊王爺、俺夫妻数十年来臣国保民、今日難保児子一命、断了趙門香燈、問你何顔対得住這趙家先霊、王爺吓。

仙珠：難道巡按大人、却不存点情面麼？

広才：咳、王爺夫人呀、非是本院不留情、此案関連千万重、趙俊強、欺圧百姓、罪悪大謀害巡按、罪犯期朝延、還有這府中賢

小姐、堪称当代一女英、前日本院府内険遭害、是他救我虎口逃生、如今小姐、不在府内、看来其中有隠情、本院静心細思忖、小姐他、凶多吉少険重重。

少卿：這麽、陳巡按説得有理、逆子！　你妹賽英、他……究竟在那裡？

仙珠：

俊強：她、她……

第十四場

中軍：報――李元帥駕到。

旗牌：知了、啓禀大人、李元帥到来求見。

広才：如此、有請李元帥進見。

旗牌：是！　哈、有請李元帥進見。

内声：来……

賽英：抬安梁山酬素願、再闖大堂誅豺狼。

俊強：哎呀、鬼呀、鬼呀――

衆人：唔！　你――你説什麽？

俊強：爹爹母親、她……

仙珠：呀！　李元帥怎麽、好些面善呢……。

賽英：参見王爺夫人、巡按大人。

広才：

少卿：李元帥請莫多礼。

仙珠：

賽英：是。

広才：李元帥奉旨、径剿梁山、今日大駕光臨、有何賜教。

賽英：事因梁山王、有一女子名叫林素月、言談之中、与陳巡按查辦王府之事、有些関係、故此本帥特帯林素月来此、拝見巡按大人。

広才：這麼！　吔好！　咪、伝見！

中軍：是、哈！　林素月進見！

内声：来！

素月：苦盼青天開明眼、昭雪沉冤告豺狼、叩見青天大人。

広才：啊！　你便是林素月麼？

素月：正是苦命人。

賽英：林素月、堂上使是巡按大人与王爺夫人、你有什麼冤情、可従実説来！

素月：王爺夫人、伸冤可憐。

少卿：快把詳情、従実説来。

素月：跪倒塵埃、訴苦情、王爺夫人、聴分明。奴売身王府、為婢女。恨俊強他、狼心狗行、汚佔小奴、又再行拋棄、苦命紅顔、抱恨終生。誰知道、誰知他天良喪尽図滅口、青松山下、要殺奴喪生命、幸遇救星、救山、梁山去、権得棲身。産下小児嬰。李元帥、招安梁山相勧導、才喜得雲開霧散、見晴明、小女子冤情如山海、望巡按大人与王爺夫人、同憐情。

少卿：哼！　你這逆子、真是禽獣不如呀！

広才：趙俊強、罪大悪極、本院如今按律執法、王爺夫人諒異議啊！

少卿

仙珠：這麼！

俊強：爹爹母親！

少卿：嗡呸、你這逆子、天良喪尽、死有余辜呀！
俊強：這麼、是了、爹爹、母親、孩児死得不瞑目、啊！
衆人：唔、此話怎講？
俊強：咳！　爹爹、母親、只因家醜不外揚、児為顧門風、児所作所為、乃是事出無奈的。
少卿
仙珠：唔、何出此言。
俊強：事到如今、不得不説了。可恨素月賤婢、淫蕩成性、勾引那個什麼郭巡按、進入王府、児為維家風、才殺郭巡按、素月被
　　她逃脱、她今自投羅網、爹爹、母親、切莫寛容賤婢。
少卿
仙珠：唔、有這等事。
俊強：全無虚言。
素月：哎呀！　賊子竟然血口噴人、望青天大人明察、明察呀！
広才：這麼……
賽英：哈哈、趙爵爺此言、説得有些含糊了。且問你、素月何時被你趕走、郭巡按何時進入王府的。
俊強：這個。
広才：趙俊強、須知誣陥大臣、罪加一等啊！
俊強：這麼——、是了、我要教陳広才小子頂上那頂烏紗、不能安穏。待吾来、爹爹、母親、孩児有話説。
少卿
仙珠：快講。
俊強：爹爹、母親、您等豈知陳巡按、乃是一個登徒浪子。
少卿：唔？
俊強：他昔日私通妹妹在府中、孩児察破案情、把他囚攀石牢、誰料他……

広才：住口、你這賊子、悪貫満盈、竟然揑詞翻供、企図誣譏本院麼？

仙珠：王爺、此事看来、委曲重重、理当辦個明白啊！

少卿：這麼？

広才：夫人、難道你竟信他一派胡言麼？

仙珠：巡按大人、且看妾身薄面、此案押候日後、尋得我女児踪跡、辦個詳細、逆子罪無可赦、那時行刑未遅啊！

広才：這麼！

賽英：天網恢恢、那容賊。逍遙法外、恁可看看、我是何人？

少卿
仙珠：唔——是女児。

広才
素月：唔——是小姐。

俊強
衆人：唔——是她。

賽英：爹爹、母親。

少卿
仙珠：女児、你、你為何女扮男装？

賽英：咳、爹娘吓、（唱）提起往事淚落潸潸、把苦情禀告双親大人、恨兄長、横強不法、我良言苦、勸他皆当那耳辺風、柳家搶親謀害人命、是我放走巡按陳大人、江辺勸兄縣崖勒馬、他竟揮戈相向、人性尽喪、可憐紫娟、無辜作我代死鬼、悪賊他又把我沈溺大江中、幸遇来了郭巡按、搭救我命免慘亡、那時間、我為家声訛名姓、怎知害了巡按郭大人、郭巡按喬装查案、進京中、甲場比武奪得魁首、留得此身告豺狼、咳、爹爹母親噲！　罄竹難書悪賊罪孽、今日正該送他刀下亡。

少卿：逆子你呀！　聞斯言、火焚胸膛、聞斯言火焚胸膛、激得老夫、激得老夫、怒髪冲冠、罵逆子傷天害理、罪深大。世上難尋你這悪豺狼、趙門不幸才有這不肖子、畜生你今死的無憾！

仙珠：你！　你罪大悪極難改寛、幸負了爹娘一片心願、自家兄妹何忍下絶手、你非是趙家好児男、歴歴罪証難遮衆口、赦你死

罪難上難、莫来命中該如此、痛煞了、這忠肝義胆老邁人。

賽英：母親。

広才：王爺、夫人呀！（唱）於今罪証如山、趙俊強、難逃法網、本院按律執法、王爺、夫人、諒再無怒言。

少卿仙珠：罷了、請巡按大人、按律執法。

広才：吔好、咐左右、把趙俊強一衆、押出斬了。

衆兵：啊！

俊強：哎咋。

合唱：俊強妄法沉地獄、素月撫孤継香、丁継香丁、趙賽英大義滅親、安邦定国万民欽、万民欽。

87 原文（荘吉発『清代天地会源流考』二一頁引）。

拠署穎州知州李元祥稟称「訪得州万霍邱県葉家集地方、有愚頑多人聚衆結盟、名為鉄尺会。有高二、王三酒、宋大漠、郭長腿等数十余人於閏四月二十二日在丁届遠家拝盟会酒演戯、前搭布蓬十座、各執鉄尺一根、高二、王三酒居中擺列扁担二条、以作刑杖、凡不聴指揮者、以扁担責之。五月十二、十三等日、又在菜園内演戯三本、在王二酒家聚会、共有二十余席。

88 原文。

洪門之拝会、則以演劇為之。蓋此最易動羣衆之視聴也。其伝布思想、則以不平之心、復仇之事導之。此最易発常人之感情也。其口号暗語、則以鄙俚粗俗之言以表之、此最易使士大夫聞而生厭遠而避之者也。其固結団体、則以博愛施之、使彼此手足相顧、患難相扶、此最合夫江湖旅客無家游子之需要也。而最終乃伝以民族主義、以期達其反清復明之目的焉。

89 原文。

有粤伶李雲茂者、又名文茂、鶴山県人。世代俱為名優。雲茂体雄力健、声若洪鐘、紹父業為二花面、以善演蘆花蕩張飛及王彦章撐渡、有声於時。而軽財尚義、頗有江湖侠気、又精武技、遂為班中打武家領袖。李文茂初聞洪氏起義已躍躍欲動、及晤密

使、認為時機已至、及率班中同志、組反清軍会合仏山陳開起兵響応太平天国。陳開夙好結納江湖豪客、至是屠狗埋椎之輩、雲湧風従。各郡邑土匪及不逞之徒、附者達十万人。声勢甚盛。李文茂編班中健児為三軍、小武武生等為文虎軍、二花面六分等猛虎軍、五軍虎打武家等為飛虎軍。文茂穿班中蟒袍甲冑称三軍主帥、梨園子弟倶衣冠戯服従之、済済蹌蹌、居然文官武将、花旦女角則戴七星額着女蟒袍為女官、蓋謂反清復明、当先復明衣冠也。李文茂勇敢善戦、領梨園子弟兵為前鋒、争城掠地、所至有功、利用班中跟斗超躍之技、翻登城垣、守卒猝覩飛将軍従天而降、咸驚惶失措、棄兵而逃。以是所向披靡、勢如破竹、広恵属十四州県及肇慶府倶為所佔。徒党既衆、戯服不敷、乃下令士卒一律紅巾約首以代冠盔、世所称「紅頭賊乱」者是也。

李氏大軍囲攻省城、久而不克、卒為総督葉名琛参将衛佐邦、肇羅道、沈隷輝、及南海順徳国勇謝効荘等所敗、仏山失守、陳亡者数万人。賊過如梳、兵過如篦。鋒鏑焚劫、梦乱如麻、粤民遭殃者不下二十万人、洵広東空前浩劫也。

時広西会党首領梁培友（粤鶴山人）適新敗于右江道張敬修（亦粤人、籍東莞）率衆沿江東走肇慶、乃与陳開、李雲茂聯合。張敬修接踵追撃、遂棄肇慶、過梧州而入藤県、拠大黄江仍擁衆数万人、時則咸豊五年四月事也。

90　原文。

李雲茂与陳梁入桂後、合力攻潯州（即今桂平県）囲城九十余日。於八月間破之。陳開拠潯称鎮南王、建号大成。梁培友拠平南県、称平南王。李雲茂率部西進連破附近州県、復聯合広西股〔艇〕匪、勢復盛。九月由象州（即今象県）攻佔柳州。十月、自立為平靖王。

91　原文。

粤劇瓊花会館、始於万暦年間、一設設粤東南仏山大鎮大基尾、一設広州沙基広埠、目的為謀芸人之団結、研究芸術。迨太平天国洪秀全在仏山起義、当時粤劇有「小武」李文茂、呉鷹揚、肥仔存等恨清廷之専制、遂召集梨園子弟、響応洪師、投身太平軍中、有以借粉墨登場而現身説法、鼓吹宣伝革命工作、有以利用戯班流動而聯絡革命志士、伝達消息等任務。旋因洪秀全失敗、清廷仇恨粤劇戯人、毎遇必殺、且下令焚燒仏山之瓊花会館、広州之瓊花会館亦遭折毀、充作公産（即広州之六二三路直

街)。

92 原文。

仏山是粤劇的発源地、早在明代。粤劇戯班已在仏山逐歩形成、很受羣衆的喜愛、従来戯班不但在仏山演出、還到四郷。仏山処於珠江三角洲水網地帯。戯班下鄉都要坐船、為了便於識別。戯班船都髹上紅色、被人称為「紅船」。粤劇芸人也被誉為「紅船子弟」。明嘉靖年間(約公元一五二二年)、粤劇班成立戯行建了一間会館、名叫「瓊花宮」(後称瓊花会館)。反清王朝的北方南下的革命志士和長江以南各省人民、組織了「天地会」、開展地下鬪争、広東是「天地会」重心。許多革命志士都隠伏在戯班中、因当時戯班的社会地位低微、在戯班中便於掩護、又可接近羣衆、仏山「瓊花宮」一度為広東「天地会」的地下司令部。

清初北京有位名伶張五、別号攤手五、因不満清廷專制、登台演戯時常々在戯文中加進一些議論、以抒発抑塞不平之気、被清廷発賞、要緝拿治罪。張五易服化装、逃亡仏山、落脚「瓊花宮」、他把京戯的技芸和昆曲唱腔教給紅船子弟、又仿效漢劇組織改革粤劇班。使粤劇從戯班組織到芸術水平都獲得提高、成為一種較為完善的劇種。另一方面又組織反清力量、而当時一股反清力量、是来自河南嵩山少林寺的和尚。少林和尚反清失敗南逃流落仏山、他們把少林拳術教給紅船子弟。

一八五四年、仏山天地会領袖陳開(老馬)和他的副手李文茂率衆起義、仏山参加這次起義的手工業工人達四万多人、紅船子弟大部分加入了天地会也有数千人。還有九十多条船的漁民和水上運輸工人、起義大軍很快便佔領了仏山、還在経堂寺建起了都督府。但這次起義很快被清廷鎮圧下来。「瓊花会館」被焚、紅船子弟大批被殺害、粤劇也被取締。

清軍隊重佔仏山乏後、燒了四十八条街。把「瓊花会館」廃墟和附的醬園工場作刑場、屠殺了数万人。粤劇被取締、一直到清同治七年、才獲解禁。

93 原文。

当其時也、幸頼有一部份接戯人員、如施公正、馬東林、徐汝江、何標、謝北等、目覩我粤劇界同人、遭遇如此不幸、深恐粤劇前途、因此消滅、乃祕密嗟商応付及挽救方法……。施馬諸君廹得由仏山至広州黄沙同徳大街、臨時租賃一燈色店舗之中座、

作為辦事処、依照商得之計劃、将粤劇改名為京劇、因当時借用梨園京班名義、以掩飾清廷之注意也。結果暗中分函通知粤劇同人、秘密来広州集合、組織京班、以謀生活。因此幸得恢復営業、但乃懐於清廷之淫威、不敢公然表演、故当時極力研究京腔、所謂唱京腔、用官話道白者、始自其時。殆純為掩飾清廷耳目計也。至所有招接各郷抬脚生意、統由慎和堂、各老前輩之接戯員、惨淡経営、同時更謀永久経営計、乃復在接戯条約中増加規定、訂収公款、每天現収登記銀五銭、現収点心銀五銭、每枱現収登殿銀四銭四分、紅鶏銀一銭八分、上列各款規定収費、統由定戯主会方面如数繳交。另每本加収班東班号銀三毫。蓋此款実為預備恢復粤劇之基本金、因当日班業日漸発達、営業興旺、所収各款、因之日多、為昭示定戯之主会信用起見、已由同人決議成立吉慶公所、高懸承接大小京戯招牌、以広招徠、日積月累、所収公款更鉅、遂由当時之接戯員各老前輩会商、図謀復興粤劇辦法。因当時清廷仇視梨園子弟之心理、乃漸為鬆弛、在経済方面、公款積存之数、亦足以購地建築房屋産業、以為今後粤劇同人有立足、営業謀生之基地。当時各接戯員復提出諸多籌款辦法、集腋成裘、所得益夥、乃於満清同治六年、先後将所有公積金及所籌得之銀両在広州黄沙承祥坊購地空地、共三百八十余井。并用吉慶公所名義号召、対各郷之抬脚、信用提高、生意順利、班業日見興盛、而劇界同人、日逐増加、収入更多、旋由全体同人発起建築吉慶公所、以奠基業。雖工程浩大、但在各前輩接戯員及粤劇同人苦心孤詣毅力籌募之下、不期年而吉慶公所終於完成、粤劇得以復興。

94　原文。

溯吉慶公所之落成、乃在清光緒十年、慎和堂之接戯員更於挙行落成慶典之日、全体粤劇同人聚首一堂之時、復倡議建築八和会館并各堂宿舎、以及先人墳落。

八和会館之籌備建築、係由吉慶公所当時召集全体粤劇界同人大会、公推鄺殿御（即武生新華、楊倫（即小生倫）、張啓（即小武崩牙啓）、古秋田（即武生大福）、易品山（即正旦金）等為籌備員、主持建築事宜。同時依拠同人大会議決、除徴収入行基金二元外、并以同善堂名義、設立千益会、每份会金三元、……籌備数載、至光緒十五年、乃即完成一美奐美輪規模偉大之八和会館。

95 原文。

An opera troupe normally travelled in a pair of Red Boats, known as 天艇 (Heaven Boat) and 地艇 (Earth Boat) respectively; later, when scenery began to be used and the wealthier players began to use their own private costumes (and also when women began to join the troupes) a third boat was commonly added: the: *waak-t'eng* 画艇 (picture boat, or scenery boat). The 天艇 and 地艇 are said to have been 80 Chinese feet (尺) in overall length and 10 Chinese feet wide. The *waak-t'eng* was smaller, and seems to have had no special features to distinguish it from most of the other medium-sized river boats of its day; it was not usually called a "Red Boat".

96 翁同文氏は「Origin of the "Red Boat" Treated by Prof. B. E. Ward」(一九八?) において、Barbara Ward 教授の上掲論文を踏まえ、紅船を天地会に属するものとした上、「太子位」を明朝皇帝の末裔たる太子を迎えるべき場所の意を寓するとする。しかし、華光壇に近いこの場所は、戯班が上演に際して地元の神々に捧げる「天妃送子」の人形（太子）を祀る場所と思われる。なお太子位は Barbara Ward 教授及び顧氏の図では二房あるが、劉国興氏の図では一房とする。一房が正しいと思われる。

97 原文。

（問） 你船来有幾隻艙？ 有幾条釘？ 幾多条篙？ 幾多条桅？ 那条為大為高？ 左有乜様？ 右有乜様？ 幾多張帷？ 幾高幾闊？ 幾人扶持？ 乜人作伴？ 住在某省某州？ 某姓某名？ 某日某時生？ 某処起岸？ 某人看船？ 有乜為証？

（答） 頭艙紅米、二艙紅柴、三艙軍器、四艙華光、五艙五祖、六艙関帝、左辺関平、右辺周倉、七艙二十一人、八艙壱百零八人、三塊板二百一条釘、五張篷、三堂櫓、六架槳、三塊底、四条篙、三条桅、中心義為大、左辺有仁義礼智信、右辺共同和合結万。吉十二帳帷、二丈一闊、一丈高。十八羅漢扶持、水公水母作伴。水公住在広東恵州大中堂、姓櫓名槳。正月十

五子時生。水母住在福建福州府海童寺、厦門人氏、姓柳名徳、八月十五子時生。因子午冲結為夫婦、長沙湾口渡頭、烏竜、江経過。三方起岸、付太平墟観音老母看船。

98 田仲一九八九年書一二〇二～一二〇七頁。

99 原文（田仲一九八九年書巻頭所掲合同）

竊惟、梨園歌舞乃昇平之事、雖跋渉江湖人俱安份安已、罔敢非為、所演戯齣亦本忠孝節義等劇、故実有啓発善心而懲創逸志也……

本班各伴到歩、及上落、如有被人打単擄掠等情、為主会是問。

100 原文。

明朝末年、李自成強兵破北京、明思宗（崇禎）媒山自縊、呉三桂引清兵入関、李闖敗亡、将蔵宝地図交武当大俠血掌神剣凌梓雲突囲而出。梓雲声絡八大門派（少林、武当、峨嵋、崆峒、天仙、崑崙、青城、終南）及天下緑林豪傑声响応福王（明永暦帝）起程抗清、奔走江湖、宝図未便携帯、遂交南嶽双凶之一、奪命無常苗金覇代為保存。事隔三載、羣雄択日起兵、梓雲命愛徒閃電金刀雷経緯前赴苗家索図掘宝、以作軍餉之用。

経緯奉師父命後、兼程趕赴南嶽苗家取図、途次、遇呉三桂侍衛長南嶽双凶之二、催魂使者雷万嗔発生激闘、万嗔技遜敗逃、経緯亦遭万嗔七日断魂毒針所傷、幸遇奪命無常之子、千里追風苗継業代為療治、二人竟成八拜之交、結為兄弟同赴南嶽而去。

奪命無常苗金覇心存大慾、欲拠宝図為己有、聞経緯至、遂使妻南嶽飛蛍陸彩虹義女凌波仙子苗秀嫻率壮丁扼守三重大門、以試経緯武芸、経緯芸高胆大、手掌金刀、勇闖三門、金覇不敢明与大門派為敵。又不甘坐失宝図、霊機一触、巧施美人妙計、使義女秀嫻、与経緯婚。欲使緯長困温柔郷内、書籍翁婿之情、逼緯献図讓宝、不惜将封存廿年之九環宝刀、贈嫻作為嫁粧、詎、継業暗恋秀嫻已久、聞訊気結、準備大鬧新房責経緯無義焉。

洞房春暖、経緯心懸正事、満懐愁緒、坐臥不寧、秀嫻為取悦個郎、概将装嫁之九環宝刀転贈英雄、経緯一見宝刀、当堂大叫

一声、昏含絶房中。嫻急救醒問故、経緯猶如瘋虎、追殺秀嫻、嫻含涙相詢、緯亦未慣摧花、悽然詳訴往事、原来緯生母竟是廿年前一代侠女、名喚金鈎嫦娥趙芷明、一夕、仇家悪闘、身負重傷、逃至武当山下巧遇血掌神剣凌梓雲、時経緯是嬰孩、尚在母懐中熟睡、芷明見梓雲後、知是一代大侠、遂将緯緯負托、謹能説出「仇人—玖環刀—児—姓雷」等八字、即気絶身死、及後経緯長成知悉身世、苦尋殺母仇人未獲、及賭九環刀後、驚覚嬌妻竟是仇人之女、岳丈原是殺母兇徒、嫻獲悉後、肝腸寸断、泣血陳詞、苦勸緯勿再生仇殺、寃寃相報、血債何期始了。弐人言語、竟遭来鬧新房之継業在窗外、竊聴、更引出金覇与緯対質、金覇担承是殺緯母仇人、但非元兇、主使者另有其人、相約於明夜寿誕宴中、指出主謀之人、已了此寃案。

寿酌筵開、羣雄雲集、緯単刀赴会、昂然不懼、金覇引出元兇、赫然是催魂使者雷万嗔、経緯仇人見面、上前搦戦、詛知万嗔悲呼我児、不已。緯莫明其妙、金覇遂笑言其故。原来廿多年前、覇与万嗔同是江湖巨盗、二人合夥廿載、形影不離、故有南嶽双凶之名、後万嗔投奔呉三桂、桂於重用、後桂引清兵入閃、事前為万嗔妻金鈎嫦娥所聞、苦勸万嗔勿助紂為虐、万嗔不聴、金鈎嫦娥憤而抱児女出走、万嗔恐事洩、飛伝江湖急令、使金覇截獲金鈎嫦娥、殺之滅口。

経緯聞訊之下、恍如晴天霹靂、呆若木鶏、万嗔更言、三桂欲得此図、逼緯献出、則金覇与父子三人、可得蔵宝之半数、且功名在望、如緯不従、則父子翁婿之情、一刀斬断。三鼓時份、燈滅人亡、緯見生父如同禽獣、悲憤莫明、奔回房中、掩門痛哭。金覇恐緯念父子之情、私将宝図献嗔、更欲斬草除根、務去緯而後快、逼使秀嫻駆図殺夫、秀嫻在淫威之下、強作負義之人、暗蔵匕首、俟機殺緯、以酬金覇廿載養育之恩。

玉漏催人、三鼓瞬即将至、緯痛下決心、拼死父刀下、決不献図苟私、束装待戦、留書与秀嫻賦別、書写間、秀嫻潜至、見状深為感動、不忍殺緯、反諭緯殺己、免難為左右、緯暁以大義、嫻終醒悟、夫妻携手、殺出三重荘門、寧為玉砕、不作瓦存。

金覇知悉秀嫻叛己、赫然震怒、誓殺緯嗔洩恨、経緯秀嫻雖得継業彩虹一面網開、奈何金覇坐鎮堂前、無能飛渡、一場悪戦、嫻与緯俱不敵。急々間、緯跌下宝図、金覇万嗔同撲前搶奪、万嗔悪念頓生、竟在金覇背後、猛施毒手、金覇驚覚無及、怒刺万嗔、一双老夥伴、互纏互死、同帰於尽、死時猶相視獰笑不止、合握一半宝図、含恨而終。幸彩虹深明大義、捐棄前仇、不但釈

経緯秀嫻、且与児継業率領南嶽羣雄、参加抗清義挙、共保明室江山焉。

101　原文（『天地会』(六)、二一九頁）

本院自考試以来、周歴各府、就所聞見、為爾等告焉。近来閩省邪匪如陰盤教、仁義会、三仙会、添弟会、拝香会、双刀会、百子会諸名目、悉被拿獲、其匪犯多聚于建寧、邵武二府之間、毗連汀之寧化、延之南平、竜渓、福州之古田、屏南等県、福寧一府亦有之。推求其故、只因建、邵諸処多荒山叢径、易于蔵匿。又崇安地近武彝、有茶利、衆民雑来、奸匪遂叢中煽惑之。其中固有興、永、泉、漳、下南諸府之人。而下南尚少会匪者何故？　蓋泉、漳之間、地近海浜、百姓晒塩、捕魚、猶可為生。又復聚族而居、小族附于大族、奸宄有所難容、故但出外為匪、而不能倡邪教于其郷里也。